水道損壞堙塞罪トハ公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞シ又ハ堙塞シタル罪ヲ謂フ(第一四七條)其成立要素左ノ如シ

(1)公衆ノ飲料ニ供スル淨水ナルコトヲ要ス(目的物

(イ)公衆飲料淨水ノ水道ナルコトヲ要ス、故ニ下水道及ヒ一私人使用ノ水道ヲ含マス、(ロ)水道ニ限レリ、故ニ一般淨水ノ汲取場例ハハ井戸又ハ小流等ヲ損壞堙塞スルモ本罪ヲ構成セス(第二六一條ノ損壞罪ヲ構成スルコトアリ)

(2)損壞又ハ堙塞シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)「損壞」トハ其物ノ實質ヲ損傷スルヲ謂ヒ「堙塞」トハ障害物ヲ加ヒ其效用ノ全部又ハ一部ヲ失ハシムルヲ謂フ、(ロ)損壞又ハ堙塞シタルニ由リ其罪ノ既遂ト成ル、之ニ因テ實害ヲ受クタル者アルヲ要セス、(ハ)故意ヲ要スルハ勿論也、

第十六章　通貨僞造ノ罪

通貨僞造ノ罪ハ行使ノ目的ヲ以テ通貨ヲ僞造變造シ又ハ行使交付輸入若クハ收得スル罪ヲ總稱ス(第一四八乃至一五三條)故ニ之ヲ通貨ノ僞造、變造ニ關ル罪ト區別スルヲ可トス、

本章ノ規定ハ內國ニ於テ通用スル貨幣、紙幣、銀行券ニ限ル、外國ニ於テ通用スルモノニ關シテハ特別法アリ(三八年法律第六號、外國ニ於テ流通スル貨幣、紙幣、銀行券、證券、僞造變造及模造ニ關スル件)

又通貨ノ僞造ノ程度ニ至ラサル模擬ニ關シテハ特別法アリ

(二八年法律第四號、通貨及證券模造取締法)本章ノ罪ヲ分テ(二)通貨僞造罪(第一四八條第一項、一四九條第一二項)通貨行使交付輸入罪(第一四八條第二項、一四九條第二項)(三)通貨收得罪(第一五〇條)(四)收得後行使罪(第一五二條)(五)僞造變造準備罪(第一三條)一五トス。

◎通貨僞造變造罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

通貨僞造變造罪トハ行使ノ目的ヲ以テ通貨(貨幣、紙幣、銀行券)ヲ僞造シ又ハ變造シタル罪ヲ謂フ(第一四八條第一項、一四九條第一項)

(1)通貨ノ意義ヲ問フ

「通貨」トハ國家ノ公認ニ依リ交換ノ手段トシテ强制ノ通用スルモノヲ謂フ。

(イ)其通用期限前又ハ通用期限終了後ハ通貨ニ非ス、但其期限前又ハ期限後トヽ雖モ其通貨ニ模擬シタル物ヲ以テ他人ノ財產ヲ詐取シタル場合ハ詐欺取財ノ如キ他罪ヲ以テ論スルヲ妨ケス、(ロ)通用期限終了後其交換期限內(二二年法律第一三號通用禁止貨幣引換期限ニ關スル件)ニ於テ之ヲ僞造、變造スル者ノ處分ニ付議論アリ

(一)積極說　交換期限中ノ貨幣ハ其適用ノ範圍ヲ狹少セラレタルニ過キスシテ尙納稅其他ニ對シテノ使用ヲ爲スコトヲ得ルナリ、故ニ之カ僞造ニ關シテハ多ク反對說アリト雖モ、貨幣僞造罪也トノ說ブランク學說氏ノ所說ヲ正當ナリト(岡田博士刑法講義所論要旨)

(二)消極說　通用終期後ハ法律上ノ流通力ヲ失ヒ單ニ事實上ノ流通アルニ過キサルヲ以テ通貨ト看做ス可キモノニ非スト(勝本、牧野其他ノ學諸者所說多數)

(2)外國通貨トハ事實上通用スルモノヲ指スカ又ハ法律上內國ニ於テ通用力ヲ有スルモノヲ指スカ、

「外國通貨」モ內國ニ流通スルモノニ限リ本罪ノ目的物トナル、

內國ニ流通スル外國ノ通貨」トハ事實上通用スル所ノモノヲ指スカ又ハ貨幣同盟ノ場合ニ於ケル如ク法律上外國ノ貨幣カ內國ニ於テ通用力ヲ有スル場合ヲ指スカニ付テハ議論アリ(後說ヲ多數トス)

學說

(一)事實流通說　人或ハ內國ノ貨幣ニ付テハ強制力ヲ要シ外國ノ貨幣ニ付テハ然ラサル所以ヲ疑フ者アルヘシト雖モ是レ畢竟內國發行ノ貨幣タル以上ハ當然強制力ヲ有スルモノニシテ任意ノ流通ヲフコトアルヘキ筈ナキモ外國ノ貨幣ハ任意ノ流通ヲ以テ原則トシ、時ニ貨幣同盟ノ行ハルルノ結果強制的流通貨幣ノ生シ出ツルコトアリ、故ニ外國ノ貨幣ト雖モ內國ニ流通スル事實アルニ於テハ常ニ本罪ノ適用アリト知ルヘシ(例ヘハ通常開港場ニ通用セラルル所ノメキスコ銀貨、清國ノ庫平銀貨等ハ本罪ノ目的物トナルニ於テ妨クナシ(勝本博士刑法拵義所論要旨)加之、新刑法ハ前條第一四八條ニ於テハ「通用」ノ文字ヲ用ヒタルニ本條ニハ特ニ「流通」ノ文字ニ改メタリ、之レ事實上任意ニ

流通スルモノヲモ目的物トナス法意ナルニ因ルト(或學者)

(2)公任通用說　通貨偽造罪ハ國家ノ公認ニ依リ交換ノ手段トシテ通用スルモノ卽チ通貨信用ヲ侵害スルモノナリ故ニ單ニ事實上流通セルモノノ如キハ本罪ノ保護ヲ受クヘキモノニ非ス、從テ任意ニ流通セル外國貨幣ノ如キハ本罪ノ目的物ト爲ラサルナリ、本條(一四九條)カ特ニ「流通」ノ文字ヲ用ヒタルハ外國ヨリ內國ニ入來リテ通用セルヲ以テナリ、是ニ由テ任意ノ流通ヲ本條ノ目的物トナス法意ニ非スト(岡田、牧野其他ノ法學者多數說也)

◉偽造ノ意義ヲ問フ、

「偽造」トハ眞貨以外ノ物ヲ材料トシテ眞貨ニ模擬セル物ヲ製出スルヲ謂フ、

(イ)偽造ノ材料ハ眞貨以外ノ物タルコトヲ要ス、然レトモ眞貨ノ原體ヲ失ヒタル物又ハ廢貨(通用期限ヲ經過シタルモノ)モ亦既ニ眞貨ニ非ス、故ニ之ヲ材料トシタル偽貨ヲ製出スルハ亦偽造ナリ、(ロ)其偽造ニ付テ權利ナキコトヲ要スルハ勿論ナリ、(ハ)其模擬ノ程度ハ一般ノ人ヲシテ眞貨ナリト思性セシムル程度ノモノタルコトヲ以テ足ル、(ニ)其製出偽貨ハ實際ニ存スル通貨ノ外觀ヲ有スルコトヲ必要トスルカ又ハ單ニ人ヲシテ通貨ト信セシムルニ足ル可キ外觀アルヲ要スルカニ關シ議論アリ、

(一)眞貨實在不要說　通貨偽造ノ罪ハ通貨ノ一般的信用ノ信用ヲ侵害スル罪

ナリ、故ニ單ニ人ヲシテ實際ニ存スルモノナル可シト思惟セシムル程度ノモノナルヲ以テ足リ、必スシモ其偽ハリタル眞貨ノ實在スルコトヲ要セスト(リストガールスハウゼン小畷、牧野諸氏同説)

(二)眞貨實在必要説　偽造ノ一般的觀念ヨリ論スレハ必スシモ模擬セラルヘキ眞物ノ存在ヲ要件トスルモノニ非スシテ之ヲシテ眞物ナリト誤信セシムルニ足ル程度ノモノタルヲ以テ足ルト雖モ、通貨ノ如ク寒村僻地タルト繁華ノ都會タルトヲ問ハス老幼貴賤ノ別ナク一般世人ノ間ニ流通スルモノハ眞貨ニ類似スルニ非サレハ普通一般ノ人ヲ欺クニ足ルヘキ程度ヲ有スルモノト認ムルヲ得サルナリ(二八年第二八號通貨及證券取締法參照)加之實在ノ眞貨ヲ模擬セサル物ハ假令人ヲ欺クニ足ルモノトスルモ實在ノ眞貨ニ對スル公ノ信用ヲ害スヘキモノニアラサルカ故ニ通貨偽造罪ノ本質ヲ具備セサルモノト謂フ可シ(泉二學士所論)

且ツ法文「通用ノ貨幣云々」トノ文理解釋トシテモ其模擬セラレタル標本ハ必ス法令ノ認ムル眞貨ナラサル可カラス(岡田博士所説、ブランク氏ト同説)三九年法律第五一號紙幣類似證券取締法參照)

(ホ)然レトモ偽貨ノ實質ニ比シ同等若クハ優等ナルモ亦偽貨タルヲ妨クス、蓋シ其發行權ヲ侵シ公ノ信用ヲ害スル點ニ於テ異ナラサレハナリ(リスト氏ト同説、ブラシク氏ハ反對説ヲ唱フ)

◎變造ノ意義ヲ問フ、

「變造」トハ眞貨ニ一部ノ變更ヲ加ヘテ他ノ眞貨ニ模擬スルヲ謂フ。

(イ)其實質ヲ變更スル(例ヘハ硬貨ノ緣刻ヲ削取又ハ中味ヲ取ルカ如キ方法ヲ以テ眞貨ノ實質ヲ減損スル場合之ヲ物質的變更內容的變更トモ謂フ)ト名價ヲ變更スル(例ヘハ銅貨ヲ渡銀シ銘價ヲ變更シテ銀貨ヲ造ルカ如キ場合、之ヲ性質的變更外觀的變更トモ謂フ)トヲ問ハス(一説ニ依レハ變更ハ眞貨ノ實價ヲ減少スル者ニテ名價ノ變更ハ變造ニ屬ス」ト主張スレトモ變造ノ主旨ヲ沒却スルモノニシテ現今此説ニ從フ者ナシ、

(ロ)紙幣及銀行券ニ付テハ實質上ノ變更ヲ認ムルニ由ナシ只名價上ノ變更ヲ想像シ得ルニ過キス(ハ)變更ヲ加ヘテ成立シタル偽貨ハ眞貨ノ外觀ヲ要シ且ツ現ニ存スル某ノ通貨ニ酷似スルコトヲ要スルハ偽造ノ場合ト異ナル所ナシ尙其行爲ノ無權利ニ出テタルヲ要スルハ勿論也

◎偽造ト變造ト模造トノ區別ヲ問フ、

通貨ノ偽造ト變造トノ區別ハ偽貨ヲ新ニ作製スルト眞貨ヲ材料トシテ變更ヲ加フルトノ差異アルノミ、然レトモ假令其材料ヲ眞貨ニ取ルモ之カ變更ノ程度ヲ越ヘテ一旦通貨ノ原體(通貨カ他物ヨリ區別セラルル要點)ヲ失フニ至リタルトキハ(破壞ニシテ變更ニ非ス)從テ變造ニアラスシテ偽造ナリ、其變更

ノ程度ヲ超過シタルヤ否ヤハ全ク事實問題也)偽造モ變造モ既ニ存スル或物ニ類似シタル形體ヲ製出スルモノニシテ此點ニ於テ兩者其行爲ニ何等ノ差別ヲ見ス、只其區別ノ點トシテ權利アル者ノ行爲ニ係ルトキハ法令上決シテ偽造ト云フコトヲ得サルニ過キス。

◉行使ノ意義ヲ問フ、

(イ)「行使ノ目的」トハ眞貨トシテ使用ニ供スル希望ヲ謂フ此目的ヲ以テスルニ非サレハ本罪ヲ構成セス(例ヘハ單ニ紀念ノ爲メニ作リタル如キ)、(ロ)然レトモ自己之ヲ行使スルコトヲ目的トスルト他人ヲシテ行使セシムルヲ目的トスルヲ問ハス本罪ヲ構成ス(行使ノ意義次掲參照)、(ハ)本罪ハ行使ノ目的ヲ以テ通貨、ヲ偽又ハ變造シタルニ因テ既遂トナル(刑法ノ如ク其行使シタルヲ要件トセス)若シ之ヲ行使シタルトキハ第二項ノ罪ヲモ構成シ第五四條ノ適用ヲ受ク。

◉偽貨行使交付罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

偽貨行使交付輸入罪トハ偽貨タルコトヲ知テ之ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ人ニ交付シ若クハ輸入シタル罪ヲ謂フ(第一四六條第二項一四九條第二項)其成立要素左ノ如シ

(1)偽貨卽チ偽造變造ノ通貨(貨幣、紙幣)又ハ銀行券タルコトノ認識アルコトヲ要ス(認識)

(イ)偽造變造ノ通貨」ノ意義前掲參照、(ロ)偽造タル認識アルコトヲ要ス、過失ノ場合ハ之ヲ罰セス

(2)之ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ交付シ若クハ輸入シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)「行使」トハ眞貨トシテ一定ノ使用ニ供スルヲ謂フ、必シモ之ヲ流通ニ置クノ要ナシ(例ヘハ銀行家カ有金アルヲ示サン爲メ檢査官ニ對シテ偽貨ヲ示スモ亦行使ナリ)本邦學者ノ多數說也、但シ反對說卽チ必ス流通ニ置クヲ要ストノ說アリ、(リストフインケル、ブランク諸氏諸說)流通ニ置クトハ支拂又ハ交換ノ用ニ供スヲ得ヘキ狀態ニ置クヲ謂フ、換言、偽貨タルノ實ヲ告ケスシテ之ヲ他人ノ所持ニ移スコトヲ意味ス、(偽造ノ白銅貨ヲ自働電話器ニ入ルルカ如キモ亦行使ナリ、但シ白銅貨大ノ圓石ヲ投入スレハ偽造ニ非サル故ニ特別罪(電信法第三二條ノ罪)ヲ構成スルハ格別本罪ノ所謂行使罪ニ非ス)但シ反對說アリ「交付」トハ他人ニ授與スルヲ謂フ其有償ト無償トヲ問ハサレトモ行使ノ目的アルコトヲ要ス、其他人ニ於テハ其偽貨タルコトヲ知ルト否トヲ問ハス本罪ヲ構成ス、若シ其他人カ行使スルモノナルコトヲ豫知シ情ヲ知ラサル其他人ニ偽貨ヲ交付シ之ヲ行使セシムルハ間接手段ニ依ル行使ナリ(ハ)「輸入」トハ外國ヨリ帝國領土內ニ送入シタル行爲ヲ謂フ(學者中輸入トハ帝國稅關設置線內ニ運ヒ入レタルニ非サレハ輸入既遂ニ非スト論スル者アリ)「交付」ニ關シテ

ノ説明ハ輸入ノ場合ニモ亦同シ、(二)本罪ニハ豫メ其僞貨タル認識アルコトヲ要ス、收得後其僞貨タルコトヲ知テ之ヲ行使スル行爲ハ第一五二條ニ規定スル所ナルヲ以テ本罪ノ成立ハ其者カ收得前ヨリ其情ヲ知リタル場合ニ限ル、之レ第一五二條ト本條トノ行使罪ノ異ナル所也。

◎僞貨收得罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

僞貨收得罪トハ行使ノ目的ヲ以テ僞貨ヲ收得シタル罪ヲ謂フ(第一五〇條)其成立要素左ノ如シ

(1)僞貨卽チ僞造ノ通貨(貨幣、紙幣、銀行券)タル認識アルコトヲ要ス(認識)(豫メ其僞貨タルコトヲ知ルヲ要ス、僞貨ノ認識ナク收得スルモ罪ト成ラス、然レトモ若シ收得後其僞貨タルコトヲ知テ行使シタルトキハ第一五二條ノ罪ヲ構成ス)

(2)行使ノ目的ヲ以テ之ヲ收得シタルコトヲ要ス、

(イ)「收得」トハ自己ノ所持ニ移ス一切ノ所爲ヲ謂フ、其贈與、交換、賣買、所得盜取、騙取等其方法ノ如何ヲ問ハス、受託品ノ横領モ亦收得ノ一種也行使ノ目的アルコトヲ要スルノミニテ行使アリタルコトヲ要セス、若シ收得後行使シタルトキハ前罪(第一四八條、第二項若クハ第一四九條第二項ノ行使罪)ニ抵觸スルカ故ニ第五四條ノ適用ヲ受ク)

◎收得後行使罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

收得後行使罪トハ眞貨ナリト信シテ收得シタル後其僞貨タルコトヲ知テツヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ人ニ交付シタル罪ヲ謂フ(第一五二條)其成立要素左ノ如シ

(1)眞貨ト信シテ收得シタル後其僞貨タルコトヲ知リタルコトヲ要ス(認識)

(2)之ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ交付シタルコトヲ要ス(行爲)

初ヨリ僞貨タルコトヲ認識シテ收得シ且ツ之ヲ行使シタル罪ハ第一五〇條、第一四八條又ハ第一四九條ニ該當ス。

◎僞造變造準備罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

僞造變造準備罪トハ通貨ノ僞造又ハ變造ノ用ニ供スル目的ヲ以テ器械又ハ原料ヲ準備シタル罪ヲ謂フ(第一五三條)其成立要素左ノ如シ

(1)通貨僞造又ハ變造ノ用ニ供スル目的アルコトヲ要ス(目的)

僞造變造ノ器械原料ヲ具付クルモ販賣又ハ賃貸等ノ目的ナルトキハ本罪ヲ構成セス)

(2)其目的ヲ以テ器械原料ヲ準備シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)「準備」トハ現ニ僞造變造ニ使用シ得ヘキ狀態ニ置クヲ謂フ、其所有ノ何人ニ屬スヤヲ問ハス、(ロ)使用シ得ヘキ狀態ニ置クヲ要スルヲ以テ單ニ單械原料ノ

法文又ハ貸借ヲ爲シタル過キサル行爲ハ假令僞造、變造ノ用ニ供スル目的アルモ罪ト成ラス。

◉五錢白銅ト同一ノ形量ノ物ヲ投入シ自働電話ヲ使用シタル者ノ擬律如何、

僞造又ハ變造貨幣ノ行使トハ明示又ハ默示ニ依リ不正ノ貨幣ヲ眞正ノ貨幣ナリト主張シテ之ヲ他人ニ引渡スコトヲ謂フ、而シテ本問自働電話ヲ使用スル目的ヲ以テ五錢白銅ト同一形量ノ物ヲ自働電話室附屬ノ錢箱中ニ投入シタルトキハ不正貨幣ハ他人ノ保有ニ移ルモノニシテ卽チ他人ニ引渡サレタリト云フヘク五錢白銅貨ハ銅貨ノ一種ト認ムヘキカ故ニ本問ニ付テハ刑法ニ依リ白銅貨ノ僞造行使ヲ以テ論セサル可カラス、而シテ電信法第三十二條ニハ「不正ノ手段ヲ以テ電信又ハ電話ニ關スル料金ヲ免カレ又ハ免レムトシタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス、電信又ハ電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニハ一等ヲ加フ」トノ規定アルモ不正貨幣ノ行使ニ依リ犯人カ不法ノ利益ヲ收得シ又ハ義務的支出ヲ免カルルコトハ立法者カ貨幣ノ僞造變造行使罪ヲ規定シ其刑罰ヲ定ムルニ當リ既ニ豫見シタル現象ナリト謂ヒ得ヘキカ故ニ不正貨幣ヲ行使シテ財物ヲ騙取シタル場合ニ於テ別ニ詐欺取財ノ法條ヲ適用セサルカ如ク本問ノ場合ニ於テモ別ニ電信法第三十二條ノ適用ヲ受ケサルモノトス、(小疇博士法質錄解答)

第十七章　文書僞造ノ罪

文書僞造ノ罪トハ文書、圖畫ノ僞造、變造シタル罪、其僞造、變造ノ文書、圖畫ヲ行使シタル罪及ヒ虛僞文書、圖畫ヲ作製シタル罪、其虛僞文書ヲ行使シタル罪ヲ總稱ス(第一五四乃至一六一條)故ニ之ヲ文書圖畫ノ僞造、變造ニ關スル罪ト題スルヲ可トス。本章ノ罪ヲ分テ(一)詔書僞造罪(第一五四條)(二)公文書僞造罪(第一五五、一五八條)(三)私文書僞造罪(第一五九、一六一條)虛僞文書罪(第一五六、一五七、一六〇、一六一條)トス。

◉文書僞造罪ノ法律的性質ヲ說明セヨ、

(A)法律的性質ニ關シ二說アリ

(イ)形式主義說　文書僞造罪ノ規定ハ文書ノ形式ノ眞正ヲ保護スルモノナルカ故ニ文書自體(形式)ヲ僞ハルル行爲ナレハ其文書ニ因テ表示セラレタル事項カ實際ニ適合スルト否トニ拘ラス、本罪ヲ構成スト、ノ說(小疇其他ノ學者採用說、岡田博士ハ公文書ニ限リ此說ヲ採ル)大審院判例モ亦形式主義ヲ採ル(33年4月7日六部判決)但シ之ニ因リ他人ニ實害ヲ生シ得ヘキ事實アルコトヲ必要トス(31年11月10日大審院判決)其實害ハ個人ノ利益ニ關スルト國家ノ公益ニ關スルトヲ問ハス又其實害ヲ受ケ又ハ受クル虞アル者ハ其名義人タルト

第三者タルトヲ問ハス(37年2月8日大審院判決)

(ロ)實質主義說　文書僞造罪ノ規定ハ文書ニ因リ表示セラルル事實又ハ思想ノ眞正ヲ保證スルモノナルカ故ニ文書自體ヲ僞ハル行爲アルモ事實ノ眞正ヲ害セサル場合本罪ヲ構成セスト(勝本、牧野其他ノ學者、岡田博士ハ私文書ニ關シ本說ヲ採ル)

(理由)蓋シ文書ノ僞造ヲ罰スル趣旨ハ文書ニ依テ眞實ナラサル事實ヲ眞實ナリトノ證據ヲ得以テ事實ノ眞相ヲ害スルノ虞アレハナリ、本書カ事實ノ眞正ト合一スルトキハ文書僞造當然ノ實害ヲ生スル虞ナキモノナルカ故ニ之ヲ犯罪トス可キモノニ非スト(牧野學士刑法通義所說)

◎文書ノ定義ヲ說明スヘシ、

(一)文書ハ文字又ハ之ニ代ハルヘキ符號ニ因ル有形的意思表示ナリ

(1)文書ハ意思表示也、故ニ一定ノ意思ヲ表示スルモノ(其一定ノ意思ハ一定ノ事實ノ認識ヲ表示スルト一定ノ希望ヲ表示スルトヲ問ハス)ニ非サレハ文書ニ非ス(例ヘハ單ニ一、二、三、ト云フ文字、名刺、書目、書體、其他技術ヲ主眼トスル書キ物ハ一定ノ意思ヲ表示スルモノニ非サルカ故ニ文書ニ非ス)「草案」ハ意思表示ノ準備ニシテ意思表示自體ニ非サル故ニ文書ニ非ス「謄寫」ハ意思表示ノ複製ニシテ意思表示自體ニアラサル故ニ文書ニ非ス然レトモ若シ其謄寫者カ其原本ト相違ナキコトニ關シ意思ヲ表示シタルトキ若クハ原本トシテ行使

スル意思ヲ有スルトキハ此範圍ニ於テ文書ト云フ反之、汽車ノ乘車券、電車ノ回數券公債證書ノ利券等ハ一般慣習上文字ニ因テ表示セラルル意思ノ節約ト見ルヘキモノナルカ故ニ文書也、

(2)有形的意思表示也　(イ)此點ニ於テ「口頭ノ陳述」ト區別ス、(ロ)苟モ有形的ナラハ其附着物及其方法如何ヲ問ハス(紙面、板面、布片、獸皮、壁上、金屬等ニ記載、染附、織出、彫刻等一切ヲ包含ス)(ハ)又其一時的ナルト永續的ナルトヲ問ハス(砂上ノ文字ハ永續的ナラサルモ或場合ニハ文書タリ得ヘシ、唯證據問題トシ困難ナルノミ、但反對說アリ)

(3)文字又ハ之ニ代ハル可キ符號ニ因ル意思表示也

(イ)此點ニ於テ圖畫ト區別ス、(ロ)文字ハ國字體ノ如何ヲ問ハス、(ハ)之ニ代ハル可キ符號トハ電信符號盲者用突起符號、速記符號等ヲ謂フ(ニ)電文ニ因ル文書僞造罪ニ付テ特別法(電信法第三三條ノ罪ニ吸收サルルカ故ニ本章ノ適用ナシ)。

◎白紙委任狀ノ性質ヲ問フ、

「白紙委任狀」ニ付テハ議論アリ。

(一)積極說　白紙委任狀ト雖モ世間一般ニ行ハルル如ク主タル文書ニ附隨シ其文書ヲ處分スル目的ノ範圍內ニ於テ或權限ヲ附與スルノ意思ヲ表示スルニ足ルトキ、卽チ一定ノ範圍ニ於テ權利ヲ附與スルノ意思ヲ表示スルモノナル以上ハ其實質ニ於テハ權利附與ノ文書也トス(39年7月28日大審院判決)

(二)消極說　文書ハ文字又ハ代用文字自體ニ依ル意思表示ナラサル可カラス、換言、更ニ何等ノ記入ヲモ爲スコトナクシテ一定ノ意思表示アルコトヲ要ス、反之、文書トシ其意思表示ヲ有セシムルニハ更ニ何等カノ記入ヲ要スル場合ニ於テハ其記入アル迄ハ文書トシテ何等ノ意思表示ナク、從テ文書ト云フ性質ヲ備ヘサルモノナリ、將來文書トナル準備物件ニ過キスト(小疇博士日本刑法論所說)

◉文書ノ種類ヲ擧ケヨ、

(一)文書ニハ事實證明ニ關スルモノト否ラサルモノトアリ。

(イ)事實證明ノ文書トハ(例ヘハ證書ノ如キ證據ノ目的ヲ以テ作製シタルモノト(主觀的)書信ノ如キ偶然證據ノ用ニ供スルニ足ルモノト(客觀的)ヲ問ハス、其文書ノ內容カ一定事實ヲ證明スルニ適スル文書ヲ謂フ(權利義務ニ關スル文書ハ事實證明ニ關スル文書ノ一種也)(ロ)反之單ニ意見論說等ヲ記載シタル文書ハ事實證明ニ關スルモノニ非ス、(ハ)本法ハ私文書僞造罪(第一五九條)ニ關シテノミ「事實證明ニ關スル文書」タルコトヲ必要トセリ、(但シ其他ノ罪ニ關シ如此明規ナキモ之ヲ要セサル趣旨ニアラスト解スル者アリ)

(二)文書ニ詔書類公文書及私文書ノ別アリ。

(イ)詔書類トハ御璽國璽ノ押捺又ハ親署アル一切ノ書類ヲ謂ヒ、(ロ)公文書トハ公務所又ハ公務員カ其職權ノ範圍內ニ於テ其成スヘキ文書ヲ謂ヒ(ハ)私文書トハ一私人ノ作成セル文書ヲ謂フ、

◉公文書、私文書ノ區別ヲ問フ、

公文書、私文書ノ區別ニ付キ二種アリ

(一)作成說　此說ハ文書作成ニ關シ公正ノ證據力ヲ有スルト否トヲ標準トスルモノナリ、此ノ說ニ依レハ(イ)「公文書」トハ公務行又ハ公務員カ其職權ノ範圍內ニ於テ作成ス可キ總テノ文書ヲ謂ヒ、其內容ノ公私如何ニ關セス(ロ)私文書トハ一私人ノ作成シタル總テノ文書ヲ謂フ。

(二)內容說　此說ハ文書ノ內容ニ關シ公正ノ證據力ヲ有スルト否トヲ標準トスルモノナリ、此說ニ依レハ(イ)「公文書」トハ文書ノ內容カ公法上ノ性質ヲ有スルモノヲ謂ヒ(ロ)然ラナルモノヲ「私文書」トス、故ニ假令官吏ノ作成セルモノニテモ彼ノ官署ト私人トノ契約書國ヲ代表スル官吏ノ訴狀ノ如キハ官文書ニ非ストス。

(評論)作成說ヲ以テ通說トス、蓋シ文書ノ證據力ハ當ニ作成者ノ如何ニ存スルモノニテ公文書ハ公ノ信用ノ爲メニ總テノ第三者ニ對シ之ニ掲載シタル事項ヲ完全ニ證明スル目的ヲ以テ作成シタルモノナリ、決シテ其內容如何ニ依リ其性質ヲ左右セラルルモノニ非ス、故ニ公文書タルニハ必ス其內容カ公法的性質ヲ有スルヲ要セス、只職權ヲ以テ作成スレハ足レリトス。茲ニ所謂「公文

書」中ニハ官署、官吏ノ作成シタル文書(官文書)ト公署、公吏ノ作成シタル文書(公文書)トヲ包含スルモノト知ルヘシ。

◎圖畫ノ性質ヲ問フ、

圖畫トハ文字又ハ文字ニ代ハルヘキ符號ニ因ラサル有形的意思表示ナリ

(イ)文書ト圖畫トノ差異ハ單ニ意思ノ表示カ文字ニ代ハル可キ符號ニ依テ爲サレタルト否トニアリ、(ロ)圖畫モ亦一定ノ意思ヲ表示スル爲メニ作成セラレタルコトヲ要ス、故ニ技能ヲ表示スル爲メノ繪畫等ハ圖文ニ非ス、(ハ)此外文書ニ適スル説明ハ圖畫ニ關シテモ亦之ヲ適用スルコトヲ得參照スヘシ。

◎文書僞造トハ何ソ、

「文書僞造」トハ作成名義(證明形式 Beglaubig nugsform)ヲ僞ハリタル文書ヲ作成スルヲ謂フ(有形ノ僞造、名義的僞造)

(イ)其作成名義ハ實在ノ人タルヲ要セス、既ニ死亡セル者又ハ架空ノ人又ハ官廳ニテモ一般人ヲシテ其名義人ヲ實在セル者ト信セシムル程度ノモノナレハ足ル(蓋文書僞造罪ハ文書ニ依テ一般的信用ヲ害スル罪ナレハナリ)▲但シ判例ハ官文書ニ關シテハ本文ニ同意シ(38年2月2日大審院判決)私文書ニ關シテハ名義人ノ實在ヲ必要トシ(35年5月1日大審院判決)(ロ)作成名義ヲ僞ルノ意思ナリ、單ニ自己ノ氏名ヲ僞ハリタルニ過キサルトキハ文書僞造ト謂フ

コトヲ得ス(假ヘハ預金ノ際僞名ヲ用ヒタル者カ預金引出ノ際同一ノ氏名ニ依リ受拂證ヲ作成スルカ如キ、氏名ヲ詐稱シタル被告人カ同一僞名ヲ以テ保釋又ハ上訴ノ文書ヲ作成スルカ如シ)(ハ)「虛僞ノ文書」ハ文書ノ僞造ニ非ス、虛僞ノ文書トハ作成權限アル者カ文書ノ內容ヲ僞ハリタル場合ヲ謂フ(學者ノ所謂無形ノ僞造、內容的僞造)本法ハ虛僞文書ノ作成及作成セシムル行爲ヲ第一五六、一六〇條及第一五七條ニ於テノミ處罰スルコトトセリ。

◎文書變造トハ何ソ、

「文書變造」トハ眞正文書ノ內容ヲ變更シテ新ナル法律關係又ハ事實ヲ證スルニ至ラサルモノヲ謂フ。

(イ)其變造文書ノ內容カ眞實ニ適合スルト否トヲ問ハス、(ロ)文書ノ內容トハ其文書ニ表示サレタル一切ノ法律關係又ハ事實行爲ノ目的時及場所ヲ總稱ス(但シ作成名義ヲ除ク、作成名義ニ變更ヲ加フレハ僞造ト成ル)、(ハ)新ナル法律關係又ハ事實ヲ證スルニ至ラサル程度ニ變更ヲ加ヘタルコトヲ要ス、蓋シ新ナル法律關係又ハ事實ヲ證スルモノナレハ文書ノ僞造トナレハ也。

◎文書僞造ト變造トノ區別ヲ問フ、

文書ノ僞造、變造ノ區別ニ付キ學説アリ

()文書作成説、(イ)僞造トハ眞正ナラサル文書ヲ新ニ作成スルヲ謂ヒ(ロ)變造

トハ既存文書ノ内容ヲ變更スル總テノ場合ヲ謂フトノ説也、此説ニ依レハ借用證書ヲ贈與證書ニ變更スルモ亦變造也、

(2)法律關係説　(イ)「偽造」トハ新ナル法律關係又ハ事件ヲ作成スルヲ謂ヒ(ロ)「變造」トハ單ニ眞正文書ノ内容ヲ變更シテ新ナル法律關係又ハ事實ヲ證スルニ至ラサル程度ノモノヲ謂フトノ説也、此説ニ依レハ前例ノ場合ハ偽造也、

(評論)甲ノ法律關係ヲ證スヘキ文書ヲ乙ノ法律關係ヲ證スヘキ文書ニ變更スルハ全ク性質ヲ異ニスル文書ヲ作成スルモノニ外ナラス、從テ如此場合ハ之ヲ新文書ノ偽造ト爲スヲ可トス、故ニ法律關係説ヲ正當ト爲ス(38年11月28日大審院判決)

◉文書行使トハ何ソ、

行使トハ其用法ニ從ヒ眞正ナルモノトシテ之ヲ使用スルヲ謂フ、

(イ)其文書自體ヲ使用スルヲ要スルヲ以テ謄本ヲ提出スルハ行使ニ非ス(31年4月7日大審院判決)(ロ)眞正文書トシテ使用スルヲ要スルヲ以テ文書偽造ニ確定日附ヲ得ル爲メ公證人ニ提出スル如キハ行使ニ非ス、但シ反對説アリ、(ハ)其用法ニ從フコト(即チ其文書ニ顯ハレタル證據方法ニ應用スルコト)ヲ要スルカ故ニ(例ヘハ借用證書カ古代ノ作製ニ係ル稀有ノ珍物トシテ賣買シタル場合ハ行使ニ非ス、(ニ)其行使ノ目的ハ他人ヲ欺罔錯誤其他如何ナル目的ニ出ツルヲ問ハス、又其目的ヲ達シタルト否トヲ問ハス(37年3月1日大審院判決

(參照)

◉文書行使ノ既遂時期ヲ問フ、

文書行使ノ既遂時期ニ關シ學説アリ

第一説　文書ノ行使ハ其行使セラルヘキ相手方ヲシテ之ヲ認識セシムルコトヲ要ストノ説。

第二説　文書ノ行使ハ相手方ヲシテ之ヲ認識シ得ヘキ狀態ニ置ケハ可ナリトノ説。

(評論)第二説ヲ通説トス、蓋シ文書偽造ノ罪ハ實害ノ生シタルヲ必要トセス、之ニ因テ危險ナル狀態ヲ生スルヲ以テ足レリトス、從テ其偽造文書カ他人ニ接近シ得ヘキ狀態ニ達シタルヲ以テ本罪ノ既遂トスヘシ(36年4月10日大審院判決)故ニ郵便送付ノ場合ニハ封書カ相手方ニ到達セルニ因リ行使既遂トナリ必シモ之ヲ閲讀セシコトヲ要セス、又性質上一定ノ場所ニ備付スヘキモノハ其備附ニ因リ行使既遂トナル(38年7月4日大審院判決)又一部既遂ト一部未遂ノ場合一罪ニ對シテ常ニ必ス一ノ刑ヲ適用スルコトヲ要シ、之ヲ分割シテ各部ニ別異ナル刑ヲ適用スルコトヲ得サルト同時ニ犯人ノ行爲カ一犯罪ノ既遂ノ所爲ト未遂ノ所爲ヲ包含スル場合ニ既遂ノ刑ヲ適用セハ未遂ノ刑ハ自ラ其内ニ包含セラルルモノトス(40年6月24日大審院判決)

◉詔書僞造罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

詔書僞造罪ハ詔書其他ノ文書ヲ僞造又ハ變造スル罪(第一五四條)及之ヲ行使スル罪(第一五八條)ノ三者ヲ包含ス(四〇年勅令第六號公式令參照)

第一　僞造罪

(1)御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シタルコトヲ要ス(手段)

(イ)「御璽」トハ天皇ノ印章ヲ謂ヒ、「國璽」トハ日本帝國ノ印章ヲ謂ヒ、「御名」トハ天皇ノ御署名ヲ謂フ、(ロ)「御璽國璽ヲ使用スル」トハ眞印ヲ盜用スルヲ謂ヒ(印形ヲ不正ニ使用スルモ盜用ナリ)「御名ヲ使用スル」トハ親署ヲ不正ニ利用スルヲ謂フ、(ハ)本罪ノ成立ニハ其眞印親署ヲ使用スルト其僞造シタルモノヲ使用スルヲ區別セス。

(2)詔書其他ノ文書ヲ僞造シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)「詔書」トハ皇室ノ大事ヲ宣誥シ又ハ大權ノ施行ニ關スル勅旨ヲ宣誥スルノ文書ナリ、(ロ)「其他ノ文書」トハ御璽國璽ヲ鈐シ又ハ親署セラルヘキ一切ノ文書ヲ總稱ス、(勅書、上諭、親任辭令書、其他ヲ謂ヒ)公式令參照其國務ニ關スルモノ(憲法第五五條第二項參照)ト然ラサルモノ(單純ナル宸翰)トヲ區別セス、(ハ)之ヲ僞造シタルコトヲ要ス(僞造ノ意義前掲「總說」參照)

(3)行使ノ目的アルコトヲ要ス(目的)

(イ)行使ノ目的アルコトヲ要スルノミニテ行使シタルコトヲ要セス、若シ進ンテ之ヲ行使スレハ第一五八條ノ行使罪成立ス、(ロ)行使ノ目的アルヲ要スルノミニテ其行使ノ目的ノ如何ヲ問ハス、即チ(利己ニ出ツルト國家ノ爲ニスルトヲ問ハス)行使ノ意義前掲「總說」參照)

第二　詔書變造罪

(1)御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ナルコトヲ要ス(目的物)

(イ)眞書ナルコトヲ要ス、僞書ヲ變造スルモ罪ト成ラス、

(2)之ヲ變造シタルコトヲ要ス(行爲)(變造意義前掲「總說」參照)

(3)行使ノ目的アルコトヲ要ス(目的物)(前掲參照

第三　僞詔書行使罪

(1)僞造變造ノ詔書其他ノ文書ナルコトヲ要ス(目的物)

(2)之ヲ使用シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)行使ノ目的如何ヲ問ハス、(ロ)其僞造、變造文書ハ自己ノ作成ニ出テタル者ト他人ノ作成ニ出テタルモノトヲ問ハス之ヲ行使スルニ依リ本罪ヲ構成ス(此場合第五四條ノ適用ナシ、但反對說アリ)、(ニ)行使ニ依テ直ニ本罪成立ス、其目的ヲ達シタルト否トハ成立ニ關係ナシ其他行使ノ意義前掲總說參照)

◉公文書僞造罪ノ意義及成立要素ヲ問フ

公文書僞造罪トハ公文書ヲ僞造又ハ變造スル罪(第一五五條)及ヒ之ヲ行使ス

ル罪(第一五八條)ヲ包含ス、其成立要素左ノ如シ

(1)公文書ヲ僞造シタルコトヲ要ス

(イ)「公文書」トハ公務所又ハ公務員ノ名義ヲ以テ作成ス可キ文書(圖畫)ヲ謂フ、公務所、公務員ノ意義「第七條」總論「刑法ノ效力餘說參照」(ロ)必シモ其自身ノ作成ニ係ルヲ要セス(例ハハ執達吏代理ハ公務員ニ非スト雖モ執達吏ノ職務ヲ執行スルモノナルカ故ニ其作成ニ係ル文書ハ官文書也)(ハ)五年一月二日大審院判決)(ハ)其外部ニ對スルモノナルトヲ問ハス、(ニ)公法上ノ關係ニ於テ作成ス可キ文書タルコトヲ必要トセス((ホ)八年二月二八日大審院判決)故ニ公務所又公務員ト私人トノ間ノ請負契約書ノ如キモ官文書ナリ、(ホ)一私人ノ名義ヲ以テ作成セルモノハ公務所ニ保管スルモ公文書ト成ラス)舊法ノ下ニ於テハ之ヲ公文書トスル判例アリ)(ヘ)其內容カ公文書及私文書兩者ヲ包含スルモ形式上一體ヲ成スモノハ之ヲ公文書トス例ヘハ奥書、執達吏送達證書ノ如シ)35年12月12日、5年5月19日、36年5月29日大審院判決參照)(ト)「官報」官報ハ印刷局カ內閣總理大臣ノ管縣ノ下ニ行政事務ノ一部トシテ編輯印刷スル官ノ報告也、故ニ文書ナリトノ判例アリ)17年6月30日大審院判決((論)官報ハ諸官廳ノ官報報告主任官ヨリ送附シタル文書ヲ掲載スルニ止マリ、官報ト云フ獨立シタル文書ヲ組成スルモノニアラス、故ニ官報中ニ掲載セラレタル原書ハ勿論官文書ナルモ官報其モノハ官文書ニ非ス(ト)小疇博士所論)、(チ)公務所又ハ公務員ノ作成スヘキ文書ト雖モ公債證書及官

府ノ證書ニ屬スル公文書(第一八章ノ罪)ハ本條ヨリ除外ス、(リ)內國ノ公文書ノミヲ稱シ外國ノ公文書ヲ包含セス、(ヌ)公正證書ニ於ケル關係人ノ署名ハ該證書成立ノ要件ナリ、故ニ其署名ヲ僞ハリ又ハ代理權ナキモノカ代理人トシテ記載シタルトキハ公正證書僞造罪也トノ判例アリ(36年2月13日36年5月19日大審院判決)(ル)其他僞造ノ意義ハ前揭「總說」參照)。

(2)行使ノ目的アルコトヲ要ス(目的)

(イ)行使ノ目的アルコトヲ要スルノミニテ行使シタルコトヲ要セス、若シ進ンテ之ヲ行使スレハ第一五八條ノ行使罪ヲ成立ス、(ロ)行使スル目的アルヲ要スルノミニテ其行使ノ目的如何ヲ問ハス(利己ニ出ツルト義狹ニ出ツルトヲ問ハス、(ハ)行使ノ意義「前揭總說」參照)

公文書變造罪

(1)公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタルコト文書(圖畫)ナルトヲ要ス(目的物)

(2)之ヲ變造シタルコトヲ要ス(行爲)變造意義前揭參照)

(3)行使ノ目的アルコトヲ要ス(目的)(行使ノ意義前揭參照)

僞公文書行使罪

(1)僞造、變造ノ公文書(圖畫)タルコトヲ要ス(目的物)

(2)之ヲ行使シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)行使ノ目的如何ヲ問ハス、(ロ)其僞造變造ノ公文書(圖畫)ハ自己ノ作成ニ係ルトヲ問ハス之ヲ行使スルニ因リ本罪ヲ構成ス)此場合ニ第五四條ノ適用ナシ但反對說アリ)(ハ)行使ニ依テ直ニ本罪成立ス、其目的ヲ達シタル

ト否トハ成立ニ關係ナシ(其他「行使」ノ意義前掲參照)

◉私文書僞造罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

私文書僞造罪トハ私文書ヲ僞造又ハ變造スル罪(第一五九條及ヒ之ヲ行使スル罪(第一六一條)ヲ包含ス、

(1)私文書ヲ僞造シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)「私文書」トハ一私人ノ作成ニ係ル文書(圖畫)ヲ謂フ、其自然人タルト法人タルトヲ問ハス(總論「公文書、私文書ノ區別」參照)又內國人ト外國人トノ文書タルヲ問ハス(31年2月15日大審院判決)(ロ)他人ノ文書(卽チ他人ノ作成名義)ヲ僞ハリ作成スルコトヲ要ス、新刑法ハ僞造ノ文書ト虛僞ノ文書トヲ區別シ自己ノ作成權限アル文書ニ虛僞ノ記載ヲ爲シタル場合ハ僞造ト硏セス(ニ「白紙委任狀」ニ權限外ノ事項ヲ記載シタル場合ハ判例ニハ僞造ト認ムレトモ異論アリ(前揭「僞造ノ概念」參照)(ホ)借用證書ニ保證人トシテ擅ニ他人ノ氏名ヲ記入シタルハ僞造也トノ判例アリ(30年1月22日大審院判決)

(2)權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書(圖畫)タルコトヲ要ス(目的物)

(イ)「權利義務文書」トハ直接又ハ間接ニ物權、債權、其ノ他ノ權利義務ノ設定、移轉、得喪、消滅ニ關スル文書ヲ謂ヒ(ロ)「事實證明文書」トハ特ニ一定ノ事實ヲ證明スル爲ニ作成セラレタル文書ノミナラス、當該係爭事實證明ノ用ニ供セラレ得ル文書ヲモ包含ス(ハ)其事實證明書ニアラサル文書(例ヘハ單ニ意見論說等ヲ記載シタル文書)ハ之ヲ僞造スルモ本罪ヲ成立セス(蓋實際ノ危害ナケレハ也)

(3)行使ノ目的アルコトヲ要ス(目的)

(イ)行使目的アルコトヲ要スルノミニテ行使シタルコトヲ要セス、若シ進テ之ヲ行使スレハ第一五八條ノ行使罪ヲ構成ス、(ロ)行使スル目的アルヲ要スルノミニテ其行使ノ目的如何ニ關セス(自己ノ爲ノナルト他人ノ爲メナルトヲ問ハス(行使ノ意義前掲參照)

私文書變造罪

(1)權利義務又ハ事實證明ニ關スル私文書(圖畫)ナルコトヲ要ス(目的物)

(2)之ヲ變造シタルコトヲ要ス(行爲)變造ノ意義前掲「總說」參照

(3)行使ノ目的アルコトヲ要ス(目的)(前掲參照)

僞私文書行使罪

(1)僞造、變造ノ私文書(圖畫)タルコトヲ要ス(目的物)其認識ヲ要スルハ勿論也

(2)之ヲ行使シタルコトヲ要ス(目的物)

(イ)行使ノ目的如何ヲ問ハス(ロ)其僞造ノ私文書、圖畫ハ自己ノ作成ニ係ルト他人ノ作成ニ係ルトヲ問ハス之ヲ行使スルニ因リ本罪ヲ構成ス(此場合ニ第五四條ノ適用ナシ、但反對說アリ)(ハ)行使スレハ直ニ本罪成立ス、之ニ因テ其行使ノ目的ヲ達シタルト否トヲ問ハス(其他「行使」ノ意義前掲參照)

◉無資格者カ有資格者トシテ文書ヲ作成セル場合僞造ナリヤ否ヤ、

(一)積極說　文書僞造ハ他人ノ名義ヲ作成スル場合ノ外其文書ノ性質上他人ニ法律上ノ效力ヲ生スヘキ態樣ヲ有スルモノハ自己ノ名義ヲ以テ作成スルモ亦僞造ナリトノ說(大判明治三十三年第八四號)(イ)代理人タル資格ヲ詐リテ文書ヲ作成スル場合ハ僞造罪トス(36年5月5日及36年12月15日大判明治36年)(ロ)遺言立人ナルカ如ク其資格ヲ詐リ遺言證書ヲ作成シタル場合(34年6月13日大判明治34年)(ハ)銀行取締役カ銀行業務以外ニ於テ擅ニ其資格及ヒ行印ヲ冒用シテ振出手形又ハ借用證書等ヲ作成シタル場合(33年10月20日大判明治33年)何レモ文書僞造罪トセリ。

(二)消極說　文書僞造ノ實質ハ作成名義ニ詐リアル事ニ存スル者ニシテ其內容ノ眞僞如何ヲ問ハス、例ヘハ代理人ノ資格ヲ詐リ作成セラレタル文書ノ如キハ作成者ノ資格ニハ詐リアリト云ヒ得ヘキモ文書ノ作成名義ニハ毫モ詐リナク單ニ其文書ノ內容ニ詐アルニ過キス、故ニ此場合ニ文書僞造罪ナリト云フコトヲ得スト(小疇博士所論)

◉虛僞文書罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

虛僞文書ハ公務員ノ作成ニ係ル場合(第一五六、一五八條)ト公務員ヲシテ之ヲ

作成セシムル場合(第一五七、一五八條)及ヒ醫師ノ作成ニ係ル場合(第一六〇、一六一條)トヲ包含ス。

「虛僞文書」トハ作成權限ヲ有スル者カ自ラ虛僞ノ事實ヲ記載シタルモノヲ謂フ(學說上所謂「無形ノ僞造」「內容ノ僞造」ト稱ス)舊法(第二〇五條)ハ官吏其管掌ニ係ル文書ヲ僞造シ云々ト規定シ自己ノ作成權限アル文書ニシテ亦僞造ナルモノノ如ク解セラルルニ至レリ、本法ハ文書僞造ト虛僞文書トヲ明ニ區別セリ。

(一)公務員作成ニ係ル場合、

(1)公務員ノ職務ニ關スルモノナルコトヲ要ス(目的物)

(イ)他人ノ職務權限內ニ屬スル文書ヲ作成變更スルハ文書僞造罪ニシテ虛僞文書罪ニ非ス、(ロ)職務以外ニ關スル虛僞文書ヲ自己カ作成スルモ罪トナラス、(ハ)公務員ニ限ルヲ以テ雇員ニ及ハス(執達吏代理モ公務員ニ非ス)。

(2)行使ノ目的ヲ以テ虛僞ノ文書ヲ作成シ又ハ變造シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)「虛僞文書ノ作成」ハ自己ノ職務權限內ニ屬スル文書ニ虛僞ノ記載ヲ爲スヲ謂フ、(ロ)「變造」モ亦自ラ作成シタル眞正文書ヲ虛僞文書ニ變更シタルヲ謂フ、(ハ)適法ナル形式ヲ具備シタル屆出申請(例ヘハ戶籍上ノ屆出不動產登記申請ノ如キ)ニヨリ一定ノ文書ヲ作成變更セサル可カラサル義務アル場合ハ假令其記載事項ノ虛僞ナルコトヲ知テ之ヲ作成變更スルモ本罪ヲ構成セス、然レトモ公務員カ猥メ他人ト共謀ノ上其他人ヲシテ一定ノ手續ヲ踏マシメ自己ノ

法律上ノ義務ヲ利用シテ虚偽ノ文書ヲ作成シタルトキハ其責ニ任セサル可カラス(39年10月22日大審院判決理由抜萃)

(3)又ハ之ヲ行使シタルコトヲ要ス(行爲)

其行爲ハ必シモ公務員ニ於テ之ヲ爲スヲ要セス、一私人カ其虚偽文書ナルコトヲ知テ行使スルモ罪ヲ構成ス(第一五八條)(行使ノ意義前掲參照)

(二)公務員ヲシテ作成セシムル場合

(1)公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)其公務員ハ其事件ノ當該公務員ナラサル可カラス、(ロ)其不正ノ申立ハ當該證明事項ニ關シテ之ヲ爲スコトヲ要ス、證明事項ニ關セサル場合ハ之ヲ問フヲ要セス。

(2)權利義務ニ關スル公正證書原本又ハ免狀、鑑札、旅券ナルコトヲ要ス(目的物)

(イ)「權利ノ義務ニ關スル公正證書」トハ權利義務ノ發生、變更、消滅ヲ證スル爲メ當該公務員カ作成スル文書ヲ謂フ(例ヘハ登記官吏ノ登記スヘキ登記簿又ハ公證人ノ作成スヘキ證書等ノ如シ)必ス其原本ナルコトヲ要ス(謄本、抄本等ヲ包含セス)、(ロ)「免狀」トハ之ヲ有スル者ヲシテ特殊ノ行爲ヲ行フコトヲ得セシムヘキ效力アルモノヲ謂ヒ(狩獵免狀ノ如シ、單ニ試驗級第ノ證書ノ如キヲ包含セス)「鑑札」モ免狀ノ一種ニシテ一定ノ簡明ナル形式ニ因テ作成セラレタルモノヲ謂ヒ「旅券」トハ免許ヲ必要トスル旅行ニ付キ其免許アリタルコトヲ證セサルヘキ文書ヲ謂フ(海外旅行券ノ如シ)

(3)其公務員ヲシテ之ニ其虚偽ノ申立ヲ記載セシメタルコトヲ要ス(結果)

(イ)本條ノ罪ハ不實ノ申立ヲ爲シタルノミナラス公務員其申立ニ基キ原本ニ不實ノ記載ヲ爲スニ因テ成立ス故ニ單ニ虚偽ノ申立ヲ爲シタル丈ケ公務員カ之ニ基テ記載ヲ爲ササルトキハ未遂犯也、(ロ)若シ其公務員カ申立人ト共謀シ又ハ虚偽文書ノ作成ニ付キ故意ヲ存スルトキハ總則共犯ノ規定ニ因リ(第六五條)ヲ適用シ前罪(第一五六條)ノ適用ヲ受クルモノトス、(ハ)公務員ヲシテ不正ノ記載セシメタル後之ヲ行使シタルトキハ本罪ノ行使罪(第一五八條)ヲ構成ス(此場合ニ第五四條ノ適用ナシ但反對説アリ)

(4)又ハ行使シタルコトヲ要ス(行爲)

行使罪ハ獨立罪(第一五八條)ナリ、必シモ其申立者又ハ公務員ナルヲヲ要セス、一般ニ其虚偽文書ナルコトヲ知テ利用スレハ本罪ヲ構成ス(行使ノ意義前掲參照)

(三)醫師ノ作成ニ係ル場合

(1)公務所ニ提出ス可キ診斷書、檢案書、死亡證書ナルコトヲ要ス(目的物)。

(イ)「診斷書」トハ醫師カ自己ノ診斷シタル患者ノ病狀ヲ證明スル爲メニ作成シタルモノヲ謂ヒ「檢案書」トハ自己ノ診斷セサリシ者ノ死體ニ付キ作成スルモノヲ謂フ「死亡證書」トハ自己カ診斷シタル者ノ死體ニ付キ作成スル者ヲ謂フ(死産認書ハ自己カ診斷シタル者ノ分娩ニ係ル場合ハ死亡證書ニシテ、然ラサル場合ハ檢案書ナリ)(ロ)公務所ニ提出スヘキモノナルコトヲ要ス、醫師カ自ラ

提出スルモノナルト他人ノ提出スヘキモノナルトヲ問ハス。

(2)醫師自ラ虚僞ノ記載ヲ爲シタルコトヲ要ス(主體ト行爲)

(イ)醫師自ラ不正ノ記載ヲ爲スコトヲ要ス、故ニ他人カ醫師ノ名義ヲ僞リ作成スル場合又ハ醫師カ他ノ醫師ノ名義ヲ僞リ作成スル場合ハ文書僞造ナリ、(ロ)一私人下雖モ其醫師ト共謀シタル場合ハ總則共犯ノ規定(第六五條)ニ因リ本罪ヲ構成ス(ハ)醫師カ虚僞ノ記載ヲ爲シタルニ因リ成立ス、之ヲ公務所提出スルハ行使罪ナリ

(3)又ハ之ヲ行使シタルコトヲ要ス(行爲)

行使罪ハ獨立罪ナリ(第一六一條)必スシモ其醫師又ハ囑托者カ之ヲ公務所ニ提出シタルコトヲ要セス、一般人カ其情ヲ知テ之ヲ利用シタル者ハ本罪ヲ構成ス(行使ノ意義前掲參照)

◉文書變造ノ性質ヲ論シ併テ主的變更ト從的變更トニ對照シ說明セヨ

文書變造罪トハ行使ノ目的ヲ以テ眞正ノ文書ヲ基礎トシテ一般世人ヲシテ眞正ノ文書ナリト錯誤セシムル程度ニ於テ文書ヲ模造スル行爲ヲ謂フ、

(一)行使ノ目的ヲ以テトハ模造文書ヲ眞正ノ文書トシテ使用スル目的ニ出ツル事實ヲ謂フ故ニ學術ノ參考品ト爲ス目的ノ如キヲ包含セス、

(二)眞正ノ文書ヲ基礎トスル文書ノ僞造文書トハ文字ニ依リ形體ヲ附與シタル意思表示ナリ故ニ一定ノ文書ヲ模造スルニ付キテモ他ノ文書ニ於テ表示セル意思ヲ變更シテ之ヲ爲ス場合ト否ラサル場合トノ區別ヲ生ス可シ文書ノ變造卽チ眞正ノ文書ヲ基礎トスル文書ノ模造トハ上述シタル前段ノ場合ニ關スルモノニシテ正當ナル意思表示ヲ濫用シ之ニ變更ヲ加ヘテ他ノ文書ニ模造セシムルコトヲ謂フニ過キス、

(三)一般世人ヲシテ眞正ノ文書ナリト錯誤セシムル程度ニ於ケル模造ナルコトヲ要ス、質疑者ハ主的及ヒ從的變更ニ對照シテ說明センコトヲ求メラレタリト雖モ予淺學ニシテ未タ文書變造ニ付キテノ主的變更及ヒ從的變更ノ何タルヤヲ知ラサルヲ以テ之ト對照說明スルコトヲ得ス蓋シ主的及ヒ從的變更トハ少クトモ刑法上一般ニ使用セラルル用語ニハアラス、(谷野學士法實錄解答)

◉官設鐵道及私立鐵道ノ發賣スル乘車切符ハ文書ナリヤ

乘シテ文書ナリトスレハ官線乘車切符ハ官文書ナル乎將又刑法上何レノ刑ヲ適用スヘキカ、文書ノ何タルヤニ付キテハ學者間ニ異說アルコトヲ免レス、ト雖モ少クトモ文書ニ依ル意思表示ニシテ權利義務ニ關係ヲ有スルモノヲ文書ト爲スハ一般ノ通說ナリ、此鐵道乘車券ハ文字ニ依ル一定ノ意思表示ニシテ其表示セラルル意思ハ權利義務ニ關係ヲ有ス、故ニ鐵道乘車券ハ刑法上所謂文書ナリト謂ハサル可カラス、然リ鐵道乘車券ハ文書ナリ、然レトモ官設

鐵道乘車券ハ果シテ官文書ナリヤ將又私文書ナリヤ學者ノ文書ヲ官私ニ區別スル者

(一)或ハ其標準ヲ作製者ノ身分ニ採リ官吏タル身分ヲ有スル者ノ作製スヘキ文書ハ凡テ之ヲ官文書ト爲スト同時ニ一私人ノ作製ス可キ文書ハ凡テ之ヲ私文書ト爲スコトアリ(二)或ハ其標準ヲ其實質ニ採リ其實質カ國家統治ニ關係スル文書ハ凡テ之ヲ官一書ト爲シ其實質カ國家統治ニ關係セサル文書ハ凡テ之ヲ私文書ト爲スコトアリ、上述シタル第一及第二ノ見解ノ差異ハ官吏カ作製スヘキ文書ニシテ國家統治ニ關係ヲ有セサルモノヲ官文書ト爲スヤニ在リ第二ノ見解ノ學理上妥當ナル見解ニシテ予輩理論トシテハ此見解ニ依リ文書ノ官私ヲ區別スル法制ヲ歡迎スト雖モ是レ自ラ刑法ノ立法論ニ屬ス、解釋論トシテハ刑法上第二見解ヲ採ル餘地ナシト信ス、官設鐵道乘車券ハ恰モ郵信爲替證書ノ如ク其實質ハ國家統治ニ關係ナキモノナリト雖モ一私人ノ作成ス可キ文書ニ非スシテ官吏タル身分ヲ有スル鐵道吏員ノ作製ス可キ文書ナリ然ラハ官設鐵道乘車券ハ解釋論トシテハ官文書ト謂ハサル可カラサルノミナラス恰好ノ判例ナシト雖モ爾來ノ旨趣ヨリ推斷スレハ少ナクトモ大審院ハ之ヲ官文書ト爲スヘキヤ一點ノ疑似ナキ如シ(谷野學士法質錄解答)

第十八章　有價證券僞造ノ罪

有價證券僞造ノ罪ハ有價證券ヲ僞造、變造スル罪、有價證券ニ虛僞ノ記入ヲ爲ス罪及ヒ之ヲ行使スル罪ヲ包含ス(第一六二、一六三條)故ニ之ヲ有價證券僞造變造ニ關スル罪ト題スルヲ可トス。

本章ノ罪ヲ分テ(一)僞造、變造罪(第一六二條第一項)(二)虛僞記入罪(第一六二條第二項)(三)行使輸入罪(第一六三條)ノ三トス。

㊀有價證券僞造變造罪ノ意義及其成立要素ヲ問フ、

有價證券僞造、變造トハ行使ノ目的ヲ以テ有價證券ヲ僞造又ハ變造スル罪ヲ謂フ(第一六二條第一項)其成立要素左ノ如シ

(1)有價證券ヲ僞造又ハ變造シタルコトヲ要ス(行爲)

(九)「有價證券」トハ證書面ノ權利ヲ利用スルニ付キ法律上其證書ノ占有ヲ必要條件トスル證券ナリ、「公債證書」(國債證書タルトト其ノ他ノ公共團體ノ證書タルヲ問ハス)「官廳ノ證券」(大藏證券支拂命令官ノ發行スル支拂命令等)「會社ノ株券」(會社ノ社債書ヲ包含セス)其他「各種ノ手形」(商法第四三四條以下)「貨物引換證」(商法三三三條以下)倉庫業者ノ預證券、質入證券(商法第二五八條以下)「船荷證券」(商法第六五〇條以下)等數多アリ、(ロ)僞造變造ノ意義前章「文書僞造罪總說參照」(ロ)特ニ印章署名ヲ僞造又ハ盜用シテ有價證券ヲ僞造シタルトキハ第五四條ノ適用ヲ受ク

(2)行使ノ目的アルコトヲ要ス(目的)

(イ)行使ノ目的アルコトヲ要セス、若シ進テ之ヲ行使スレハ次條ノ行使罪ヲ構成ス、(ロ)行使スル目的アルヲ要スルノミニシテ、其行使ノ目的如何ヲ問ハス(利己ノ爲メナルト會社ノ爲メナルトヲ問ハス)

◉有價證券虛僞記入罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

有價證券虛僞記入罪トハ行使ノ目的ヲ以テ有價證券ニ虛僞ノ記入ヲ爲シタル罪ヲ謂フ(第一六二條二項)其成立要素左ノ如シ

(1)有價證券ニ虛僞ノ記入ヲ爲シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)有價證券ノ意義前掲參照(ロ)虛僞ノ記入トハ證券ヲ作成スル權利アル者(作成權限ヲ有スル公務員會社ノ社員又ハ手形其他ノ私文書ノ作成名義者等)カ其有價證券ニ不實ノ記載ヲ爲スヲ謂フ、(ハ)然レトモ作成權利者カ眞正ニ作成シテ他人ニ交付シタル後私ニ虛僞ノ記入ヲ爲スハ有價證券ノ僞造又ハ變造罪ヲ成立シ本罪ト成ラス、

(2)行使ノ目的アルコトヲ要ス(目的)(說明前掲參照)

◉僞證券行使輸入罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

僞證券行使輸入罪トハ僞造變造又ハ虛僞記入ノ有價證券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル罪ヲ謂フ(第一六三條)其成立要素左ノ如シ

(1)僞造、變造又ハ虛僞記入ノ有價證券ナルコトヲ要ス(目的物)

(2)行使シタルコトヲ要ス(行爲)同條第一項前段ノ罪)

(イ)「行使」ノ意義前章「文書僞造罪總說參照」(ロ)必シモ其證券ヲ移付スル所爲ノミナラス拒絕證書作成ノ爲メ執達吏ニ提出スル所爲モ又行使ナリ、(ハ)僞有價證ナルノ認識ヲ要スルハ勿論也。

(3)又ハ行使ノ目的ヲ以テ人ニ交付シ若クハ輸入シタルコトヲ要ス(行爲)同條第一項後段ノ罪)

(イ)僞造變造又ハ虛僞記入ノ證券ナル事ヲ知テ之ヲ人ニ交付シ又ハ輸入シタルコトヲ要ス「交付」トハ授受スルヲ謂ヒ「輸入」トハ外國ヨリ我帝國領海內ニ送入スルヲ謂フ(領海說)(ヒ)行使ノ目的アルコトヲ要ス、其原因ノ如何ヲ問ハス(其他ノ說明「通貨僞造罪ノ通貨行使交付輸入罪」參照)

第十九章　印章僞造ノ罪

印章僞造ノ罪ハ印章若クハ署名ヲ僞造シタル罪及之ヲ使用シタル罪ヲ包含ス(第一六四乃至一六八條)汝ニ之ヲ印章ノ僞造ニ關スル罪ト區スルヲ可トス。本章ノ罪ヲ分テ(一)國璽僞造罪(第一六四、一六八條)(二)公印僞造罪(第一六五、一六六、一六七、一六八條)(三)私印僞造罪(第一六七、一六八條)トス。

◉印章トハ何ソ

「印章」トハ法律關係アル事實ヲ證明スル爲メ一定ノ形蹟ヲ他ノ物體ノ上ニ永

久的ニ現出セシムヘキ器具(印顆)並ニ其印影ヲ謂フ(印章ハ印顆ト印影トヲ含ム)但議論アリ。

(1)印影說(印章トハ印影ヲ指稱ス)　蓋シ本罪ハ人ノ信用ニ關スル實害又ハ危險ヲ豫防スルノ精神ニ出テタリ、印顆ハ之ヲ文書其他ノ物ニ押捺シ其文書物件ヲ行使スルニ因テ初メテ實害又ハ危險ヲ生ス可シ、故ニ影蹟ヲ現ハス材料ニ過キサル印顆ノ如キハ此カ僞造アルモ印章ノ僞造ハ尙未タ成立シタリト言フコトヲ得ス、若シ印顆說ノ如ク印影ヲ含マサルモノトスレハ印顆ヲ製造スルコトナク、單ニ印影ノミテ筆又ハ其他ノ器具ヲ用ヒテ書類ニ影寫シ之ヲ不正ニ使用シタル場合(第一六、四、五、七條ノ各二項)ノ如キ明ニ印顆ヲ不正ニ使用シタル場合ト異ナラサルニ之ヲ無罪トセサル可カラス、立法ノ精神何ソ如斯キコトアラン乎。

(2)印顆說(印章ハ印顆ヲ指稱ス)　蓋シ法文(第一五九條第二項)ニ於テ「印章ヲ押捺シ」ト稱シ印章トハ印顆ヲ指シ印影ヲ稱セサルノミナラス、印章僞造罪ヲ認ムルハ實害ヲ生スルカ故ニアラスシテ其危險アルカ故ナリ印顆ヲ製造スレハ之ニ因テ諸多ノ實害ヲ生スル危險アリ若シ印影說論者ノ如ク印顆ノ製造ハ使用セサルカ故ニ罪ト成ラストセハ、假令印影ヲ僞造スルモ之ヲ使用セサルニ於テハ猶ホ之ヲ處罰ス可カラサル結論ヲ生セシ故ニ此理由ヲ以テハ未タ印顆說ヲ覆ヘスコトヲ得スト。

(3)印顆印影說(印章トハ印顆又ハ印影ヲ總稱ス)　蓋シ本法ハ舊刑法(第一九八、

二〇八條ノ如ク法文ニ影蹟又ハ印影ナル文字ヲ用ヒサルヲ以テ印顆ノ僞造ト印影ト僞造トヲ區別セス、總テ印章ノ僞造ト改メタルニ依リ、廣ク法律關係アル事實ヲ說明センカ爲メ一定ノ影蹟ヲ他ノ物體ノ上ニ永久的ニ現出セシム可キ器具(印顆)又ハ印影ヲ稱スルモノト解スルヲ可トス、然レハ立法上、行使ノ目的ヲ以テ印顆ヲ僞造シ未タ印顆ヲ現出セサル場合ニ於テモ又印影ヲ現出セサル場合ニ於テモ又印顆ヲ用ヒス筆其他ノ手段ニ因リ印影ノミヲ僞造シタル場合ニ於テモ一般信用社會ニ危險アルモノトシテ處罰スルニ足リ、又解釋上、法文(第一五九條第二項ノ如キ)ニ「印章ヲ押捺シ」ト云ヘル場合ハ印顆ヲ押シ若クハ印影ヲ捺シタルモノト解スルコトヲ得テ字句ノ不當トナラス、故ニ立法上、解釋上、本說ヲ正當トセサル可カラスト(本書此說ニ從フ)。

◉印章ノ僞造ヲ說明スヘシ、

「印章ノ僞造」トハ印顆又ハ印影ノ僞造ヲ謂フ、(A)一個ノ影蹟ヲ現出セシムル爲メニ數個ノ印顆ヲ併用スルト否トハ之ヲ問フノ要ナシ(38年12月7日大審院判決)(B)普通印顆ト稱セラルルモノタルト印刷用ノ原版タルトヲ問ハス(C)行使ノ目的ヲ以テ印顆ノ僞造ノミニテ本罪成立シ印影ヲ現出セシムル行爲ヲ必要トセス(D)印影ノミヲ僞出スルノミニテ印顆ノ製造ヲ必要トセス、故ニ(例ヘハ筆ヲ以テ描出スルモ本罪ヲ成立ス(但反對說アリ)又所謂出來合印

ヲ使用スルモ亦犯罪トス(但35年6月14日大審院判決及明治35年(ヒ)印章ノ偽造ハ實物ニ類似スルコトヲ要セス、又人ヲシテ錯誤ニ陷ルニ足ルモノナルコトヲ要セス、但一般人ニ眞印ナリト信セシムルニ足ルモノナルコトヲ要ス(35年12月2日大審院判決及明治35年(ヒ)印章ノ偽造ハ)「印章ノ使用」トハ一定ノ印影ヲ其用法ニ從テ利用スルヲ謂フ、換言、印影ヲ押捺シタル物ヲ行使スルヲ謂フ、其印影ハ印顆ノ押捺ニ出テタルト描寫ニ出テタルトヲ問フヲ要セス。

◉印章偽造罪ハ眞印ニ類似スルヲ要スルカ、

印章偽造罪ハ公ノ信用ヲ害スルコトヲ目的トスルカ故ニ偽造印顆ヨリ生スル印影カ一定ノ官府又ハ私人ニ於テ使用スル眞印ヨリ生シタルモノト誤信セシムル程度ニ達スレハ之ヲ偽造トス、故ニ眞印ニ類似スルヲ要セス、凡ソ貨幣印紙ノ如ク其形體ヲ公示スルモノハ之ニ類似スルコトナケレハ公ノ信用ヲ誤ラシムルコト能ハスト雖モ印章ハ官私ヲ問ハス其形體ヲ公示スルヲ要スルモノニ非ス、彼ノ印鑑屆ノ如キモノアリト雖モ是亦法律ヲ以テ強制スル制度ニ非サルナリ、又印鑑屆ヲ爲スモ其印主ハ他ノ印章ヲ使用スル能ハサルニモ非サルナリ、昔時幕政ノ行ハレタル時ニ於テ謀書謀判ノ嚴刑アリ、一般ニ實印ヲ尊重スルノ念盛ナル當時ハ眞印ニ類似スルヲ要ストノ解釋ヲ爲スヲ正當トスレトモ此觀念ハ歐洲ノ法制ノ輸入ト共ニ署名ヲ尊重スル觀念ニ驅逐セラレタルモノト云フ可キナリ、現時ニ於ケル一般ノ觀念ニ依レハ印章ノ偽造ハ世人ヲシテ眞印ナリト誤信セシムル形蹟ヲ生スヘキ印顆ヲ作ルヲ以テ足レリトス、而シテ官印ト私印トニ其點ニ於テ差異ノ存スル理由ナキヲ以テ其原則ハ同一ナリトス、然レトモ此原則ノ適用ニ付テハ各印章ノ性質ニ依テ異ルコト論ヲ俟タス、官印ニ於テハ圓形ノモノヲ偽造スルモ世人ヲシテ眞印ナリト誤信セシムル能ハス、反之私印ニ於テハ印主ノ用ユル印章ノ形象如何ヲ問ハス印主ノ氏名ヲ表ス偽造印章ナリトセハ常ニ印主ノ眞印ナリトノ誤信ヲ生セシム、然レトモ氏名ヲ表セサル印章ハ印主ノ使用スル眞印ニ類似スルニ非サレハ誤信ヲ生セシムルコトナキヲ以テ單ニ三文判ヲ作ルモ偽造ニ非ス此差異ヲ生スルハ卽チ眞印ト誤信セシムル程度ニ達スレハ偽造トナス原則ノ適用ノ差異ナリトス、(豐島博士法質錄解答)

◉署名ノ偽造ト使用トヲ區別スヘシ、

「署名ノ偽造ト使用」(イ)「署名」トハ法律關係アル事實ヲ證明スル爲メ記載サレタル氏名ヲ謂フ、(ロ)「署名ノ偽造」トハ他ノ氏名ヲ模擬シテ作成スルヲ謂フ、其氏名ハ實在セルコトヲ要セス、又人ヲシテ錯誤ニ陷ルニ足ルモノナルコトヲ要セス、但一般人ニ眞正ナリト信セシムル程度ノモノナルコトヲ要ス、(ハ)「署名ノ使用」トハ其署名シタル物又ハ署名ヲ其用法卽其書ノ性質ニ從テ之ヲ利用スルヲ謂フ。

◉國璽偽造罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

國璽偽造罪トハ行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ偽造シタル罪及ヒ之ヲ使用シタル罪ヲ包含ス(第一六四、一六八條)其成立要素左ノ如シ

(1)御璽、國璽又ハ御名ナルコトヲ要ス(目的物)

(イ)「御璽」トハ天皇ノ御印ヲ奉稱シ、「國璽」トハ日本帝國ノ印章ヲ謂ヒ、「御名」トハ天皇ノ御署名ヲ謂フ(四〇年勅令第六號公式令參照)

(2)行使ノ目的ヲ以テ之ヲ偽造シ又ハ不正ニ使用シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)行使ノ目的ヲ以テ偽造シタルニ因リテ本罪成立ス、若シ詔書其他ノ文書ヲ偽造印章ヲ使用シタルトキハ前章文書偽造罪ヲ構成ス(其他ノ説明前掲參照)

◎公印偽造罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

公印偽造罪トハ行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名記號ヲ偽造シタル罪及ヒ之ヲ使用シタル罪ヲ包含ス(第一六五、一六六、一六八條)其成立要素左ノ如シ

(1)公務所又ハ公務員ノ印章又ハ署名若クハ公務所ノ記號ナルコトヲ要ス(目的物)

(イ)公務所、公務員ノ意義(第七條)總論「刑法效力餘説」參照、(ロ)公務所ノ「記號」トハ公務所ノ使用スル符牒ヲ謂フ(例ヘハ檢査所ノ檢印大林區署ノ燒印等)記號モ公務所ノ印章ノ一種ニシテ公務所ヲ表明スベキモノ也、唯其異點ハ文字ヲ以テ表明セラルト否トニアリ、(ハ)「公務員ノ印章」ハ公用ニ供セラルルモノナラサル可カラス、其公用ニ供セラルルモノナルヤ否ヤノ標準ニ付キ(A)文書説(印章ヲ現出セラルル文書ノ性質ニ依ルトノ説)トアリ、判例ハ印顆説ヲ採リ認印ヲ偽造スルハ公務員ニ關スル場合ト雖モ私印偽造トセリ(33年11月2日大審院判決)(二)公務員ニ非スシテ公務ヲ執ル權限アル者(執達吏代理官廳ノ雇員ノ如キ)ノ其資格ヲ表明スル印章ハ亦公務員ノ印章也、(ホ)郵便局ノ日附印官署ノ契印ハ何レモ官印也(33年11月20日大審院判決)(ヘ)公務員ノ「署名」トハ公務員ノ官職氏名ヲ謂フ即チ其職務執行ノ確實ヲ證明スル爲メノ官職氏名ヲ謂フ。

(2)行使ノ目的ヲ以テ之ヲ偽造シ又ハ不正ニ使用シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)文書偽造罪ニ關與セス單ニ印章、署名又ハ記號ノミヲ偽造シ、又ハ不正ニ使用シタル場合ニ限ルヲ以テ(ロ)行使ノ多クハ公務員カ其職務權限外ノ行爲ヲ證明スル爲メ不正ニ使用スル場合ナリ、(ハ)然レトモ必シモ公務員ニ限ラス一私人ト雖モ本罪ノ主體タルコトヲ得、(ニ)他人ノ盜捺シタル官印ヲ使用スルモ亦本條印章使用也(34年7月4日大審院判決)(其他ノ説明前掲及前章説明參照)

◎私印偽造罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

私章偽造罪トハ行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル罪及ヒ之ヲ使用シタル罪ヲ謂フ(第一六七、一六八條)其成立要素左ノ如シ

(1)他人ノ印章又ハ署名ナルコトヲ要ス(目的物)

(イ)「他人ノ印章署名」トハ自己以外ノ一私人ノ印章署名ヲ謂フ(ロ)其自然人タルト法人タルトヲ問ハス又個人ノ集合體(會又ハ組合)ノ印章署名ナルトヲ問ハス(36年4月7日大審院判決)必シモ氏名ナルヲ要セス氏又ハ雅號ニテモ可ナリ要ハ一般人ヲシテ眞正ナル印章署名ト認メ得ヘケレハ可也判例ハ私人ノ名義ヲ表明セサルモノニテモ(例ヘハ單ニ「相濟」ナル印章)之ヲ私印トセリ(35年6月20日大審院判決)

(2)行使ノ目的ヲ以テ之ヲ偽造シ又ハ不正ニ使用シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)文書偽造罪ニ關與セサル場合ニ限ル若シ他人ノ印章署名ヲ偽造シテ文書ヲ偽造スレハ文書偽造罪ヲ以テ論ス(ロ)藥品ヲ使用シテ廢紙ニ押捺シタル印影ヲ寫取リ之ヲ他ノ證書ニ轉寫シタル所爲ハ私印盜用トセリ(30年11月19日大審院判決)其他ノ説明前掲及前章説明參照)。

第二十章　偽證ノ罪

◎偽造罪ノ性質及成立要素ヲ説明セヨ、

偽證ノ罪トハ宣誓シタル證人、鑑定人又ハ通譯カ虚偽ノ陳述、鑑定又ハ通譯ヲ爲シタル罪ヲ謂フ(第一六九乃至一七一條)蓋シ證人ノ陳述、鑑定人ノ鑑定、通事ノ通譯ハ斷訟ノ基礎トナルモノニテ其正眞ヲ維持スルニ非サレハ裁判ノ正確ヲ期スル能ハス、是レ本章ノ罪ヲ認メ誤斷ノ原因ヲ防遏セル所以也。

本章ノ罪ヲ分テ(一)證人偽證罪(第一六九條)(二)鑑定人偽證罪(第一七一條)(三)通事偽證罪(第一七一條)ノ三トス。

(1)宣誓シタル證人鑑定人又ハ通事ナルコトヲ要ス(主體)

(イ)「證人」トハ當該事件ニ關係アル過去ノ事實ヲ陳述スル者ヲ謂ヒ、「鑑定人」トハ當該官廳ノ指定事件ニ關シ自己ノ學問上經驗上ノ知識ヲ以テ公平且ツ正確ニ判斷ヲ下ス可キ義務ヲ有スル者ヲ謂ヒ「通事」トハ被告人又ハ對質人等カ聾者啞者ナル場合若クハ邦語ニ通セサル場合ニ當該官廳ト此等ノモノトノ間ニ介在シテ誠實ニ一方ノ表示思想ヲ一方ニ交通セシムル者ヲ謂フ(ロ)宣誓シタルモノナルコトヲ要ス「宣誓」トハ其陳述鑑定、通譯ノ眞正ヲ確保スルモノニテ一定ノ形式ヲ要ス(刑訴法第一〇一、二二一、一三七條、民訴法第三〇七、三二九條、陸治法第六三條、海治法第六八條、會計檢査官懲戒法第三〇條、特許法第三一條等參照)宣誓ノ命令者ハ通常裁判所、特別裁判所、行政裁判所、其他行政廳(特許局)タルトヲ問ハス(問題)法律ハ或者ニ對シ宣誓ヲ許ササル場合アリ(刑訴法第一二三、一二四、二三六、一〇一條、民訴法三一〇、三二二條)然ルニ其者カ資格ヲ詐リ宣誓ヲ爲シタルトキ宣誓トシテ之ヲ認ムルヤ(32年18月2日大審院判決)之ヲ通説トス卽チ(甲)宣誓ノ何タルカヲ解スル能ハサル者(宣誓無能力者)ナルトキハ宣誓タル效力ナシ(乙)若シ知能ノ發達十

分ナルモ當事者ノ關係上宣誓シ得ル資格ナキ者(刑訴法第一二四條第四號乃至第六號、第一二三條)ナルトキハ之ヲ認ムト爲ス

(2)虛僞ノ陳述、鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルコトヲ要ス(行爲)

(甲)證人僞證罪(第一六九條)法律ニ依リ宣誓シタル證人カ虛僞ノ陳述ヲ爲シタルコトヲ要ス、(イ)其宣誓ノ時期ハ虛僞ノ陳述ノ前後ヲ問ハス(民訴法第三〇七條第二項)(ロ)「虛僞ノ陳述」トハ係爭事實ニ關シテ自己ノ經驗ニ反スル陳述ヲ爲スヲ謂フ、故ニ(A)其中立カ偶然事實ニ符合スルトキハ罪ト成ラス但見聞セサル所ノモノヲ見聞シタリト陳述スルトキハ其事實カ眞正ニ符合スルモ虛僞ノ陳述ナルヲ以テ本罪成立ス(35年9月26日大審院判決)(B)陳述ノ眞否ハ始ヨリ終ストテ總括的ニ之ヲ觀察スルコトヲ要ス、一旦虛僞ノ陳述ヲ爲シタルモ訊問終結前ニ之ヲ眞實ニ變更シタルトキハ本罪ヲ構成セス(刑訴法第一三一條第二項)訊問終結セル以上ハ兩度出廷シ前回ノ陳述ヲ取消スモ罪ノ成立ヲ妨ケス(35年10月10日大審院判決)但同一宣誓ノ下ニ訊問ヲ重ネタル場合ハ訊問ノ繼續ニシテ前後ノ訊問ニ對スル陳述ハ繼續綜合シタル一個ノ證言ナリ、故ニ同一宣誓ノ下ニスル陳述ハ一回毎ニ訊問ヲ終結スルモ再度ノ出廷ニ於テ之ヲ取消シタルトキハ本罪成立セストノ反對說アリ(小疇博士所論)(C)事實全部ノ默秘ハ虛僞ノ陳述ニ非ス(D)其虛僞ノ陳述カ係爭事實ノ裁判ニ何等ノ影響ヲ及ホスモノニ非サレハ實害危險ナキカ故ニ罪ト成ラス(E)苟モ裁判ニ影響アル陳述ナラハ其證人召喚ノ主因トナリタル豫定ノ訊問事項ナラサルモ

本罪ヲ構成ス(36年12月26日大審院判決)(F)本罪ハ宣誓ノ上虛僞ノ陳述ヲ爲スニ因リ成立シ、其陳述事項カ法律上證言ノ證據ノ效力アルト否トハ犯罪ノ成否ニ關係ナシ(36年9月18日大審院判決)(乙)鑑定人及通事僞證罪(第一七一條(イ))「虛僞ノ鑑定」トハ義務ニ背キ不公平、不正實ナル判斷ヲ爲スノ義ナリ、其書面ニ依ルト口頭ニ依ルトヲ問ハス、書面ノ場合ニハ其書面ヲ當該官廳ニ提出シタルトキ口頭ノ場合ニハ意見ノ陳述終結シタル時ニ其罪成立スロ「虛僞ノ通譯」トハ一方ノ表示シタルト異ナレル思想ヲ故意ニ通達スルヲ謂フ、其通達ノ時ヲ以テ其罪成立ス(其他說明前掲證人僞證罪「說明參照」)

(イ)以上何レノ場合ニ於テモ故意ヲ以テ成立條件トス(外國立法例ハ過失ニ因ル僞證罪アリ)故意ハ其虛僞ノ認識ヲ以テ足ル(被告人ヲ陷害ヘ曲屈スル特別ノ目的ヲ要セス)ロ以上ノ要件ヲ具備スル以上ハ罪ヲ成立シ、當該事件ノ結果有罪タルト無罪タルトヲ問ハス又當該事件ノ訴追ニ不法ノ點アリトスルモ本罪ノ成否ニ關係ナシ(33年5月1日大審院判決同德壽、31年12月1日大審院當然反對說)

第二十一章　誣告ノ罪

◎誣告罪ノ性質及成立要素ヲ問フ

誣告罪トハ人ナシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虛僞ノ申

刑法　各罪　第二十一章　誣告ノ罪

告ヲ爲シタル罪ヲ謂フ(第一七二、一七三條)

誣告罪ハ二個ノ性質ヲ有ス、一面ニ於テハ刑事又ハ懲戒處分ノ權限ヲ有スル官廳ヲシテ其處分ヲ誤ラシメ他ノ一面ニ於テハ被誣告者ヲシテ不當處分ヲ受ケシムルノ虞アリ、故ニ本罪ヲ認メ以テ國家處罰權運用ノ公正ヲ維持シ、無辜ノ人民ノ權利ヲ保護スル所以也、其成立要素左ノ如シ

(1)人ナシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的アルコトヲ要ス(目的)

(イ)他人(自然人ト法人トヲ問ハス)ナルコトヲ要ス、故ニ自己又ハ死者ノ犯罪アリト申告スルモ本罪ヲ構成セス(死者ノ場合ニハ誹毀罪ト成ルコトアリ)他人ヲ自己ノ共犯人也ト申告スルモ本罪ヲ成立ス、(ロ)刑事又ハ懲戒處分ヲ受ケシムル目的アルコトヲ要ス、(A)刑事ノ處分ト(B)懲戒ノ處分トハ懲戒罰ヲ科スルヲ謂フ(法令上特ニ懲戒處分ト稱スルモノノミナラス懲戒裁判又ハ懲罰處分ヲ總稱ス)過科ノ處分(民法第八四、一〇七條、商法第一八條二項、二六一、二六二、五三五條等)モ懲戒ニ入ルモノトス(但反對說アリ)、(B)之ヲ受ケシムル目的アルコトヲ要ス、故ニ(例ハハ自己カ犯罪ノ嫌疑ニ因リ逮捕セラレタル場合ニ其嫌疑ヲ避クル爲メ其犯人ノ何某也ト申立タル場合ノ如キハ本罪ニ必要ナル目的アリト謂フコトヲ得ス。

(2)當該官廳ニ對シ虛僞ノ事實ヲ申告スルコトヲ要ス(行爲)

(イ)其虛僞ノ事實トハ刑事處分ヲ受ケシムル場合ハ不實ナル犯罪事實也、懲戒處分ヲ受ケシムル場合ハ不實ナル職務ノ懈怠、義務ノ違背又ハ威權信用ヲ損

瀆スル行爲ヲ指稱ス、(A)故ニ前揭ノ目的アリト雖モ其目的ニ關係ナキ事實ヲ申告スルモ他罪例ヘハ誹毀罪ヲ構成スルコトアルハ別トシテ本罪ヲ構成セス、(B)犯罪事實ニ付テハ訴追旦處罰シ得ヘキ狀況ニ在ルノ事實ナラサル可カラス、告訴ナキ親告罪ヲ申告スルカ如キハ誣告ニ非ス、或事件ノ繫屬ノ犯人ニ付更ニ一層重キ犯罪又ハ非行アリト申告スルハ本罪ヲ成立スルヤ其繫屬中ナル當該事件ト全ク別個ノ事實ヲ申告スルハ本罪ヲ成立スルコト疑ナシ多少疑ノ存スルハ其當該事件ニ關シ單ニ其處分ヲ重カラシムヘキ事實ヲ申告シタル場合ナリ、此場合ニ於テモ尙本罪ノ成立ヲ認ムト解ス、(C)其申告事實カ虛僞タルコトヲ要ス、他人ノ犯罪的事實ニ付キ處罰ヲ除却スヘキ事情ヲ默秘シ又ハ重要ナル點ヲ省畧シテ申告スルモ亦虛僞タルヲ免レス、(ロ)「申告」トハ自ラ進テ一定ノ事實ヲ當該官廳ニ告知スルヲ謂フ、(訊問ニ答フルハ進テ告知スルニ非ス)(A)其方法ハ文書口頭ニ依ルトヲ問ハス、又方式ハ告訴告發其他ノ方式ニ依ルヲ問ハス(但漠然偶語セル如キハ申告ニ非ス)尙其名義ハ自己名義タルト他人ノ名義ヲ詐稱スルトヲ問ハス、匿名ヲ以テスルモ妨ケナシ(32年2月28日大判決)(ハ)當該官廳(公署)ニ申告シタルコトヲ要ス、(A)當該官廳(公署)トハ刑事處分ヲ受ケシムル場合ハ當該事件ニ付搜査權ヲ有スル者ヲ謂ヒ、(例ヘハ檢事、司法警察官ナリ)檢事ハ犯罪ナキヲ知リツツ如上ノ目的ヲ以テ或者ヲ起訴シタルトキハ本罪ヲ構成ス、巡査ハ司法警察官ニ非ス補助機關也)然レトモ之ニ爲シタル虛僞犯罪事實ノ申告カ司法警察官ニ到

達シタル時ハ本罪ヲ構成ス(懲戒處分ヲ受ケシムル場合ハ當該事件ニ付キ懲戒權限ヲ有スル長官ヲ謂フ)(但檢限ナキ官廳ニ爲シタル誣告カ長官ニ送達セラレタルトキハ本罪ヲ構成ス、(二)誣告ハ申告ヲ受ク可キ官廳ニ到達シタル時ヲ以テ成立ス(A)必シモ當該官吏カ其事實ノ虛事タルヲ發見シタルコトヲ要セス(B)又刑事訴訟若クハ懲戒手續ノ開始セラレタルコトヲ要セス(C)又告訴狀又ハ告訴調書カ形式ヲ缺クニ因リ無效トナルモ誣告ノ事實アル以上ハ本罪ヲ構成ス(32年大審院判決錄第十輯四五頁)(D)誣告タルコトヲ自白シテ告訴ノ取下ヲ爲シタル場合ニ於テモ犯罪ノ成立ニ影響ナシ(22年大審院判決錄第八輯四七六頁)

◉誣告罪ノ成立時期如何、

誣告罪ハ告訴又ハ告發カ之ヲ受クヘキ官署ノ知ル所トナリタルトキハ既遂トナル故ニ巡査ニ告訴狀ヲ提出スルモ未タ本罪ハ成立セス、巡査ノ手ヨリ司法警察官ノ手ニ告訴狀カ傳達セラレ司法警察官ニ於テ之ヲ知リタルトキニ始メテ本罪ノ既遂トナルナリ、此以後ニ於テハ假令ヒ告訴ノ取下ヲ爲スモ本罪ハ消滅スヘキモノニ非ス、(豐島博士法實錄解答)

◉誣告罪ニハ告訴人ノ外實行正犯アリヤ、

誣告罪ニハ告訴人ノ外實行正犯アリ、抑モ誣告ナル行爲ハ刑事訴訟法ニ定メ

タル告訴告發ノ方式ヲ以テスル犯罪ノ申告ヲ云フニ非ス、自由ノ決意ヲ以テ自ラ進ンテ不實ノ犯罪ヲ搜査官ニ申告スレハ誣告ノ所爲アリトス、蓋シ誣告罪ハ刑訴第四十九條第五十三條ニ定メタル管轄ノ方式ヲ具ヘサル檢事司法警察官ニ申告スルモ尙其罪ヲ構成ス、既ニ申告ヲ受クヘキ官府ニ於テ方式ノ制限ヲ要セサレハ申告自體ニ於テモ亦告訴告發ノ方式ヲ要ストノ制限アルコトナシ、又刑法ノ誣告罪ニ關スル規定ヲ見ルモ此制限アルコトヲ發見セス、只誣告ノ所爲ハ申告ヲ受クヘキ官府ヨリシテ呼起サレタルニ非スシテ申告者一方ノ任意ニ出テタルコトヲ要スルノミ、其申告ヲナスノ方法及ヒ時期ニ依テ罪ノ成否カ定マルモノニ非ス、故ニ告訴告發ノ方式ヲ用ヒス、申告者ハ訴告セラルルモノト共謀シテ犯罪ヲ犯セリト詐稱シ若クハ訴告セラルル者ノ名義ヲ冒シ官ニ不實ノ自首ヲナスモ誣告ナリ、又檢事ノ訊問ヲ受クルニ際シ訊問ニ答フルノ必要ニ出テタルニアラスシテ他人ヲ陷害スルノ目的ヲ以テ訊問事項ニ全ク關係ナキ不實ヲ申立ツル場合ニ於テモ誣告ノ所爲アリ、如斯誣告ノ實行行爲ハ告訴ノ方式ヲ要セサルカ故ニ誣告罪ノ實行正犯タルニハ自ラ告訴人トシテ表示スルヲ要セス、又共犯アル場合ニ付テ觀察スルニ告訴人トシテ告訴狀ニ表示シタルモノノ外情ヲ知テ告訴人ノ代理人トナリタル者又ハ狀訴ヲ官ニ提出シタル者ニ於テモ亦申告ノ實行ヲナスタルモノト云フヘキカ故ニ實行正犯トシテ之ヲ處罰スルモ妨ケナシ、是等ノ者ヲ目シテ從犯ト爲スハ誣告ナル所爲ノ意義ヲ誤ルヨリ生スル論ナリトス、(豐島博士法實

錄解答)

第二十二章　猥褻姦淫及重婚ノ罪

本罪ハ風俗ニ關スル罪ニシテ猥褻罪、姦淫罪及ヒ重婚罪ヲ包含ス(第一七四乃至一八四條)本章ノ罪ヲ分テ(一)猥褻罪(1)公然猥褻行爲罪(第一七四條)(2)猥褻物領布罪(第一七五條(3)他人ニ對スル猥褻行爲ノ罪(第一七六、一七八乃至一八一條)(2)姦淫罪(1)强姦罪(第一七七乃至一八一條)(2)淫行勸誘罪(第一八二條)(3)姦通罪(第一八三條)(三)重婚罪(第一八四條)ノ三トス。

◎猥褻罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

猥褻罪ハ公然猥褻行爲ヲ爲シタル罪(第一七四條)猥褻物ヲ領布、販賣ノ目的ヲ以テ所持シタル罪(第一七五條)及他人ニ對シ猥褻行爲ヲ爲シタル罪ヲ謂フ(第一七六、一七八條乃至一八一條)(出版法參照)其成立要素左ノ如シ

(一)公然猥褻行爲罪

(1)猥褻行爲ヲ爲シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)猥褻行爲トハ淫事ニ關シ一般人ナシテ色情又ハ背倫ノ感念ヲ懷カシムル行爲ヲ謂フ(例ヘハ交接、鷄姦、獸姦、手淫、局部露出、其他行爲當事ノ狀況ニ於テ色情又ハ背倫ノ感念ヲ起サシムル行爲)、(ロ)他人ニ對スルト否トヲ問ハス(但他人ニ對スル場合ニハ特別規定(第一七六條以下)アリ

(2)公然之ヲ爲スコトヲ要ス(場所)

(イ)「公然」トハ多數又ハ不特定人ノ面前ニ於テ之ヲ爲スヲ謂フ、(小數ノ人ト雖モ不特定ナレハ公然也)、(ロ)但是等ノ人ト雖モ多數ナレハ公然也)、(ロ)但是等ノ人カ目擊シタルト否トヲ問ハス、單ニ目擊サレ得ル狀況ニ在ルヲ以テ足レリトス。

(二)猥褻物ノ頒布罪

(1)猥褻物ナルコトヲ要ス(目的物)

「猥褻物」トハ猥褻卽チ淫事ニ關シ一般人ナシテ色情又ハ背倫ノ感念ヲ懷カシムル物ヲ總稱ス(文書圖畫ハ其一例ニ過キス)

(2)頒布、販賣、又ハ公然陳列シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ所持シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)「頒布」トハ廣ク公衆ニ分配スルヲ謂フ(有償ト無償トヲ問ハス)、(ロ)「販賣」トハ有償ニテ爲ス、讓渡行爲ヲ總稱シ、必シモ賣買タルコトヲ要セス、(ハ)「公然ノ陳列」トハ多數又ハ不特定人ノ容易ニ知覺シ得ヘキ場所ニ置クヲ謂ヒ、必シモ數多ノ物件ヲ陳列スルヲ要セス、又猥褻ノ部分ヲ露出スルヲ要セス、(ニ)「所持」ハ必ス販賣ノ目的アルコトヲ要ス、然レトモ數多所持スルヲ要セス(販賣ノ目的ナケレハ數多所持スルモ罪ト成ラス)。

(三)他人ニ對スル猥褻罪(親告罪也)

(1)他人ニ對シ姦淫以外ノ猥褻行爲ヲ爲シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)「他人」トハ自己以外ノ者(男女ヲ問ハス)ヲ謂フ、(ロ)姦淫以外ノ猥褻行爲ナルコトヲ要ス(姦淫ヲ爲シタル場合ハ第一七七條ヲ以テ論ス)、(ハ)公然タルト否トヲ問ハス、(ニ)夫ト雖モ妻ニ對シ其正當ナル範圍ヲ脫シ暴行脅迫ヲ以テ爲シタル猥褻行爲ハ本罪ヲ構成ス。

(2)十三歲以上ノ者ニ對シテハ暴行、脅迫ヲ以テ爲シタルコトヲ要ス。

(イ)「暴行」トハ身體ヲ拘束シ有形上反抗ヲ抑壓スルヲ謂ヒ、「脅迫」トハ害惡ヲ通知シ畏怖心ヲ生セシメ反抗心ヲ抑壓スルヲ謂フ(最狹義ニ解ス)、(ロ)十三歲以上ノ者ノ「意ニ出ツルトキハ公然ノ場合(第一七四條)ノ外之ヲ罰セス、(ハ)十三歲未滿ノ者ニ對シテ暴行脅迫ニ出ツルト否トヲ問ハス、又合意ノ有無ニ關セス猥褻行爲ヲ爲シタルニ因リ本罪成立ス(但十三歲以下ナルコトノ認識ヲ缺クトキハ暴行脅迫ニ出テタル場合、又ハ公然ノ場合(第一七四條)ノ外(合意ニ出テタル場合ハ成ラス、(ニ)人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ人ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメテ爲シタル場合ハ年齡ニ關セス本罪ヲ成立ス(第一七八條前段)意義ノ後揭參照、(ホ)本罪ハ告訴ヲ待テ論ス(告訴權者ハ被害者及其代理人也)

◎姦淫罪ノ意義及成立要素ヲ問フ

姦淫罪ハ強姦罪(第一七七、一七八條)淫行勸誘罪(第一八二條)及ヒ姦通罪(第一八三條)ヲ包含ス。其成立要素左ノ如シ

(一)強姦罪(親告罪)

(1)婦女ヲ姦婬シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)「姦婬」トハ男女間ノ正當ナラサル交接也(交接ハ生殖器ノ交媾ニ因テ既遂ト成リ、其精液ノ流出ヲ要セスト爲スヲ通說トス)(ロ)客體ハ必ス婦女ニ限ル男子ニ對シ姦婬罪成立セス(ハ)如何ナル場合ニ於テモ男子ヲ要スルハ勿論ナルモ主體ハ必シモ男子ニ限ラス、共犯及ヒ間接正犯ノ關係ニ於テ女子モ亦主體タルヲ得(總論共犯「間接正犯」參照)(ニ)夫ト雖モ妻ニ對シ正當ナル範圍ヲ脫シ暴行脅迫ニ出テタル交接ハ本罪ヲ構成ス。

(2)十三歲以上ノ婦女ニ對シテハ暴行脅迫ヲ爲シタルコトヲ要ス(手段)

(イ)暴行、脅迫ノ意義前揭參照(ロ)十三歲以下ノ婦女ノ合意ニ出ツルト否トヲ問ハス、又合意ノ有無ニ拘ハラス姦淫ヲ爲シタルニ因リ本罪ヲ構成ス、是レ十三歲未滿ノ者ハ心身ノ發達不充分ニシテ一般ニ淫事ノ何タルヤヲ解セス、從テ之カ承諾ヲ與フルモ眞ノ承諾ト認ムルヿトヲ得サルノミナラス、姦淫セラルルニ因テ早ク淫猥ノ風ニ感染スル虞アルヲ以テ也、(ニ)婦女ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ之ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒ヲ不能ナラシメ姦淫シタル場合ハ年齡ニ關セス強姦罪ト同シク處分ス(第一七八條後段)(ハ)「心神喪失」トハ精神障碍ニ因リ是非辨別ナキ狀態ヲ謂フ(昏睡狀態ノ如シ)藥酒等ヲ以テ昏醉セシルヽトハ抗拒ヲ不能ナラシムル一例也、(ホ)本罪ハ告訴ヲ待テ論ス(告訴權者ハ被害者及其代理人也)

(二)淫行勸誘罪

(1)淫行ノ常習ナキ婦女ナルコトヲ要ス(目的物)

(イ)男子ヲ勸誘シテ姦淫ヲ成サシムルモ罪ト成ラス、(ロ)淫行ノ常習アル婦女(例ハ娼妓、淫賣婦、又淫奔ナル女子等)ヲシテ姦淫セシムルモ罪ト成ラス。

(2)勸誘シテ姦淫セシメタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)「勸誘」トハ他人ニ淫行ノ決意ヲ爲サシムルコトヲ意味ス、(其手段ハ强制ニ出ツルト否トヲ問ハス、又被勸誘者ハ責任能力ヲ有スルト否トヲ問ハス(是二點ハ教唆ト異ナル所也、(ロ)勸誘前既ニ姦淫ノ決意アルモノヲ幫助スルハ幫助罪ニシテ本罪ニ非ス。

(3)營利ノ目的ヲ以テ成スコトヲ要ス(目的)

(イ)「營利ノ目的」トハ媒介ヲ爲シ財産上ノ利益ヲ圖ル意思ヲ謂フ、(ロ)實際上利益ヲ得タルト否トヲ問ハス、又必シモ賣淫ヲ爲サシメタルヲ要セス。

(三)姦通罪(親告罪)

(1)有夫ノ婦ト相姦者ナルコトヲ要ス(主體)

(イ)「有夫ノ婦」トハ婚姻中ノ婦女ヲ謂フ、(ロ)婚姻ハ民法及戸籍法ノ手續ニ從ヒ戸籍吏ニ屬出ツルニ因テ成立ス(民法第七七八條)故ニ內緣ノ婦ニ對シテハ本罪ヲ構成セス、(ハ)婚姻カ一旦成立シタル以上ハ假令取消ノ原因存スルモ未タ取消サレサル間ハ有夫ノ婦タルヲ妨ケス、(ニ)本罪ノ主體ハ有夫ノ婦ト相姦者トナリ(所謂必要的共犯ノ場合也)然レトモ本罪ノ成立ニハ相姦者ノ双方ニ犯罪アルコトヲ必要トセス(40年11月5日大審院判決)

(2)姦通ヲ爲シタルコトヲ要ス(行爲)

「姦通」トハ婦カ夫以外ニ第三者ト任意ノ交接ヲ爲スヲ謂フ(外國ニ於テハ夫ニ對シテモ姦通罪ヲ認ムルノ立法例アリ)、交接ノ意義前揭參照、(ロ)有夫ノ婦タルコトヲ知ラサル場合ハ罪トナル事實ヲ知ラサルモノ(卽チ故意ヲ缺クモノ)トシテ罪ヲ構成セス(故ニ此場合ハ有夫ノ婦ノミニ對シ本罪ヲ構成ス)(ハ)本罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ論ス、但本夫カ姦通ヲ縱容シタルトキハ告訴ノ效ナシ「縱容」トハ本夫カ豫メ其妻ノ姦通ヲ許容スルヲ謂ヒ、必シモ姦通ヲ敎唆シ又ハ幫助スルコトヲ要セス、事前ノ許容ヲ意味スルヲ以テ姦通後之ヲ宥恕スルハ縱容ニアラス(問題)(A)本夫ハ姦通者ノ一方ニ對シテノミ告訴ノ效力ヲ主張スルコトヲ得ルヤ「本罪ハ必要的共犯ナレハ本夫カ他ノ一人ニ對シテ全然告訴ノ意思ナキ場合ニ於テハ無效ニシテ否ラサル場合ハ有效ナリ」トノ說ヲ通說トス(告訴ノ取下ニ付テモ亦同シ)、(B)離婚後ニ於テ本夫カ婚姻中ノ姦通ヲ告訴シタルトキハ有效ナリヤ、問題アリ

(イ)積極說(告訴ノ期限ニ付キ何等制限ナキカ故ニ假令離婚後ト雖モ有效ナリト)。

(ロ)消極說(本夫ノ告訴權ハ其夫タル身分ニ於テ之ヲ有ス、故ニ其身分ヲ失ヒタル離婚後ニ於テハ其告訴權ナシト)。

◉妻ニ對シテモ尙强姦罪成立シ得ヘキヤ、

夫カ婚姻ニ因テ取得スル所ノ權利ハ敢テ絶對無限ニアラス、(民法第七百八十八條乃至第七百九十二條參照)換言スレハ夫ハ妻ニ對シテ交接ヲ强制スヘキ權利ヲ有セス、而シテ强姦罪ハ暴行又ハ脅迫ノ手段ニ依テ婦女ヲ姦淫スルコトニ依テ成立シ、不法トハ汎ク不法ノ交接ヲ意味シ現行刑法ノ解釋上夫婦外ノ交接ト限定スヘキ根據ヲ發見セサルカ故ニ强姦罪ハ妻ニ對シテモ成立シ得ベント謂ハサル可カラス(但獨逸刑法第一七七條ノ如ク夫婦外ノ交接ヲ以テ强姦罪ノ成立條件ト明記スル場合ハ此ノ限ニアラス)(小疇博士法學錄解答)

◎重婚罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

重婚トハ配偶者アル者重ネテ婚姻ヲ爲シタル罪ヲ謂フ(第一八四條)其成立要素左ノ如シ

(1)配偶者アルコトヲ要ス(主體)

(イ)「配偶者アル者」トハ婚姻中ノ男女ノ一方ヲ謂フ、(婚姻ハ臣民及戸籍法ノ手續ニ從ヒ戸籍吏ニ届出ツルニ由テ成立ス)故ニ內緣ノ關係ハ配偶者ニ非ス、(ロ)重ネテ婚姻ヲ爲シタル配偶者アル者ヲ罰スルノミナラス、重婚ナルコトヲ知テ之ト婚姻ヲ結ヒタル者(卽チ相婚者)モ本罪ヲ構成ス(所謂必要的共犯也)

(2)重ネテ婚姻ヲ爲シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)婚姻ハ戸籍吏ニ届出ツルニ因テ成立ス(交接ハ婚姻ノ必要條件ニ非ス)故ニ實際上同衾同居スルモ未タ婚姻ノ届出ナキ場合ハ本罪ヲ構成セス、(ロ)然レトモ婚姻中ノ婦女他ノ男子ト私ニ不正ノ交接ヲ爲セハ(婚姻ノ届出ナキモ)姦通罪ヲ構成ス、(ハ)若シ其婚姻届出アルトキハ姦通罪ト重婚罪トノ併合罪ヲ構成ス、(ニ)婚姻中ノ者ナルコトヲ知ラサル者ハ故意ヲ缺クモノトシテ罪ヲ構成セス)。

第二十三章　賭博及富籤ニ關スル罪

本罪ハ風俗ニ關スル罪ニシテ賭博罪及富籤罪ヲ包含ス(第一八五乃至一八七條)本章ノ罪ヲ分テ(一)賭博罪(1)狹義ノ賭博罪(第一八五條)(2)賭博常習罪(第一八六條第一項)(3)賭場開帳罪(同條第一項第二項)(4)博徒結合罪(同條第一項第二項)(二)富籤罪(1)富籤賣買罪(第一八七條第一項)(2)授賞取次罪(同條第二項)(3)富籤授受罪(同條第二項)ノ二トス。

◎賭博罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

賭博罪ハ偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル罪(第一八五條)常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル罪(第一八六條一項)及ヒ賭場ヲ開帳シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル罪(第一八六條二項)ヲ包含ス其成立要素左ノ如シ

(一)狹義ノ賭博罪

(1)偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ賭シタルコトヲ要ス(手段)

(イ)「偶然ノ輸贏」トハ偶然ノ事實ニ因テ生スル利益ノ得喪ヲ謂フ(偶然ノ勝負ト謂フニ同シ)(ロ)「賭博」(博戯ト賭事トヲ包含ス)ハ偶然ノ事實即チ賭者ノ技能ニ因ラス且ツ賭者ノ確知セサル事實)ニ因テ輸贏(勝敗)ヲ決スルニアリ、故ニ(A)賭者ノ技能ニ因テ利益ノ得喪ヲ爭フモ偶然ノ輸贏ニ非ス、從テ熟練、計算、力量、智力其他一定ノ技能ヲ競フカ爲メ(圍碁、將棋、競馬、考物等)ニ財物ヲ賭スルハ所謂競技ニシテ賭博ニ非ス、然レトモ他人ノ競技ノ結果ニ關シ財物ヲ賭スル場合ハ偶然ノ事情ニ基キ輸贏ヲ爭フモノニテ賭博罪ヲ構成ス、(B)賭者ノ確知セサル事實(主觀的不確定)ナルコトヲ要スルノミニテ、其事實ノ確定カ未來ニ屬スルト過去ニ屬スルト、又既確定ナルト未確定ナルトハ問フヲ要セス。

(2)博戯又ハ賭事ヲ爲シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)賭博ヲ分チテ「博戯」ト「賭事」ト爲ス、其法律上ノ效果ニ區別ナシ、其實質ニ於テモ亦異ナル所ナシ唯其手段方法ヲ異ニスルノミ學說アリ。

(1)客觀說　本說ニ依レハ、博戯トハ其賭者相互ノ間ニ一定ノ行爲ヲ爲スモノヲ謂ヒ、賭事トハ當事者以外ノ第三者ノ行爲又ハ事實ニ關シテ財物ヲ賭スルヲ謂フト爲ス(テ！ル、ゲルベル、コサック氏等ノ所說)

(2)主觀說　本說ニ依レハ博戯トハ當事者カ利益ノ收得ヲ目的トスル場合ヲ謂ヒ、賭事トハ當事者カ自己ノ意見ノ正確ヲ主張スル目的ニ出ツル場合ヲ謂フト爲ス(ローナス、ガルスハウゼン、ウッチントシャイト氏等ノ所說リスト氏モ

亦此說ヲ採ル)。

然レトモ、刑法ハ苟モ偶然ナル事實ニ因テ輸贏ヲ決セラルル場合ハ其博戯ト賭事トヲ問ハス、總テ賭博罪ヲ構成スト爲スヲ以テ兩者ノ區別ハ深ク論究スルノ必要ナシトス、(ロ)博戯及賭事ハ共ニ財物ヲ賭シテ爲ス事ヲ要ス「財物」トハ有体物ヲ意味ス(故ニ債權實權等ノ無體物ヲ賭スルモ本罪ヲ構成セス)有體物ナル以上ハ其動產、不動產ナルト又交換價値ノ有無トヲ要セス、(ハ)一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭スルハ本罪ヲ構成セス(但書)故ニ金錢ヲ賭スルモ一時ノ娛樂ノ爲ニスルモノト認メ得ル程度ノモノナレハ罪トナラス(娛樂ニ出ツルヤ否ヤハ事實問題也)(判例)所謂空相場ハ取引所ニ於ケル相場ノ高低ナル偶然事實ニ因テ勝負ヲ決スルモノナルカ故ニ賭博也(取引所法第二五條ノ違反ニ非ス35年9月25日大審院判決)「ナーハー」ハ賭博ナリ、一席ニ集合スルト否トハ賭博罪ノ成否ニ關係ナシ(36年5月22日及28年2月2日大審院判決)

(一)賭博・常習・罪

常習トシテ博戯又ハ賭事ヲ爲シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)「常習トシテ賭博ヲ爲ス」トハ必スシモ賭博常業ト爲スヲ謂フニアラス、賭博ヲ慣行繰返スルヲ以テ足ル、(ロ)賭博慣行ノ事情ナルモノハ併合罪又ハ[illegible]犯ノ規定ニ依ラス本條ニ因ル、(ハ)(博戯及賭事意義前揭參照)

(三)賭場・開帳・罪

賭博ヲ開帳シテ利ヲ圖リタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)賭博場ヲ開帳シ利ヲ圖ルトハ一定ノ場所ヲ供シテ他人ヲ誘引シ賭博ヲ爲スノ便宜ヲ與ヘテ利益(例ヘハ寺錢、入場料、賭具用料等)收得ヲ圖ルヲ謂フ、(ロ)利ヲ圖ルトハ利益ヲ收得スル目的アルヲ要スルノミニテ實際ニ利益ヲ收得シタル事ヲ要セス、(ハ)自ラ賭博ヲ爲ストキハ賭場開帳トノ二罪ヲ構成ス(35年4月22日大審院判決)

(四)博徒結合罪

博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)「博徒ヲ結合シテ利ヲ圖ル」トハ賭博ヲ常習トスル者ヲ招集シテ團體ヲ組織シテ(親分、乾兒ノ關係自ラ之カ首班ト爲リ)之ニ因テ利益(例ヘハ寺錢)ノ收得ヲ圖ルヲ謂フ、(ロ)實際ニ利益ヲ收得シタルコトヲ要セス、其目的ヲ以テ博徒ヲ結合シタルトキハ本罪ヲ成立ス(故ニ喧嘩復仇ノ爲メ博徒ヲ結合スルモ本罪ト成ラス)。

◎博奕ノ意義ヲ問フ、

博奕トハ當事者ノ利得及損失ヲ專ラ又ハ主トシテ偶然ノ事ニ因テ決セシムル遊戯ナリ、故ニ(一)博奕ハ博戯ニ限リ賭事ヲ含マス、博戯ト博事トノ區別ニ付テハ客觀主義ト主觀主義トノ二說アリ、客觀主義ニ依レハ博戯ハ當事者又ハ當事者ヨリ委任セラレタル第三者ノ行爲ノ結果ニ因テ勝敗カ定マルモノニシテ賭事ハ當事者ノ行爲ニ因テ利得及損失カ定マルモノニ非ストナスモノ

ナリ、然レトモ此區別ニ從ヘハ彼ノ合百ト稱スル賭博ノ如キハ賭事ニ屬スル不都合アリ、主觀主義ニ依レハ兩者ヲ其目的ニ從テ區別シ博戯ハ利得ヲ目的トスルモノナレトモ賭事ハ意見ノ當否ノ判斷ヲ避クルカ如キコトナカラシムルカ爲メニ其主張ヲ鞏固ナラシムルヲ目的トスト爲ス者ナリ、主觀主義ハ刑法學者間ニ普通行ハルル所ニシテ其當ヲ得タルモノナリ、主觀主義ニ從ヒ彼ノ競馬場又ハ角力場ニ於ケル賭事ハ賭事ニ非スシテ博戯ナリ、是等ハ馬術又ハ角力術ニ付キ意見ヲ闘ハスモノニ非スシテ普通ハ利得ヲ目的トスルモノナルカ故ニ刑法上ノ制裁ヲ免レス、然而シテ利得ヲ目的トセサル賭事ノ如キハ別ニ風俗ヲ害スルノ虞ナキモノナルカ故ニ刑法ニ於テ之ヲ罰スル必要ヲ見サルノミナラス、葛氏草案ニ於テモ賭事ヲ除キ博戯ノミヲ罰スルモノトシ又新律綱領及支那律ニ於テモ賭事ヲ罰セサルヲ見ルカ故ニ現行法ノ解釋トシテモ賭事ノ意義ヲ誤ラサル以上ハ之ヲ博變中ニ含マシムル能ハス、(二)博奕ハ專ラ偶然ノ事ニ因リ又ハ主トシテ偶然ノ事ニ因テ勝敗カ決セラルルモノナルヲ要ス、其反對ノモノハ學術技藝ニ依テ勝敗カ決セラルルモノナリ、斯ノ如キモノハ博奕ニ非ス、何トナレハ學術技藝ニ因テ決セラルルモノハ其發達ノ爲ニ之ヲ保護スルノ必要アルモノニシテ風俗ヲ害スルモノト認ムル能ハサレハナリ、而シテ博奕タルニハ必スシモ專ラ偶然ノ事ニ依テ決セラルルヲ要セサルナリ、是レ自明ノ事ニ屬ス、

或ハ博戯中民法上訴權アルモノハ博奕ニ非スト爲スモノアリ、此見解ハ民法

上訴權アルモノナ博奕ニ非スト爲ス點ハ正當ナレトモ之ヲ博戯中ニ含マシムルハ誤ナリ、博戯ハ常ニ遊戯ノ目的ニ出ルモノニシテ眞面目ニ法律行爲ヲ爲スノ目的ニ出ルモノニ非ス、民法上訴權ヲ生スル取引所ノ取引其他射倖契約ハ假令當事者ヲ之ヲ遊戯ト爲スノ目的ヲ以テスルモ其法律行爲ノ性質ニ於テ眞面目ノモノナルカ故ニ之ヲ博戯ナル文字中ニ含マシムル能ハス、(豐島博士法質錄解答)

◎富籤罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

富籤罪ハ富籤ヲ發賣シ又ハ其發賣ノ取次ヲ爲シ若クハ授受シタル罪ヲ謂フ(第一八七條)其成立要素左ノ如シ

(1)富籤ナルコトヲ要ス(目的物)

(イ)「富籤」トハ賭物ヲ醵集シ抽籤ノ方法ニ因テ賭者ノ利益ノ得喪ヲ決スル目的物ヲ謂フ(ロ)富籤ト賭博トノ異同)兩者共ニ偶然ノ事實ヲ勝敗ノ基本トスルモノニシテ此點ニ就テ異ナラス、兩者ノ區別ニ關シ學說アリ

(1)加入者數說　富籤ハ利益ヲ饒倖セントスル加入者カ非常ニ多數ナル場合ヲ謂ヒ賭博ハ其加入者比較少數ナル場合ヲ謂フト。

(2)雙務契約說　富籤ハ一ノ雙務契約ニシテ興行主ハ一定ノ條件ノ下ニ利益ヲ與フルコトヲ約シ、購買者ハ無條件ニ其代金ヲ支拂スルモノナルモ賭博ハ一定ノ條件ノ下ニ一方ヨリ他方ニ利益ヲ與フルコトヲ約スルニ過キスト。

(3)危險負擔說　富籤ハ賭物ヲ醵集スルノ行爲ニシテ當事者ノ一方(興行主)ハ如何ナル場合ト雖モ危險ヲ負擔スルコトナシ、反之、賭博ハ財物ヲ賭スル行爲ニシテ當事者カ共ニ危險ヲ負擔スルモノナリト(38年11月14日大審院判決)通說也。

(ハ)本書モ亦第(三)說ヲ採ル故ニ當事者ノ總テカ危險ヲ負擔スルトキハ其勝敗カ抽籤ノ方法ニ因ル場合ト雖モ富籤ニ非ス、反之抽籤ニ因リ且當事者ノ一方ノミ危險ヲ負擔セル場合ハ賭者ノ多數少數ト一場ニ會スルト否トヲ問ハス富籤也。

(2)之ヲ發賣シ又ハ發賣ノ取次ヲ爲シ若クハ授受ヲ爲シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)「富籤ノ發賣」トハ對價ヲ得テ之ヲ購買者ニ交付スルヲ謂フ(ロ)發賣ノ取次トハ發賣者(卽チ興行者)ト購賣者トノ間ニ立テ其購買ノ媒介ヲ爲スヲ謂フ、(一)且自己カ購買シタル後更ニ他人ニ賣渡スモ亦取次也)(ハ)「富籤ノ授受」トハ單ニ事實上ノ受渡スヲ謂フニ非スシテ所有ヲ移ス意思ヲ以テ他人ニ交付スルヲ謂フ(其有償ト無償トヲ問ハス)且發賣又ハ取次以外ノ場合ナルコトヲ要ス、(ニ)富籤ハ公益事業ノ爲メニ法律カ一定ノ範圍若クハ地域ニ於テ之ヲ許容スルコトアリ、此場合ニ於テ罪トナラサル勿論也(臺灣彩票ノ如キ一例也)。

◎日本勸業銀行債券償還割增方法ハ富籤類似ニハ非ラサルカ、

本問ノ場合ハ富籤類似ト云フコトヲ得ヘキモ同行債券償還割增法ハ明治二

十九年四月十八日法律第八十二號日本勸業銀行法第三十六條第二項ニ依リ大藏大臣ノ認可ヲ得テ定メラレタルモノニシテ法律上許容セラレタル適法行爲ニ屬スルカ故ニ之ヲ犯罪トシテ處罰スルコトヲ得サルヤ勿論ナリトス

(犯罪ハ違法行爲タルコトヲ要ス)

左ニ參考ノ爲メ富籤賭博及富籤類似ノ差異ヲ説明スヘシ

(一)富籤ハ籤ニ依テ勝敗ヲ決シ(二)富籤ハ一種ノ雙務契約ニシテ契約者ノ一方(富籤興業者)カ他ノ一方(富籤購買)者ハ富籤業者ニ對シ無條件ニテ一定ノ金額ヲ支拂フノ義務ヲ負擔スルコトヲ約ス、反之賭博ハ一定ノ條件成就ノ下ニ賭博者ノ一方(敗者)カ他方(勝者)ニ對シ一定ノ金額ノ支拂又ハ物件ヲ給付スヘキ義務ヲ負擔スルコトヲ約スルニ過キス、而シテ何レモ偶然ノ出來事ニ因テ財産上ノ利益ノ得喪ヲ目的トスル點ニ於テ異ナル所ナシ、亦其違因如何ハ問フ所ニアラス、從テ慈善的寄附又ハ學術奬勵ノ目的ニ出ツル場合ト雖モ犯罪ヲ構成スルモノトス、富籤類似トハ富籤ニ比シテ(一)籤ニ依テ勝負ヲ決スルコトヲ要セス(二)利益ノ得喪ヲ目的トスルニアラスシテ收得ヲ偶然ノ出來事ニ依テ決スルニアリ、(小博學士法質錄解答)

第二十四章　禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪

本罪ハ宗教上ノ風義ニ關スル罪ニシテ禮拜所ニ對スル不敬、説教、禮拜又ハ葬式ノ妨害、墳墓ノ發掘、死體、遺骨其他ノ棺内物ノ損壞、遺棄又ハ領得、變死者ノ、無

斷埋葬等ノ行爲ヲ處罰ス(第一八八條乃至一九二條)本章ノ罪ヲ分テ(一)禮拜所不敬罪(第一八八條第一項)(二)説教葬式妨害罪(同條第二項)(四)棺藏物損壞罪(第一九〇、一九一條)(五)變死者無檢視葬罪(第一九二條)ノ五トス

◎禮拜所不敬罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

禮拜所不敬罪トハ、神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲ヲ爲シタル罪ヲ謂フ(第一八八條第一項)其成立要素左ノ如シ

(1)禮拜所ニ對スルコトヲ要ス(客體)

(イ)「禮拜所」トハ公衆ノ禮拜ニ供セラルル場所ヲ謂フ(例ヘハ神祠、佛堂、墓所ノ如シ神宮、皇陵モ亦禮拜所ナルモ特別規定(第七四條第二項)アルカ故ニ本條ニ包含セス、(ロ)本罪ハ宗教上ノ風義ヲ保護スル精神ニ出テタルモノナルヲ以テ行政法規ニ依テ認メラレタルモノナルコトヲ要ス。

(2)公然不敬ノ行爲アリタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)「不敬ノ行爲」ハ言語、擧動、文章ナルコトヲ問ハス總テ尊殿ヲ汚瀆スヘキ一切ノ行爲ヲ謂フ、單ニ禮拜ヲ缺キタルノミニテハ罪ト成ラス、進シテ侮蔑ノ意ヲ表示スル行爲アルコトヲ要ス、(ロ)公然ナルコトヲ要ス「公然」トハ不特定又ハ多數ノ人ノ面前ニ於テスルコトヲ謂フ(第二二章猥褻罪説明「公然」ノ意義參照)

◎説教葬式妨害罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

説教葬式妨害罪トハ説教禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル罪ヲ謂フ(第一八八條第二項)其成立要素左ノ如シ

(1)説教、禮拜又ハ葬式ニ對スルコトヲ要ス(客體)

説教、禮拜又ハ葬式ハ其執行中ナルコトヲ要セス、後日執行アル可キ説教、禮拜又ハ葬式ヲ不能又ハ困難ナラシム可キ行爲ナルモ本罪ヲ成立ス。

(2)妨害行爲アルコトヲ要ス(行爲)

(イ)妨害手段ニハ制限ナシ故ニ暴行、喧噪等ハ勿論人ノ迷信ヲ利用シ、又ハ虛僞ノ事實ヲ傳説シテ其平穩ナル執行ヲ害スルトキハ本罪ヲ構成ス(ロ)故意ヲ要スルハ勿論也。

◎墳墓發掘罪ノ意義及成立要素ヲ問フ

墳墓發掘罪トハ墳墓ヲ發掘スル罪ヲ謂フ(第一八九條)其成立要素左ノ如シ

(1)墳墓ナルコトヲ要ス(客體)

「墳墓」トハ人ノ死體、遺骨、遺髮其他死去ノ遺物ヲ埋葬シタル場所ヲ謂フ(必シモ墓石ノ建立アルヲ要セス)

(2)發掘シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)發掘トハ埋葬場所ヲ掘起スルヲ謂フ(埋葬物カ表現シタルト否トヲ問ハス)

(ロ)發掘ハ損壞ト異ナル單ニ墳墓ヲ損壞シタル場合ハ第二六一條ノ損壞罪ト成ル(ハ)發掘シテ死體其他ノ埋葬場ニ對シテ特別ノ行爲アリタル場合ハ第一

九一條ノ棺藏物損壞ヲ構成ス、(ニ)不法ノ場合ナルコトヲ要スルハ勿論也。

◎棺藏物損壞罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

棺藏物損壞罪トハ死體遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル罪ヲ謂フ(第一九〇、一九一條)其成立要素左ノ如シ

(1)死體、遺骨、遺髮又ハ棺内藏置物ナルコトヲ要ス(目的物)

(イ)「死體、遺骨、遺髮」ハ人類ノ物ナルコトヲ要ス(胎兒ト雖モ人體ヲ組織シ一般世人ノ葬祭ヲ營ムヘキ程度ニ發育シタルモノナルトキハ本罪ノ目的物タリ)(ロ)「棺内藏置物」トハ棺内ニ藏置シタル一切ノ物ヲ謂フ。

(2)損壞、遺棄又ハ領得シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)「損壞」トハ物質的ニ之ヲ破壞スルヲ謂ヒ、(ロ)「遺棄」トハ放置スル意思ヲ以テ法令又ハ慣習上爲ス可キ行爲ヲ爲サヽルヲ謂フ(自ラ離去スルハ勿論、埋葬、火葬ノ手續ヲ爲サス之ヲ放置スル場合ヲモ包含ス、(ハ)「領得」トハ自己ノ所持ニ移スヲ謂フ(領得者ハ遺族タルト否トヲ問ハス、(ニ)不法ノ場合ナルコトヲ要スルハ勿論ナリ。

◎變死者無檢視葬罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

變死者無檢視葬罪トハ檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタルヲ謂フ(第一九二條)其成立要素左ノ如シ

(1)變死者ナルコトヲ要ス(目的物)「變死者」トハ尋常ノ病氣ニ因ラス死亡シタル者ヲ謂フ。

(2)檢視ヲ經スシテ葬リタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)變死ハ往々犯罪ニ原因スルモノナルヲ以テ葬ムルニハ官署ノ檢視ヲ受クルコトヲ要ス、之ヲ受ケスシテ葬リタルトキハ本罪ヲ構成ス(其火葬ト埋葬トヲ問ハス)(ロ)其檢視ヲ經サル原因ノ如何ヲ問フノ要ナシ、(ハ)又其檢視ヲ受ケサルコトカ過失ニ出ツル場合ト雖モ本罪ヲ構成ス。

第二十五章　瀆職ノ罪

瀆職罪ハ公職ヲ損瀆シタル罪及損瀆ナラシメタル罪ヲ包含ス(第一九三乃至一九八條)本章ノ罪ヲ分テ(一)職權亂用罪(第一九三條)(二)逮捕監禁罪(第一九四、一九六條)(三)暴行陵虐罪(第一九五、一九六條)(四)收賄罪(第一九七條)(五)贈賄罪(第一九八條)ノ五トス

◎職權濫用罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

職權濫用ハ公務員カ職權ヲ濫用シテ人ニ義務ナキコトヲ行ハシメ又ハ之ヲ行フ可キ權利ヲ妨害シタル罪ヲ謂フ(第一九三條)其成立要素左ノ如シ

(1)公務員カ職權ヲ濫用シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)「職權ノ濫用」トハ職權ヲ不法ニ使用スルヲ意味ス、換言行使スヘカラサル場

合ニ於テ其職權ヲ行使スルヲ謂フ(故ニ其公務員ノ職務權限ニ屬セサル別個ノ事項ニ對シテハ職權ヲ有セス從テ其濫用ナルモノナシトス)(ロ)「公務員」トハ法令ノ規定ニ依リ一定ノ公務ヲ執ル資格(身分、權限)ヲ有スル者ヲ謂フ

(2)因テ人ニ義務ナキコトヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルコトヲ要ス(結果)

(イ)「義務ナキ事ヲ行ハシムル」トハ全然其行爲ヲ爲スノ義務ナキ場合ハ勿論其義務アルモ未タ履行期ノ到着セサル前、其履行ヲ爲サシムル如キモ又包含ス、(ロ)「行フ可キ權利ノ妨害」トハ權利行使ヲ不能又ハ困難ナラシメ若シクハ遲延セシムルコトヲ總稱ス、(ハ)權利ノ濫用アルモ此結果ヲ生スルニ非ザレハ本罪ヲ成立セス。

◎逮捕監禁罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

逮捕監禁罪トハ一定ノ公務員及其補助者カ職權ヲ濫用シテ人ヲ逮捕シ又ハ監禁シタル罪ヲ謂フ(第一九四、一九六條)其成立要素左ノ如シ

(1)一定ノ公務員(即チ裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行フ者)又ハ其補助者ナルコトヲ要ス(主體)

「裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行フ者」トハ廣ク裁判又ハ犯罪訴追若クハ警察ノ職權ヲ有スル者ヲ總稱ス、(ロ)之ヲ補助スル者」ハ敢テ公務員ニ限ラス、(憲兵卒ノ如キ公務員ニ非サルモ尙司法警察官ノ補助機關也)然レトモ職權ヲ有スル者ニ限

ルヲ以テ一私人ノ如キハ事實上補助ヲ爲スモ本罪ノ主體ニ非ス(通常、本罪ノ主體ハ判事、檢事、司法警察官、巡査、憲兵卒也、此等ノ者ハ元來人ヲ逮捕、監禁ス可キ命令ヲ發シ又ハ其命令ヲ執行ス可キ職務ヲ有スルモノニテ人ノ自由ヲ侵害スルニ容易ナル地位ニ有ルカ故ニ法律ノ通常人カ逮捕、監禁罪ヲ犯ス場合ニ比シ重罰スル所以也。

(2)職權ヲ濫用シテ人ヲ逮捕シ又ハ監禁シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)「逮捕」トハ居所移轉ニ關スル自由ヲ剝奪スルヲ謂ヒ、(ロ)「監禁」トハ一定ノ區劃內ニ留置シ外出ノ自由ヲ剝奪スルヲ謂フ、(ハ)職權濫用ノ故意ヲ必要トスルハ前罪ト異ナラス、故ニ錯誤ニ出ツル場合ハ罪ト成ラス(例ヘバ巡査、憲兵卒カ命狀ナクシテ逮捕シ得ルモノト誤信シ之ヲ逮捕シタル場合ニハ不法ニ人ヲ逮捕スル意思ナキカ故ニ所謂「事實上ノ錯誤」トナリ罪ヲ構成セス(總論「錯誤」說明參照)。

◉暴行陵虐罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

暴行陵虐罪トハ一定ノ公務員又ハ補助者カ被拘禁者、刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ陵虐ヲ爲シタル罪ヲ謂フ(第一九五、一九六條)其成立要素左ノ如シ

(1)一定ノ公務員又ハ其補助者ナルコトヲ要ス(主體)

本罪ノ主體ハ前罪ニ比シ被拘禁者ノ看守及護送者ヲ加ヘタリ(本編第六章「逃走罪」說明參照)

(2)被拘禁者刑事被告人其他ノ者ナルコトヲ要ス(客體)

「被拘禁者」トハ法令ニ因テ拘禁セラレタル者(逃走罪說明參照)(ロ)「刑事被告人」トハ犯罪ノ訴追ヲ受ケタル者ニ限ラス、犯罪ノ嫌疑者トシテ逮捕又ハ訊問セラルル者ヲ總稱ス、(ハ)「其他ノ者」トハ證人トシテ訊問セラルル者ノ如キ其他一般ニ當該官ノ職務ヲ行ハルル相手方トナル者ヲ謂フ。

(3)暴行又ハ陵虐ヲ爲シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)「暴行」トハ身體又ハ財產ニ對シテ不正ノ腕力使用ヲ謂フ(廣義ニ解ス)(ロ)「陵虐」トハ其他一般ニ殘忍苛酷ノ所爲ト爲ルモノヲ謂フ(卽チ暴行ノ一步ヲ進メタル所爲也、本罪ハ主トシテ拷問ノ場合ニ適用ヲ受クルモノトス。

◉收賄罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

收賄罪トハ公務員又ハ仲裁人カ其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタル罪ヲ謂フ(第一九七條)其成立要素左ノ如シ

(1)公務員又ハ仲裁人ナルコトヲ要ス(主體)

(イ)公務員ノ意義再說セス、(ロ)「仲裁人」トハ仲裁手續(民訴法第七八六條)ニ從ヒ爭議者ノ間ニ仲介シテ和解ノ職務ヲ執ル者ヲ謂フ(法律ノ保護ヲ受クサル單純ノ仲介者ヲ包含セス)。

(2)其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ要求若クハ約束シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)「賄賂」トハ一定ノ職務行爲ノ報酬タル可キ不正ノ利益ヲ謂フ、(A)賄賂ト爲ル可キ利益ノ何タルヤニ付キ學說アリ。

學說

(1)金錢的利益說　賄賂罪ハ金錢ニ見積リ得可キモノナラサル可カラスト。

(2)物質的利益說　賄賂罪ハ金錢ニ見積リ得ヘキコトヲ要セサルモ必ス物質的(有形的)利益ニ限ラサル可カラスト。

(3)一切利益說　賄賂物ハ金錢ニ見積リ得ヘキモノト否トヲ問ハス又有形ト無形トヲ問ハス苟モ人ノ需要ヲ充タスニ足ル可キ一切ノ利益ヲ包含スト(38年2月14日大審院判決)此說ヲ通說トス(此說ニ從ヘハ「淫行ノ快樂」ノ如キモ賄賂ノ目的物ト爲スコトヲ得)。

(B)賄賂ハ不正ノ利益ナラサル可カラス、職務上正當ニ收得ス可キ利益ハ賄賂ニ在ラス(C)賄賂ハ一定ノ職務行爲ニ關スルモノナルコトヲ要ス、茲ニ所謂「職務」トハ法令ニヨリテ抽象的ニ定メラレタル職務事項ヲ謂フニアラスシテ具體的ニ處分シ得ヘキ一定事項ヲ稱ス。故ニ公務員又ハ仲裁人カ抽象的ニ權限ヲ有スル事項ト雖モ具體的ニ處分權限ナキ事項ニ關シテ收賄罪ナシ、但具體的職務ナル以上ハ收賄ノ當時ニ於テ確定スルコトヲ要セス後日ニ至リ定マルモ妨ナシ(明治十九年十二月十一日大審院判決)(D)賄賂ハ職務上ノ行爲ニ對スル報酬也、通常ノ場合ハ將來ノ行爲ニ對スルモノトス過去ニ終了シタル職務行爲ニ對シ報酬スルハ賄賂ニ非ス、從テ無罪トセル判例アリ(明治十六年十月廿日大審院判決)然レトモ其職務終了後ニ於テ賄賂ノ約束ヲ履行シタル場合ハ素ヨリ本罪ヲ構成スルコト明ナリ(E)賄賂ハ必シモ不正ノ處分ヲ爲スコトヲ目的トスルヲ要セス、單ニ職務ニ關スルヲ以テ足ル、若シ因テ不正ノ處分ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ別ニ其刑ヲ重クス、(ロ)本罪構成要素タル行爲ニ三種アリ(A)「收受」トハ現實ニ利益ヲ收得スルヲ謂フ(必スシモ自己ノ直接ニ賄賂トシテ受クルコトヲ要セス、賄賂ト知ラスシテ之ヲ受ケタル後其情ヲ知テ返還セサル場合モ賄賂ナリ)(B)「要求」トハ賄賂ノ提供ヲ求ムルヲ謂フ、必シモ利益ノ種類數量ヲ確定シテ要求スルヲ要セス(C)「約束」トハ將來ニ於ケル賄賂ノ收受ヲ約スルヲ謂フ(ハ)同一事件ニ關シ以上三所爲アルモ意思ノ繼續ニ出ツル行爲ナルカ故ニ連續犯(第五五條)ノ一罪也、卽チ最後ノ所爲ニ至リテ其連續犯完成ス(35年8月18日大審院判決)故ニ最後ノ所爲ノ時ヨリ時效ヲ起算スヘキモノトス

◎贈賄罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

贈賄罪トハ公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル罪ヲ謂フ(第一九八條)其成立要素左ノ如シ

(1)贈賄者ナルコトヲ要ス(主體)「贈賄者」トハ賄賂罪ノ主體タル公務員又ハ仲裁人ニ對シテ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束スル者ヲ謂フ。

(2)公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)賄賂ハ公務員又ハ仲裁人ノ職務ニ關スルコトヲ要スル賄賂ノ性質上明白也、(ロ)「交付」トハ相手方ニ收受セシムル方法ヲ謂フ(其直接間接其他ノ方法如何ヲ問ハス)、(ハ)「提供」トハ賄賂者カ現實ニ收受シ得ヘキ狀態ニ置クヲ謂フ、(ニ)「約束」トハ將來ニ於テ交付ス可キコトヲ約スルヲ謂フ、(ホ)其他收賄罪ノ說明參照。

第二十六章　殺人ノ罪

殺人ノ罪ハ殺人ニ關スル罪及ヒ自殺ニ關スル罪ヲ包含ス(第一九九乃至二〇三條)本章ノ罪ヲ分テ(一)殺人罪(第一九九乃至二〇一、二〇三條)(二)自殺加擔罪(第二〇二、二〇三條)ノ二トス

◉殺人罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

殺人罪トハ他人ノ生命ヲ奪フ罪ヲ謂フ(第一九九乃至二〇一、二〇三條)其成立要素左ノ如シ

(1)自然人ナルコトヲ要ス(客體)

(イ)人間卽チ生命アル人ナルコトヲ要ス(故ニ法人及死屍ハ人間ニ非ス)失踪者ト雖モ生存ノ事實アル以上ハ人タルニ妨ナシ、(ロ)人間ハ胎兒カ母體ヨリ一部露出スル時ヲ以テ始期トシ、其呼吸及心臟鼓動ノ絕止ヲ以テ終期トス、(ハ)終期ニ付テハ異論ナキモ始期ニ付キ學說アリ。

(2)殺人ノ行爲アルコトヲ要ス(行爲)

(イ)卽チ殺人ノ意思ヲ以テ人ノ生命ヲ絕ツ行爲アルコトヲ要ス、(ロ)「殺人」トハ人ノ生命ヲ絕ツヲ謂フ「生命ヲ絕ツ」トハ人ノ呼吸及心臟鼓動ヲ絕滅セシムルニ外ナラス、(ハ)其手段方法ニ制限ナシ、又其原因ノ如何ハ成立ニ關係ナシ、但刑ノ裁量ニ於テハ其原因手段ノ如何ハ他罪ニ比シ重大ナル關係アリ。

(1)疼痛說　分娩作用ニ因リ母體ニ疼痛ヲ生シタル時ヨリ人也トノ說

學說

(2)一部露出說　胎兒ノ一部カ外部ニ露出スル時ヨリ人也トノ說(ピンチング、ブィンゲル、メルケル、マイヤー、ガールスハウゼン氏等ノ所說)

(3)全部露出說　胎兒ノ全部母體ヨリ分離シタル時ヨリ人也トノ說。

(4)獨立呼吸說　胎兒カ自已ノ肺ヲ以テ母體ヨリ獨立シテ呼吸ヲ爲シ得ル狀態ニ達シタル時ヨリ人也トノ說(一名發聲說トモ稱ス)(リスト、ガルトロワフ氏等ノ所說)

(評論)以上諸說中(一部露出說)ヲ採ル者曰ク「民法上ノ關係ト刑事上ノ關係トハ其解決ヲ異ニス、民法上ニ於テハ分娩ノ完成卽チ全部露出(出生)ヲ以テ權利能力ノ始期トナシ、刑法上ニ於テハ外部ヨリ損傷ヲ與ヘ得ルノ時期卽チ一部露出ヲ以テ人間ノ始期ト爲スヲ穩當トス」ト(牧野學士其他通說)又ハ獨立呼吸說ヲ採ル者曰ク「蓋シ人間ノ生命カ呼吸作用ニ始リ永久的閉止ニ依リテ終ルト等シク、人間ノ出生モ亦自已ノ肺ニ

依ル呼吸作用ノ開始ヲ以テ始マルト解スルヲ至當ナリトス、而シテ母體ヨリ全然分離セラルルコトヲ必要トセス」ト(岡田、小疇兩博士其他ノ所説)

何レノ場合ト雖モ胎兒カ生活機能ヲ有スルコトヲ必要トス(故ニ彼ノ鬼形兒(化物)ノ如キハ之ヲ人ト稱スルコトヲ得ス、然レトモ生活機能ヲ具備セサル以上ハ如何ニ外形ニ於テ畸體ナルモ亦人タルヲ妨ケス。

◎自殺加擔罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

自殺加擔罪トハ人ヲ教唆シ若シクハ幫助シテ自殺セシメ又ハ被殺者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル罪ヲ謂フ(第二〇二、二〇三條其成立要素左ノ如シ

(1)自殺者又ハ被殺者ハ意思能力ナルコトヲ要ス(客體)

本罪ハ必ス其死者ノ意思ニ基カサル可カラス、蓋シ意思能力ナキモノハ自己ノ生命ヲ絶ツコト(自殺)ノ何者タルヲ判斷スルコトヲ得ス、從テ之ヲ教唆若クハ幫助シ若クハ其囑託ヲ受ケ又ハ承諾ヲ得タリト謂フ理由存在セサレハナリ、故ニ其意思能力ナキ者ヲ之等外形的ノ行爲ニ因テ殺シタル者ハ殺人罪ニシテ本罪ニ非ス、但シ其意思無能力ナルコトヲ知ラス能力者也ト誤信シ本罪ノ行爲ヲ爲シタルトキハ殺人罪ヲ阻却シ本罪ヲ構成ス。

(2)教唆又ハ幫助シテ自殺セシメ若クハ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)「教唆」トハ其自殺ヲ決意セシムルヲ謂ヒ「幫助」トハ其自殺行爲ニ便宜ヲ與フルヲ謂フ、(ロ)詐欺、恐喝、誘惑其他ノ方法如何ヲ問ハス、(詳細「共犯」説明參照)、但意思ノ自由ヲ拘束スヘキ程度ノ脅迫ヲ以テシタル場合ハ殺人罪ヲ構成ス(ロ)「囑託」ヲ「受ク」トハ被殺者ノ申出テヲ承諾シタルヲ謂ヒ「承諾」トハ加害者ノ發意ヲ被者ニ於テ承諾シタルモノヲ謂フ、其原因及目的ノ如何ヲ問ハス、所謂合意ニ出ツル情死モ本罪ヲ構成ス、只犯人死スル故ニ之ヲ問ハサルノミ。

第二十七章　傷害ノ罪

傷害罪トハ人ノ身體ニ暴行傷害ヲ爲シタル罪ヲ謂フ(第二〇四乃至二〇八條)本章ノ罪ヲ分テ(一)傷害罪(第二〇四、二〇五、二〇七條)(二)加勢罪(第二〇六條)(三)暴行罪(第二〇八條)ノ三トス、

◎傷害罪ノ意義及成立要素ヲ問フ

傷害罪トハ人ノ身體ヲ傷害ヲ爲シタル罪ヲ謂フ(第二〇四、二〇五、二〇七條)其成立要素左ノ如シ

(1)人ノ身體ナルコトヲ要ス(客體)

(イ)「身體」トハ生命財産名譽等ノ對語ニシテ有形ノ體軀(自體)ヲ謂フ(毛髮ハ體軀ノ一部也)(ロ)胎兒ノ身體ニ付テハ前罪説明參照(ハ)他人ノ身體ニ對スルコトヲ要ス(ハ)自傷ハ罪ト成ラス(總論犯罪要素「自己利益處分」説明參照)自傷ノ教唆、幫

助、受囑、承諾等ノ行爲ニ付キ明文ナキカ故亦罪ト成ラス(B)決鬪ニ關シテハ特別法(二二年法律第三四號)アリ。

(2)傷害シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)「傷害」トハ人ノ身体ニ對シ生理的ニ毀損ヲ加フルヲ謂フ(A)其外部ニ加フルト内部ニ加フルトヲ問ハス(B)又手段ニ關シテ何等ノ制限ナシ、有形的ニ被害者ノ肉体ニ對シテ傷害ヲ加フルト無形的ニ其精神ニ痛苦ヲ與フルニ依リ體軀ニ生理的毀損ヲ生セシムルトヲ問フコトナシ(精神ヲ錯亂喪失セシムルハ即チ内部ノ腦組織ヲ傷害シタルモノニテ身體傷害ナルコト疑ナシ)(ロ)本罪ノ故意ニ付キ二説アリ。

(1)暴行説　新法ハ舊法ノ所謂「毆打」ノ語ヲ避ケテ單ニ人ノ身体ヲ傷害ス云々ト規定スルカ故ニ獨リ侵害事實ヲ認識スルノミナラス、傷害即チ毀損ノ結果ヲ豫見シタル行爲ナルコトヲ必要トスルカ如シト雖第二〇八條カ傷害ノ結果ナキ暴行即チ單純暴行ニ關スル規定ナルトキハ本條ヲ以テ暴行ニ因リ傷害ヲ加ヘタル罪ト稱スルヲ至當トス可ク從テ暴行ノ意思アルヲ以テ足リ必シモ傷害ノ意思ヲ必要トセサルモノト解スト(牧野學士ノ論旨)

(2)傷害罪　法文「人ノ身体ヲ損傷シタル者」トハ前罪「人ヲ殺シタル者」トノ法文ト等シク其故意ハ結果即チ身体傷害ナル結果ノ認識ヲ必要トスルコト文理解釋上毫モ疑ヲ存セス、而シテ第二百八條ヲ文字通リニ解スル時ハ傷害ノ結果アル暴行罪ノミヲ規定シ暴行ニ因リ傷害ノ結果ヲ生シタル場合ヲ不問ニ

附スル如クナレトモ、既ニ刑法カ傷害ナキ暴行ヲ罪トセル以上ハ之ニ因テ傷害ヲ生シタル場合ヲ不問ニ付スルノ法意ニ非サルコト勿論也、故ニ同條ハ暴行ノ結果傷害ヲ生セサル場合及ヒ傷害ヲ生スルモ其傷害ニ付キ故意ナキ場合ヲモ包含スルモノト解スルコトヲ得、從テ傷害罪(第二〇條)ハ單ニ暴行ノ故意ノミナラス傷害即チ身體毀損ノ認識ヲ要スト解スルヲ妨ケスト。

◎加勢罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

加勢罪トハ傷害罪ノ行爲アルニ當リ其現場ニ於テ勢ヲ助クタル罪ヲ謂フ(第二〇六條)其成立要素左ノ如シ

(1)他人カ傷害罪ノ行爲アルニ當リタルコトヲ要ス(場合)

(2)現場ニ於テ助勢シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)「現場ニ於テ」トハ他人カ傷害行爲ヲナセシ際ヲ謂フ(其行爲ノ着手前ナルト後ナルトヲ問ハス)(ロ)「助勢」トハ單ニ聲援ヲ爲スヲ謂フ(例ヘハ喧嘩ノ彌次馬ノ如シ)進テ暴行又ハ傷害行爲ニ加功シタル時ハ共犯ノ規定ニ依リ處罰セラル可カラス傷害罪ノ正犯ヲ幇助シタル名ハ總則(ハ)加勢ト從犯トハ區別セサル可カラス傷害罪ノ正犯ヲ幇助シタル名ハ總則共犯ノ規定ニ因リ處斷セラル、即チ聲援ト幇助トノ異ナル聲援ノ場合ハ犯罪實行者ノ行爲ノ認識如何ヲ必要トセス、漠然勢ヲ助ケタルヲ謂ヒ、幇助ノ場合ハ正犯者ハ如何ナル犯罪ヲ爲スモノナルヤヲ認識シ且之ニ實行ノ便宜ヲ與ヘントスル故意ヲ必要トスルニアリ、其手段ニ於テハ幇助行爲モ亦聲援行爲

ノ一也。

◎暴行罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

暴行罪トハ暴行ヲ加ヘタルモ人ヲ傷害スルニ至ラサルトキ又ハ傷害ノ結果ヲ生スルモ其傷害ニ付キ責任ヲ負擔セサル場合ノ罪ヲ謂フ(第二〇八條)其成立要素左ノ如シ

(1)暴行ヲ加ヘタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)「暴行」トハ肉體ニ對スル不法ノ腕力使用ヲ謂フ(其手段ノ如何ヲ問ハス)、(ロ)暴行ノミノ故意アル場合ハ勿論、傷害(身體毀損)ヲ與フル故意アルモ實際傷害ノ結果ヲ生セサルトキハ本罪ヲ構成ス。

(2)傷害ノ結果ヲ生セサルトキ又ハ傷害ノ結果ヲ生スルモ其責任ヲ負擔セサルトキナルコトヲ要ス(條件)

法文ニハ「人ヲ傷害スルニ至ラサルトキ」ト明規スルモ前掲學說論述ノ如ク其ヨリ事態重キ傷害ノ結果ヲ生シタル場合ヲ不問ニ付ス可キ理由ナキヲ以テ其傷害ノ結果ニ付キ責ヲ負ハサル場合(卽チ暴行ノ行爲ノミニテ傷害)ニ付キ豫見ナキ場合ヲ包含スルモノト解スルヲ可トス(但反對論アリ)

但暴行者カ其害傷ノ結果ヲ豫見シ得ヘキニ拘ラス不注意ニ因リ之ヲ認識セサルトキハ過失傷害罪ヲ成立スヘキヲ以テ第五四條ノ適用ヲ受クモノトス。

第二十八章　過失傷害ノ罪

◎過失傷害ノ意義及成立要素ヲ問フ、

過失傷害ノ罪ハ過失ニ因リ人ヲ傷害シ又ハ死ニ致シタル罪ヲ謂フ(第二〇九乃至二一一條)其成立要素左ノ如シ

(1)過失行爲ニ因リタルコトヲ要ス(行爲)

過失ノ意義及注意ノ程度ニ就テハ總論犯罪要素過失ノ說明參照。

(2)人ヲ傷害シ又ハ死ニ致シタルコトヲ要ス(結果)。

(イ)傷害、致死ノ意義前掲說明參照、(ロ)本罪ハ業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ死傷ニ致シタル者ヲ特ニ重ク罰セリ「業務上必要ナル注意」トハ一定ノ業務ニ從事スル者カ其業務ノ執行ニ付キ爲ササル可カラサル注意ヲ謂フ、(例ヘハ電車運行ニ於ケル運轉手、手術ニ於ケル外科醫ノ注意ノ如キ卽是也「注意ヲ怠リ」トハ不注意ヲ意味ス其注意ノ程度ハ客觀的標準ニ依ル(是レ特ニ本條ノ規定アル所以也)。

第二十九章　墮胎ノ罪

墮胎ノ罪トハ胎兒ヲ死亡セシメ又ハ自然ノ出生期ニ先チ人工的ニ母體ヨリ驅逐スル罪ヲ謂フ(第二一二乃至二一六條)本章ノ罪ヲ分テ(一)姙婦墮胎罪(第二一二條)(二)承諾墮胎罪(第二一三、二一四)(三)無斷墮胎罪(第二一五、二一六條)ノ三トス

◉墮胎罪ノ性質如何、

墮胎罪ニ於テ保護スヘキ法益ニ付テハ沿革上二派ノ潮流アリ、羅馬法ノ觀念ニ依レハ胎兒其者ヲ保護スルカ爲メニ非スシテ妻ニ對スル夫ノ權利ヲ保護スルニ在リ、反之寺院法ニ於テハ胎兒其者ヲ保護スルノ觀念行ハル降テ「チアレス」五世ノ「カロリナ」法典ニ於テハ寺院法ノ觀念ヲ採用シ殊ニ生存スル胎兒ヲ殺害スルトキニ限リ刑法ヲ以テ定メタル刑罰ヲ科スルモノトセリ、「カロリナ」法典以後ノ立法ハ皆胎兒ヲ保護スルノ觀念ニ基クモノナリ、而シテ今日ノ學說ニ於テハ單ニ胎兒ノ將來ニ於ケル人トシテノ存在ヲ保護スルコトヲ主張スルモノト胎兒ノミナラス懷胎ノ婦女ヲモ併セテ保護スルト爲スモノトアリ、現行法上ニ於テハ懷胎ノ婦女ノ身體生命ヲ侵害スル結果ヲ生スルトキハ刑ヲ加重スルヲ以テ見レハ後說ヲ採ルヘキモノナリ、

墮胎罪ハ殺害ノ意思ヲ以テ生存スル胎兒ヲ母體內ニ於テ又ハ分娩期前ノ出產ニ因テ殺害スルニ非サレハ成立セサルヤ將タ殺害ノ意思ナキモ分娩期前ニ出產セシムル行爲ヲ以ヤ成立スルヤ是レ爭アル所ナリ、前者ニ依レハ本罪ハ傷害罪トナリ、後者ニ依レハ危險罪トナルヘシ、普通ノ觀念ニ依レハ前說ヲ以テ正當ト認ムヘキカ故ニ現行法ニ於テモ亦之ニ從フヲ穩當ト爲スヘキノミナラス沿革ニ於テ考フレハ決シテ後說ヲ容ルルノ餘地ナシト信ス、(豐島博士法學錄解答)

◉姙婦墮胎罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

姙婦墮胎罪トハ懷胎ノ婦女カ自ラ墮胎シタル罪ヲ謂フ(第二一一條)其成立要素左ノ如シ

(1)墮胎シタルコトヲ要ス(行爲)

「墮胎」トハ生存セル胎兒ヲ死亡セシメ又ハ自然ノ出生期ニ先チ人工的ニ母體外ニ排出スルヲ謂フ、故ニ(A)母體內ニ於テ其胎兒ヲ死セシムルトキハ本罪ノ既遂ト成ル、(B)胎兒カ自然ノ出生期ヨリ早ク人工的ニ母胎ヨリ分離セシメタルトキハ本罪ノ既遂トナリ、胎兒死亡ノ事實ヲ要セス(23年1月6日大審院判決)但異論アルヲ免レス(學說ニハ(1)胎兒死亡說、(2)母體分離說、(3)死亡分離說トアリ)。

(2)姙婦自ラ墮胎シタルコトヲ要ス(主體)

(イ)手段ニ何等ノ制限ナシ、藥物服用其他如何ナル方法タルトヲ問ハスロ又直接ニ自ラ手ヲ下スト他人ニ依頼シテ手段ヲ施サシムルトヲ區別セス(但後ノ場合ニハ其姙婦ハ本條ニ依リ處斷シ其他人ハ次罪ニ依リ處斷ス)

◉承諾墮胎罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

承諾墮胎罪トハ姙婦ノ囑託ヲ受ケ又ハ承諾ヲ得テ墮胎セシメタル罪ヲ謂フ(第二一三條)其成立要素左ノ如シ

(1)姙婦ノ囑託ヲ受ケ又ハ承諾ヲ得タルコトヲ要ス(條件)

(イ)囑託、承諾ハ姙婦ノ自由ナル意思ニ因ルモノナラサル可ラス、(ロ)故ニ脅迫ニ因ル承諾又ハ心神喪失ニ因ル囑託ニ基ク場合ハ承諾又ハ囑託ナキ墮胎罪ヲ構成ス(ハ)姙婦ヲ教唆シテ自ラ墮胎セシメタル場合ハ第五六條等二項ニ依リ本罪ヲ構成ス、(二)姙婦ノ墮胎ヲ幫助スル行爲ハ總則從犯ノ規定ニ依リ處斷ス。

(2)其姙婦ヲシテ墮胎セシメタルコトヲ要ス(主體、行爲)

(イ)其手段ノ如何ヲ問ハス、但因テ姙婦ヲ死傷ニ致シタルトキハ重罰ス(結果犯也)(問題)姙婦ヲ死傷ニ致シタル場合ニ於テハ其死傷ナル結果ノ發生ノ外其墮胎事實モ亦既遂ナルコトヲ要スルヤ否ヤニ關シ疑アリ、

(1)次罪卽チ囑託又ハ承諾ナクシテ墮胎ニ着手シ因テ死傷ニ致シタル場合ハ法文(第二一六條ノ「前條ノ罪」ノ中ニハ第一二五條第二項ノ未遂罪ヲ包含ス)ノ明示アルカ故ニ何等疑ナシ、(2)本罪ニ付テハ明示ナキカ故ニ疑ヲ生ス、通說ハ其墮胎事實ノ既遂未遂ヲ問ハストス、判例モ亦然リ(30年12月11日大審院判決)蓋シ刑法カ結果犯ニ付キ基本タル行爲ノ既遂ヲ要スル場合ハ(例ヘハ第一二六條ノ如ク)特ニ「前項ノ罪ヲ犯シ云々」ト規定セルモ本罪ノ場合ニ於テ斯ル文例ナシ、且本項ノ規定ハ墮胎ニ際シ生シタル傷害罪ヲ特別ニ處罰スルノ趣旨ト解ス可キカ故ニ其墮胎ノ既遂、未遂ヲ問フノ必要ナケレハナリ、(ロ)本罪ノ主體カ通常人ナルト醫師、產婆、藥劑師、藥種商ナルトニ因リ其處分ヲ異ニス(蓋シ是等ノ者ハ之ヲ犯スニ容易ナル地位ニアル者ニテ其危險大ナルカ故也、

●無斷墮胎罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

無斷墮胎罪トハ姙婦ノ囑託ヲ受ケス、又ハ承諾ヲ得スシテ墮胎セシメタル罪ヲ謂フ(第二一五、二一六條)其成立要素左ノ如シ

(1)姙婦ノ囑託又ハ承諾ナキコトヲ要ス(條件)

(イ)囑託又ハ承諾ニ基ク場合ハ前罪ト成ル、本罪ハ其囑託又ハ承諾ナキコトヲ要ス、(ロ)然レトモ申込ヲ拒絕セラレタルコトヲ要セス、又姙婦ノ意思ノ如何ヲ問ハス、只囑託又ハ承諾ノ事實ナキヲ以テ足ル(例ヘハ姙婦ハ墮胎ヲ希望シタルモ未タ其行爲ヲ決意スルニ至ラサリシニ偶々他人ヨリ墮胎劑ヲ服用セシメラレ墮胎シタル場合ノ如キ其他人ハ本罪ヲ構成ス)更ニ一歩ヲ進テ姙婦カ其墮胎ヲ決意セルト雖モ、未タ其實行ニ着手セサル以前ニ於テ他人ニ因テ墮胎セシメラレタルトキハ其他人ハ本罪ヲ構成ス、蓋シ法律ハ特ニ「囑託ヲ受ケス又ハ承諾ヲ得スシテ」ト規定シ「其意ニ反シテ」ト規定セサルノミナラス、本罪ハ胎兒保護ノ精神ニ出ツルモノニシテ姙婦ノ意思如何ヲ問フノ必要ナケレハ也

(2)之ヲ墮胎セシメタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)其手段ノ如何ヲ問ハス、但因テ姙婦ヲ死傷ニ致シタルトキハ重罰ス(結果犯也)(ロ)其主體ハ通常人ナルヤ否ヤニ因テ其處分ヲ異ニセス。

第三十章　遺棄ノ罪

遺棄ノ罪トハ老、幼、不具及疾病者ヲ保護セサル罪ヲ謂フ(第二一七乃至二一九

條)本章ノ罪ヲ分テ(一)一般遺棄罪(第二一七、二一九條)(二)有責遺棄罪(第二一八、二一九條)ノ二トス。

◎一般遺棄罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

一般遺棄罪トハ保護ノ責任ヲ有セサル者ノ爲シタル遺棄罪ヲ謂フ(第二一七、二一九條)其成立要素左ノ如シ

(1)老、幼、不具又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可キ者ナルコトヲ要ス(客體)

(イ)「扶助ヲ要ス可キ者」トハ老、幼、不具又ハ疾病ノ爲メ自ラ其生計資料ヲ準備スル能力ナキ者ヲ謂フ(單ニ貧困、遭災、其他同情スヘキ狀況ニ在ル者ヲ含マス)(ロ)老、幼ノ年齡ニ付キ特別ノ制限ナシ、故ニ扶助ヲ要スヘキヤ否ヤニ依リ本罪ノ客體タルヘキ老者、幼者ナルヤヲ判斷スヘキモノトス、(ロ)疾病者中ニハ銘酊者又ハ覺睡劑若クハ催眠術ニ罹リタル者ヲモ包含スト解ス。

(2)保護ノ責任ナキ者カ遺棄シタルコトヲ要ス(主體ト行爲)

(イ)「遺棄」トハ被保護者ト保護者トカ離隔シテ必要ナル保護ヲ與ヘス又ハ其保護ヲ受クルコトヲ得サル狀態ヲ謂フ、故ニ(A)離隔スルモ保護ヲ缺ク事實又ハ意思ナキトキハ遺棄ニ非ス、單ニ生存ニ必要ナル保護ヲ爲サヽルモ離隔セサル場合ハ遺棄ニ非ス(B)其離隔ハ被保護者ヲ他所ニ移轉シタルト保護者自ラ移轉(即チ被保護者ノ置去リ)シタルトヲ問ハス保護ヲ缺ク事實存スレハ遺棄トナル、(ロ)遺棄ハ離隔ト保護ノ欠缺トニ因テ成立シ被遺棄者カ他人ニ救助セルルコトノ確實ナルト否トヲ問ハス、(ハ)遺棄ハ保護者以外ノ者カ保護者ト被保護者トヲ離隔セシメテ其保護ヲ受ケサラシムル場合ニ於テモ成立ス、(例ヘハ保姆ノ不注意ヲ利用シテ其監督ニ係ル小兒ヲ他所ニ誘フカ如キ又ハ其保姆ヲ他所ニ誘フカ如シ、但此場合ニ於テ小兒ヲ自己又ハ他人ノ監督内ニ入ラシムトキハ誘拐罪ヲ構成ス單ニ保護者ノ手ヨリ離隔スルニ止マルトキハ遺棄罪也、(ニ)本罪ノ主體ハ其保護ノ責任ナキ者ナルコトヲ要ス、其責任アル者ノ遺棄ハ次條ニ於テ規定セリ。

◎有責遺棄罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

有責遺棄罪トハ保護ノ責任アル者カ爲シタル遺棄罪ヲ謂フ(第二一八、二一九條)其成立要素左ノ如シ

(1)老、幼、不具疾病者ヲ保護ス可キ責任アルコトヲ要ス(主體)

「保護スヘキ責任アル者」トハ之ヲ保護スル義勢アル者ヲ謂フ、其義務ハ法律ニ因リ當然生スルモノナルト契約ニ因リ生スルモノナルト又有償ナルト無償ナルトヲ問ハス。

(2)之ヲ遺棄シ又ハ生存ニ必要ナル保護ヲ爲サヽルコトヲ要ス(行爲)

遺棄シタルトキハ勿論遺棄セサルモ生存ニ必要ナル保護ヲ爲サヽルトキハ本罪ヲ構成ス、「生存ニ必要ナル保護ヲ爲サス」トハ被保護者ト離隔セスシテ生命ヲ維持スルニ缺ク可カラサル保護ヲ與ヘサル場合ヲ謂フ(離隔スルトキハ

遺棄ト成ル)例ヘハ衣食ヲ給セス、病者ニ醫藥ヲ與ヘサルカ如シ(但亦食ニシテ實際其資力ナキ場合ノ如キハ罪ト成ラサル可シ、蓋シ法律ハ不能ヲ要求スルモノニ非サレハナリ)。

第三十一章　逮捕及監禁ノ罪

◉逮捕及監禁罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

逮捕監禁罪トハ不法ニ人ヲ逮捕シ又ハ監禁シタル罪ヲ謂フ(第二二〇、二二一條)其成立要素左ノ如シ

(1)逮捕又ハ監禁シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)「逮捕」トハ身体ヲ束縛即チ監禁以外ノ方法ニ依テ居所移轉ノ自由ヲ奪剝スル行爲ヲ總稱ス(必シモ繩組ヲ以テ制縛スルヲ要セス)「監禁」トハ一定ノ區劃内ニ留置シテ其外部ニ出ツル自由ヲ剝奪スルヲ謂フ、

其居所移轉ノ自由ヲ剝奪スル逮捕監禁共ニ同シ只監禁ハ一定ノ區劃ニ拘置スルヲ要スルノミ、(ロ)逮捕及監禁ハ共ニ手段ノ如何ヲ問フコトナシ(腕力ヲ以テスルト器具ヲ以テスルト暴力(直接躰軀ニ物質力ヲ加フル(行爲)ニ訴フルト精神作用ニ訴フルニ出ツルトヲ問ハス、例ヘハ二階ノ一室ニ幽閉シテ階子段ヲ取外スカ如キ、又ハ裸體ノ婦人ニ衣服ヲ與ヘスシテ一室ニ閉居セシムルカ如キ亦監禁ト稱スルコトヲ得ヘシ)。

(問題)本罪ハ即成犯ナリヤ繼續犯ナリヤ學說アリ、(1)逮捕監禁共ニ即成犯也ト

ノ說(牧野小疇諸氏同說)、(2)逮捕監禁共ニ繼續犯ナリトノ說(大協氏同說)(3)逮捕ハ即成犯ナレトモ監禁ハ繼續犯也(岡田勝本泉二諸氏同說)ノ三種トス何レヲ採ルモ繼續也トセハ其不法ノ狀態カ多少ノ繼續的ニ維持セラルルコトヲ罪ノ構成要件トス、從テ公訴時效ノ起算點ハ不法狀態ノ終リタルトキヨリ起算スヘク又犯罪地ハ其不法狀態ノ繼續シテ行ハレタル總テノ地ヲ以テ定ム可キモノトス(總論「罪ノ種別」參照)

(2)不法ナルコトヲ要ス(認識)

(イ)犯罪ノ通有性トシテ不法ナルコトヲ要スルハ明文ヲ待タスシテ明也、然ルニ本條特ニ「不法ニ」ト明規セルヲ以テ本罪ノ構成ニハ犯人ニ於テ罪トナル可キ事實(即チ逮捕監禁行爲)ヲ知得スルコトノ外更ニ其行爲ノ不法タルコトノ認識ヲ要スト解セサル可カラス(但注意的文字ニ過キスト解スル者アリ)故ニ法律ヲ誤解シ逮捕又ハ監禁ノ權利アリト誤信シテ之ヲ爲シタル場合ハ不法ノ認識ヲ缺クニ依リ本罪ヲ構成セストノ論斷ヲ生ス(但反對說アリ)

第三十二章　脅迫ノ罪

◉脅迫罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

脅迫ノ罪ハ人ニ對シ害惡ヲ通知シ恐怖ノ念ヲ生セシメタル罪ヲ謂フ、之ヲ(一)單純脅迫罪(第二二一條)(二)加重脅迫罪(第二二三條)トニ分ツ。其成立要素左ノ如

シ

(一)純脅迫罪

(1)脅迫ヲ爲シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)「脅迫」トハ害惡ヲ通知シ人ニ畏怖心ヲ生セシムルヲ以テ害惡ヲ加フ可キ事ヲ通知スル曰ク脅迫トハ人ニ畏怖心ヲ生セシムルヲ以テ害惡ヲ加フ可キ事ヲ通知スルコトヲ謂フ)ト故ニ脅迫罪ノ成立ニハ被脅迫者カ之ニヨリテ畏怖心ヲ生シタルコトヲ要ス、(但別說ニ從ヘハ之ヲ要セス)(牧野學士所說)然レトモ之ニ因リテ意思ノ束縛(卽チ反抗心ノ抑壓)スルコトヲ要セス單ニ恐喝ニ屬スル程度ノモノニテモ足ル(廣義ノ脅迫)(ロ)本罪ノ故意ハ被脅迫者ニ畏怖心ヲ生セシムル意思アルヲ以テ成立シ、更ニ進ンテ其脅迫事項ノ行爲ヲ行ハントスル意思アルコトヲ要セス、(ハ)又脅迫ノ目的(遠因如何ヲ問ハス、戲レニ出ツルモ本罪ヲ構成ス)。

(2)被脅迫者又ハ其親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財產ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テシタルコトヲ要ス(害惡通知ノ材料)。

(イ)害ヲ加フ可キコトノ豫告ハ此等法益ニ對シ自己ノ行爲ニ因リ直接自身又ハ間接ニ他人ヲ利用シテ害惡ヲ生ス可キ事ヲ豫告スルヲ謂フ、故ニ自然ノ作用ニ因ル害惡アルヲ豫告スルモ脅迫ト爲ラス、(ロ)生命、身體、自由、名譽、財產ニ對シ害惡ヲ生スルコトヲ豫告スルヲ要ス、然レトモ其豫告事項カ客觀的ニ害惡ヲ生ス可キ事タルコトヲ要セス、(例ヘハ「禍殺ス可シ」ト告ツルカ如キ場合ニ於テモ之ニ因テ相手方カ畏怖ノ念ヲ生スルトキハ本罪ヲ構成ス)(ハ)被脅迫者又ハ其親族ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ豫告スルハ本罪ヲ構成セス。

(二)加重脅迫罪

(1)前掲法定ノ事項ヲ以テ脅迫シ又ハ暴行ヲ爲シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)脅迫ノ意義再說セス、(ロ)本罪ノ「暴行」廣ク不正ノ腕力行爲ヲ謂フ必シモ身體ニ對スルヲ要セス又反抗力ヲ抑壓スヘキ程度ノモノタルコトヲ要セス(廣義ノ暴行)

(2)人ヲシテ義務ナキコトヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルコトヲ要ス(結果)

(イ)「義務ナキコトヲ行ハシム」トハ全然其行爲ヲ爲スノ義務ナキ場合ハ勿論其義務アルモ其履行期前ニ爲サシムル場合ヲモ包含ス(ロ)權利ノ妨害トハ權利行使ヲ不能困難又ハ遲延ナラシムルコトヲ總稱ス、(ハ)脅迫又ハ暴行ヲ加ヘテ不法ニ物ヲ交付セシムルモ亦義務ナキ事ヲ行ハシムルモノナリト雖モ、此場合ニ於テハ其暴行脅迫ニ因テ反抗心ヲ抑壓シテ物ヲ交付セシメタルトキハ强盜罪(第二三六條)ト成リ又其反抗力ヲ抑壓セサル程度ノ脅迫ニ因テ物ヲ交付セシムルハ恐喝取財罪(第二四九條)ト成ルヲ以テ本條ノ「義務ナキ事ヲ行ハシム」トハ强盜及ヒ恐喝取財タラサル場合ニ限ル、(ニ)本罪ノ故意ハ義務ナキコトヲ行ハシメ又ハ行フヘキ權利ヲ妨害スル目的ヲ以テ脅迫又ハ暴行ヲ爲ス

意思ヨリ成立ス。

◎脅迫罪ノ脅迫ト強盗罪ノ脅迫トハ如何ナル差異アリヤ、且ツ恐喝トノ區別如何、

脅迫トハ他人ニ對シ自ラ直接又ハ間接ノ害惡ヲ被ラシム可キ旨ヲ通知スル行爲ヲ謂フ而シテ脅迫罪ニ所謂脅迫モ強盗犯ニ所謂脅迫モ共ニ一般ノ脅迫ニ必要ナル性質ヲ具備スヘキコト勿論ナリト雖モ尚ホ左ノ差異ヲ認ムルコトヲ得即チ脅迫罪ニ所謂脅迫ニ必要ナル通知ノ內容ハ刑法ニ制限列記シタル害惡即チ當該者又ハ其親族ノ生命、身體、自由、名譽、又ハ財產ニ對シ害ヲ加フ可キモノタルコトヲ要スルモノニシテ強盗罪ニ所謂脅迫ニ必要ナル通知ノ內容ハ一定ノ種別ニ屬スル害惡即チ被害者又ハ其關係者ニ對スル現在ノ害惡ナラサル可カラス、換言スレハ脅迫罪ニ所謂脅迫及ヒ強盗罪ニ所謂脅迫ハ共ニ一定ノ制限ヲ付セラレタル脅迫ナリト雖モ其制限カ個々ノ害惡ニ依リ爲サルルト一定ノ種別ニ依リ爲サルルトニ依リテ區別スト言フコトヲ得ヘシ、

恐喝ノ何タルヤハ刑法上思議ス可カラサルモノノ一ニ屬ス、從テ學者又ハ其見ルトコロニ從ヒ別異ノ見解ヲ下スヲ以テ殆ント其通說ヲモ揭記シ難シ蓋シ脅迫以外ニ恐喝ナルモノヲ認ムルハ明白ニ刑法ノ缺點タルヲ以テ眞面目ニ恐喝及ヒ脅迫ノ區別ヲ論センコトハ事既ニ兒戲ニ類スト雖モ左ニ予ノ

信スルトコロヲ摘錄セントス、

恐喝トハ他人ニ對シ現在ナラサル害惡カ到來ス可キ旨ヲ通知スル行爲ヲ爲シ因リテ他人ヲ畏怖セシメタル事實ヲ云フト解ス故ニ之ヲ上述シタル脅迫ノ定義ト對比スルトキハ概不左ノ差異ヲ認ムルコトヲ得、

第一脅迫ニハ通知者自身カ他人ニ害惡ヲ被ラシムル可キ旨ヲ通知スルコトヲ要シ恐喝ハ單ニ他人カ害惡ヲ被ムルニ至ル可キ旨ヲ通知スルコトヲ以テ足ル從テ脅迫ニ必要ナル害惡ハ常ニ人爲ノ害惡タルコトヲ要シ、恐喝ニ必要ナル害惡ハ天災又ハ地異タルコトヲ妨ケス、例之我汝ヲ殺サント通知シ又ハ我他人ヲ幫助シテ汝ヲ殺サント通知スルハ脅迫ナリ、單ニ第三者カ汝ヲ殺サント通知シ又ハ幽靈カ汝ヲ殺サント通知スルハ恐喝ナリ、

第二、脅迫ニ必要ナル通知ハ現在ノ害惡ニモ關ス恐喝ニ必要ナル害惡ハ單ニ現在ナラサル害惡ノミニ關ス、是レ若シ現在ノ事實ノ通知モ亦恐喝ナリトセハ恐喝取財罪及ヒ脅迫ニ依ル强盗罪間ノ區別皆無ト爲ル可ケレハナリ、故ニ例之直ニ汝ヲ殺サント通知スルハ脅迫ニシテ恐喝ナリ、

サント通知スルハ脅迫ニシテ恐喝ニアラス、數日中ニ汝ヲ殺

第三、恐喝ハ其結果トシテ他人カ畏怖シタルコトヲ必要トシ、脅迫ハ單ニ通知スル行爲ノミニ依リ成立ス、學者或ハ通知セラレタル者カ害惡ノ到來ス可キコトヲ信認シタルニアラスハ脅迫トハ云フ可カラスト論シ或ハ通知セラレタル者カ畏怖シタルニアラスハ脅迫トハ云フ可カラスト論ス、此見解ニ依レ

ハ恐喝及ヒ脅迫間ノ差異ハ只第一第二ニ論シタルモノノミニ止マル可シ、此見解ハ敢テ論理上之ヲ採用シ難シトハ云フ能ハスト雖モ予ハ妥當ヲ缺クモノトシテ之ヲ採用セス(谷野學士法質錄解答)

第三十三章　略取及ヒ誘拐ノ罪

略取誘拐罪トハ人ヲ詐取誘拐シタル罪、人ヲ賣買シ又ハ國外ニ輸送シタル罪及ヒ此等ノ犯罪ヲ幇助シタル罪ヲ包含ス(第二二四乃至二二九條)故ニ詐取誘拐ニ關スル罪ト題スルヲ可トス。本章ノ罪ヲ分テ(一)單純拐取罪(第二二四、二二八條)(二)重罰拐取罪(第二二五、二二六條第一項、二二八條)(三)賣買移送罪(第二二六條第二項、二二八條)(四)拐取幇助罪(第二二七、二二八條)

◎單純拐取罪(親告罪)ノ意義及成立要素ヲ問フ、

單純拐取罪トハ單ニ未成年者ヲ詐取又ハ誘拐シタル罪ヲ謂フ(第二二四、二二八條)其成立要素左ノ如シ

(1)未成年者ナルコトヲ要ス(客體)

(イ)本罪ノ客體ハ未成年者(男女、辨別心ノ有無ヲ問ハス)ナルコトヲ要ス、單ニ(即チ他罪ノ要素タル目的ナク)成年者ヲ詐取誘拐スルモ罪ト成ラス、(ロ)本罪ハ監督者アル場合ニ限ラス、監督者ナキ未成年者ニ對シテモ本罪ヲ構成ス(ニ)然レ

モ一般犯罪ト同シク利益侵害ヲ要素トスル故ニ監督者ナキ未成年者ノ利益ノ爲メニ拐取(略取及誘拐ノ略語也)スル場合ニハ罪ト成ラス(若シ此場合ニ監督者アルトキハ其監督者ノ監督ヲ侵害スル故ニ本罪ヲ構成ス)。

(2)詐取誘拐シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)「詐取」トハ暴行脅迫ニ因リ人ヲ自己ノ支配ニ致スヲ謂ヒ、「誘拐」トハ欺罔又ハ誘惑ニ因リ人ヲ自己ノ支配内ニ致スヲ謂フ、「自己ノ支配内ニ致ス」トハ自己ノ實力ヲ行使シ得ヘキ狀態ニ置クヲ謂ヒ(必シモ制縛監禁ヲ要セス)(ロ)其暴行脅迫、欺罔誘惑等ノ行爲ハ必シモ被拐取者自體ニ對シテ之ヲ成スコトヲ要セス、其監督者(例ヘハ父母例ヘハ子守婢僕)ニ加ヘラルル場合ト雖モ苟モ未成年者ヲ自己ノ支配内ニ致ス方法トシテ用ヒル場合ナレハ本罪ヲ構成ス(ハ)詐取及誘拐ノ手段ヲ併用セル場合ハ意思繼續ニ出スル限ル場合ニ一罪也。

◎重罪拐取罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

重罰拐取罪トハ營利、猥褻、結婚又ハ海外移送ノ目的ヲ以テ詐取又ハ誘拐シタル罪ヲ謂フ(第二二五、二二六條第一項、二二八條)其成立要素左ノ如シ

(1)營利、猥褻、結婚又ハ國外移送ノ目的ナルコトヲ要ス(目的)

(イ)營利トハ財産ノ利益ヲ取得スルヲ謂ヒ「猥褻」トハ淫事ニ關シ一般人ヲシテ色情又ハ背倫ノ感念ヲ惱カシムル行爲ヲ謂フ此ニ「結婚」トハ事實上ノ夫婦關係ヲ謂ヒ(民法上ノ婚姻タルヲ要セス)「國外移送」トハ帝國外ニ移送スルヲ謂フ

(故ニ朝鮮臺灣樺太其他邊陬ノ地ニ移送スル目的アルモ本罪ヲ構成セス)(ロ)此等ノ目的ヲ以テ拐取シタルコトヲ要スルノミニテ拐取ノ結果實際之等ノ行爲アリタルコトヲ要セス。

(2)略取又ハ誘拐シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)略取誘拐ノ意義前掲參照(ロ)其被拐取者ハ未成年者ナルト否トヲ問ハス、又男女、辨別心ノ有無ヲ問ハス(ハ)又如上ノ目的ヲ以テ爲シタル上ハ其結果カ被拐取者ノ利益トナリタルト否トニ關係ナシ。

◉賣買移送罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

賣買移送罪トハ帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シタル罪及ヒ被拐取者若クハ被賣者ヲ帝國外ニ移送シタル罪ヲ謂フ(第二二六條第二項)其成立要素左ノ如シ

(1)帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シタルコトヲ要ス(人身賣買罪)

(イ)人ヲ賣買シタルモ帝國外ニ移送スル目的ナク單ニ娼妓、酌婦等ニ賣買スルモ本罪ヲ構成セス(但此場合略取誘拐ノ所爲アレハ第二二四、二二五條ノ罪ヲ構成スルコトアリ)(ロ)此ニ「賣買」トハ居法上ノ賣買ノミヲ謂フニ非ス、凡テ有償名義ヲ以テ爲ス交付ヲ謂フ(此場合ノ賣買ハ其意思表示ニ因テ既遂ト成リ交付(引渡)ヲ要セスト云フ說アリ)(ハ)被賣者ハ被拐者ナルト否トヲ問ハス、(二)又賣主ハ拐取者ナルト否トヲ問ハス(故ニ父母カ本條ノ目的ヲ以テ子女ヲ賣買スルモ亦本罪ヲ構成ス)(ホ)法律ハ人身ノ賣買ヲ處罰ス、故ニ被賣者及ヒ關係人ノ承諾アル場合ト雖モ尙之ヲ犯罪トス。

()又ハ被拐者若クハ被賣者ヲ帝國外ニ移送シタルコトヲ要フ(移送罪)

(イ)國外移送罪ノ客體ハ被拐取者又ハ被賣者ニ限ル(但被拐取者ハ帝國外ニ移送ノ目的ヲ以テ拐取セラレタル者ニ限ラス、又被賣者ハ既ニ賣買セラレタル者ニ限ラス、移送ノ上賣買セラルル者ヲモ包含ス)(ロ)本罪ノ主體ハ拐取者又ハ賣主ナルト其他ノ者ナルトヲ問ハス、被拐取者又ハ被賣者ナルコトヲ知テ之ヲ國外ニ移送シタルトキハ何人ニ對シテモ本罪ヲ構成ス。

◉拐取幫助罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

拐取幫助罪トハ如上ノ犯罪ヲ幫助スル目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受若クハ藏匿シ又ハ隱滅セシメタル罪又ハ營利猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シタル罪ヲ謂フ(第二二七條)其成立要素左ノ如シ

(1)如上ノ犯罪ヲ幫助スル目的又ハ營利猥褻ノ目的ヲ以テスルコトヲ要ス(目的)

(イ)如上ノ犯罪トハ前三條(第二二四、二二五、二二六條)ノ罪ヲ謂フ(ロ)此等ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幫助スル目的ヲ以テ爲スコトヲ要ス、然ラサル場合ハ營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ爲ス場合ノ外罪ヲ構成セス(ハ)如上ノ目的アルコトヲ要スルノミニテ、其實際其結果ノ發生シタルト否トヲ問ハス。

(ニ)被拐者又ハ被賣者ヲ收受藏匿又ハ隱避セシメタルコトヲ要ス(行爲)
(イ)「收受」トハ交付ニ因テ自己ノ支配内ニ入ラシムル一切ノ場合ヲ包含ス(有償ト無償トヲ問ハス、雇人家族妾其他ノ名義ノ如何ヲ問ハス)(ロ)「藏匿」トハ發見ヲ妨ク可キ場所ヲ供給スルヲ謂ヒ、(ハ)「隱避」トハ藏匿以外ノ方法ヲ以テ發見ヲ妨ク可キ一切ノ行爲ヲ謂フ(ニ)營利猥褻ノ目的ヲ以テ爲ス場合ハ收受行爲ノミヲ處罰シ藏匿隱避ノ場合ヲ處罰セス。

第三十四章　名譽ニ對スル罪

名譽ニ對スル罪トハ人ノ名譽ヲ侵害シタル罪ヲ謂フ(第二三〇乃至二三二條)
本章ノ罪ヲ分テ(一)誹毀罪(第二三〇條)(二)侮辱罪(第二三一條)ノ二トス

◉誹毀罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

誹毀罪トハ公然事實ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル罪ヲ謂フ(第二三〇條)其成立要素左ノ如シ

(1)人ノ名譽ヲ毀損シタルコトヲ要ス(行爲)
(イ)「名譽ノ毀損」トハ人ノ會社上ノ地位ヲ侵害スルヲ謂フ人ノ社會上ニ於ケル價値ニ因テ保持セラル、一般ニ身分品性德儀上ノ信用等人ノ社會上ノ價値ヲ否定スル行爲ヲ謂フ(ロ)苟モ名譽毀損ノ行爲ハ其人ニ於ケル社會上ノ價値ヲ否定スル行爲ヲ謂フ(ロ)苟モ社會上名譽ヲ有スル人タルニ於テハ本罪ノ客體タルニ妨ケナシ(A)善通人ハ

勿論(B)小兒、狂人ト如キモ社會上ノ地位ヲ有スル者ナルトキハ之ニ對シテ本罪ヲ成立ス、(C)法人モ又社會上ノ地位ヲ有スルコト勿論ナルヲ以テ之ニ對シテ本罪ヲ成立ス(但多少ノ異論アルヲ免カレス)(D)死者ニ對スル本罪ハ畢竟其家族ノ名譽ヲ保護スルモノニ外ナラス、(ハ)其人ハ必ス一定ノ人ニ對スルコトヲ要ス(不定ナル一團ノ人、例ヘハ支那人、來國人ハ云々トノ如ク、一般ノ對スル場合ハ罪ト成ラス)一定ノ人ナル以上ハ一人ナルト數人ナルトヲ問ハス、又其氏名ヲ明示スルト否トヲ問ハス、又包括的ニ指示セラレタルト否トヲ問ハス、本罪ヲ成立ス。

(2)公然事實ヲ摘示シタルコトヲ要ス(手段)
(イ)「事實ヲ摘示ス」トハ其人ニ關スル一定ノ事項ヲ擧指シテ他人ニ披露スルヲ謂フ(A)其摘示事實ハ眞實ナルト否トヲ問ハス(但死者ノ名譽ヲ毀損スル場合ニハ必ス誣罔則チ虛僞事實ノ摘示ニ出ツルコトヲ要ス)(B)其事實ハ其人ノ名譽ヲ毀損スルニ足ルヘキモノナルコトヲ要ス(例ハハ舊法所論(惡事醜行)ノ如シ)(C)其事實ノ摘示ハ公然ナルコトヲ要ス「公然」トハ不特定人又ハ多數人ノ面前ニ於テスル場合ヲ謂フ(對坐其人ノ惡行ヲ摘責スルモ罪ト成ラス)必ス第三者ノ介在ヲ要ス(ロ)其事實摘示ノ方法ニハ何等ノ制限ナシ(故ニ公然ノ演說、文書、圖畫ノ發行、雜劇、偶像ノ作爲其他ノ方法ナルトヲ問ハス、但シ公然ナルコトヲ要スルノミ)(ハ)苟モ公然名譽ヲ毀損スル行爲アリタル以上ハ其被害者ニ於テ之ヲ知ルコトヲ必要トセス、又被害者ニ於テ之カ爲メニ名譽ヲ害サレタリ

ト感得スルコトヲ必要トセス(本罪及侮辱罪ニ告訴權ヲ認メタルハ訴追ニ因テ益々被害者ノ名譽ヲ損傷スルコトアルヲ慮リテ也、被害者ノ感得有無ヲ確カムル故ニ非ス、本罪及侮辱罪ハ第三者ニ知了セラレタトキニ於テ既遂ト成ル)

(餘說)新聞紙條例ト出版法　新聞條例(第二五條)及出版法(第三一條)ハ「記載事項カ私行ニ渉ルモノヲ除ク外裁判所ニ於テ其人ヲ害スルノ惡意ニ出テス專ラ公益ノ爲ニスルト認ムルトキハ被告人ニ事實ノ證明ヲ許スコトヲ得、若シ其證明ノ確立ヲ得タルトキハ誹毀ノ罪ヲ免ス、其損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキ同亦シトセリ(イ)其「私行ニ渉ルモノ」トハ其非行關係カ直接ニ公衆ノ利害ニ及ハサル性質ノモノヲ謂フ故ニ其性質ニ於テ公共ニ關スル事項ヲ處理スル上ニ於テ爲ス行爲ハ(必シモ公務ノ處理タルコトヲ要セス)私行ニ渉ルモノヲ除ク事項ナリ(36年6月15日大判)(ロ)「罪ヲ免ス」トハ犯罪ノ不成立ヲ意味シ刑ヲ免スル意味ニ非スト解ス(但反對說アリ)

⑥侮辱罪ノ義及成立要素ヲ問フ、

侮辱罪トハ事實ヲ摘示スルコトナク公然人ヲ侮辱シタル罪ヲ謂フ(第二三一條)其成立要素左ノ如シ

(1)公然人ヲ侮辱シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)「侮辱」トハ一般ニ人ノ名譽ヲ毀損スルヲ謂フ、事實ヲ摘示シテ爲ス場合ハ之ヲ誹毀ト稱ス誹毀モ亦侮辱ノ一態樣ト解ス(ロ)其手段ハ言語形容文書其他如何ナル方法タルトヲ問ハス一般ニ人ノ名譽ヲ毀損スルニ足ル可キ積極的行爲アルコトヲ要ス、單ニ敬意ヲ表セサル場合ノ如キハ不敬ト稱スルコトヲ得レトモ侮辱ニ非ス(ハ)侮辱モ亦公然タルコトヲ要ス。

(2)事實ノ摘示ナキコトヲ要ス(條件)

(イ)事實摘示アレハ誹毀罪ヲ成立ス(誹毀罪トノ異ナルハ只事實摘示ノ有無ニアルノミ(ロ)其他公然ナルコト、一定ノ人ニ對スルコトヲ要シ、其被侮辱者ノミヲ感知スルト否トヲ問ハサルコト等誹毀罪ト同一也(ハ)本法ハ官吏侮辱罪ナルモノヲ特ニ認メサレトモ官吏ニ侮辱ヲ加フル所爲ハ本罪ヲ以テ論スルコトヲ得、

⑦官吏辱罪ニ關スル侮辱ノ所爲ハ官權ノ榮譽尊嚴ヲ傷害シタリト看做スベキ所爲ヲ要スルカ、

侮辱罪ノ客體ハ官吏其人ニハ全ク無關係ナル官職ナリ、侮辱ノ所爲ハ官吏其人ニ對シテ行ハルルモ官吏其人ノ名譽ヲ毀損スル者ニ非スシテ國權ヲ蔑如スルモノナリ、若シ官吏其人ニ對スル名譽ニ對スル罪ナリセハ誹毀罪ト同シク新聞紙ヲ以テスル侮辱ニハ事實ノ證明ヲ許ササル可ラス「然ルニ新聞紙條例」ニ於テ侮辱罪ニ付テ事實ノ證明ヲ許ササルヲ見レハ之レヲ以テ官職ニ對スルノ罪トシタルヲ知ルヘキナリ、蓋シ官職ノ尊嚴ハ其職ニ在ル官吏カ其職務ヲ行フノ善惡否如何ニ由テ輕重アル者ニ非ス國家ハ一樣ニ總テノ官職ニ品位ヲ付スルカ故ニ或ル官吏ハ此品位ヲ有セストノ證明ハ何人ト雖モ之ヲ

爲スヲ得ヘキモノニ非サルナリ、故ニ侮辱ノ所爲ハ國權ヲ蔑如スル所爲ニシテ質疑者ノ列記スルモノミニ止ラス例ヘハ官權ニ服從スルヲ峻拒スルカ如キ又ハ官吏ニ對シ反抗スルカ如キモ官職其者ノ品位ヲ損スルモノナリセハ侮辱ノ所爲ニ屬ス(豐島博士法質錄解答)(新刑法ハ特ニ官吏侮辱罪ナルモノヲ認メス官吏ニ對スル侮辱モ亦普通侮辱罪ノ規定ニヨリ處斷スヘキモノトス)

第三十五章　信用及事務ニ對スル罪

⑧信用業務及業務侵害罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

信用及業務侵害罪トハ僞計又ハ威力ヲ用ヒ人ノ信用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタル罪ヲ謂フ(第二三三、二三四條)其成立要素左ノ如シ

(1)人ノ信用ヲ毀損シ又ハ其業務ヲ妨害シタル場合ハ僞計又ハ威力ヲ用ヒ人ノ信用ヲ毀損シ若クハ其業務

(イ)「信用ノ毀損」トハ取引關係ニ於ケル信用ヲ損傷スルヲ謂フ(德義上ノ信用ヲ損傷スルハ名譽ノ毀損也ト解ス)、(ロ)「業務ノ妨害」トハ廣ク營業ニ障害ヲ與フル行爲ヲ總稱ス(必シモ業務執行自體ニ障害ヲ與フル行爲ノミニ限ラス、例ヘハ職工ノ大部ヲ休業セシメ又ハ不信用ヲ流布シテ商店ト觀客トノ取引ヲ中止セシムルカ如キモ業務妨害罪也。

(2)僞計又ハ威力ヲ用ヒタルコトヲ要ス(手段)

(イ)「僞計」トハ廣ク人心ヲ眩惑セシムル行爲ヲ謂フ但(詐欺ノ意也ト解スル者アリ)故ニ贈賂行爲ノ如キ、主家ノ業務ヲ抛棄セシムルカ爲メ其雇人ニ利ヲ喰ハシムル行爲ノ如キ僞計行爲也、又虛僞ノ風說ヲ流布スル行爲モ亦僞計ノ一場合也、(ロ)「威力」トハ暴行脅迫、恐喝ハ勿論權勢ヲ利用スルカ如キモ亦包含ス、故ニ例ヘハ主從關係、債權者タル地位ノ利用、又ハ舊恩ヲ口術トスル如キ亦威力ノ使用也(公務員カ職權ヲ濫用スル場合ハ瀆職罪(第一九三條以下)ヲ構成ス、(ハ)然レトモ法律カ僞計又ハ威力ヲ加フル場合ヲ虛僞ノ風說ヲ流布スルカ加キ非加害ノ程度ノ大ナルモノト同一ニ規定セルヲ以テ比較上程度ノ極メテ小ナル場合例ヘハ大工場ニ對シ一職工ニ利ヲ喰ハシメテ休業セシメタル如キ、又ハ小僧ヲ途ニ提ヘテ得意先ヘ注文品ヲ屬ケサラシメタル場合)ニ於テハ本罪トシテ處罰スルコトヲ得サル可シ(ニ)又人ノ店頭ニテ金錢强請シ單ニ人ノ壓惡ヲ招クコトニ因テ營業ノ妨害ヲナシタル場合ノ如キハ僞計又ハ威力ヲ用ヒタリト云フコトヲ得ス、從テ本罪ト成ラス但警察犯トシテ處罰セラルルコトアリ、(ホ)信用毀損罪ノ手段ハ僞計ヲ用ヒル場合ノミニシテ事實上威力ヲ用ヒタルコトヲ要セス。

第三十六章　竊盜及强盜ノ罪

竊盜及强盜ノ罪ハ竊盜罪、强盜罪、强盜殺傷罪及ヒ强盜强姦罪等ヲ包含ス(第二三六乃至二四五條)故ニ竊盜及强盜ニ關スル罪ト題スルヲ可トス。本章ノ罪ヲ分テ(一)竊盜罪(第二三六、二四二乃至二四五條)(二)强盜罪(第二三六乃至二三九、二

四三條(三)強盜殺傷罪(第二四〇、二四三條)(四)強盜強姦罪(第二四一、二四三)ノ四トス

◉竊盜罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

竊盜罪ハ他人ノ財物ヲ竊取シタル罪ヲ謂フ(第二三五、二四三條)

(1)他人ノ財物ナルコトヲ要ス(目的)

(イ)「他人ノ財物」トハ他人ノ所持ニ係ル財物ヲ謂フ必シモ他人ノ所有ニ係ル物ナルコトヲ要セス、自己ノ所有ニ屬スル物ト雖モ、他人ノ所持(他人ノ占有、看守)ニ係ルトキハ之ニ對シテ竊盜罪成立ス(第二四二條)(ロ)「財物」財産的價値ヲ有スル有體物ヲ謂フ(A)有體物(物理上ノ物質即チ一定ノ空間ヲ塡充シ量定(Na8ieare)スルコトヲ得ル物)ナルコトヲ要ス(民法第八五條)故ニ(1)權利自體(例ヘハ債權ノ如キ)ハ本罪ノ目的トナラス、但證書ハ一個ノ財物也(29年7月24日大判決)(2)人體ハ物ニ非ス、然レトモ肉體ヲ毀損セスシテ分離スルコトヲ得ル加工物ハ(義足、入毛、義齒、義眼等)及ヒ頭髮、死屍、骸骨等ハ人ノ所持ニ屬スル以上本罪ノ目的物ナリ(但死体、遺骨、遺髮ニ付テハ(第一九〇條)ノ特別規定アリ)(3)液體瓦斯ハ物ナルコト疑ナシ(37年4月28日大判決)電氣ハ力ニシテ物ニ非サルモ特ニ明分ヲ以テ財物ト看做ス(第二四五條)(4)民法上ノ動産不動産ノ區別ニ關係ナシ唯自己ノ所持ト爲スコトヲ得ル物ナルコトヲ要スルノミ、土地家屋ト雖モ毀壞或ハ自己ノ所持ト爲スコトヲ得即チ竊盜罪ノ目的ハ動産ニ限リ

不動産ニ對シテハ竊盜罪ノ成立ナシトス(39年6月19日大判決)(B)財産的價値アル物ナルコトヲ要ス、財産ハ金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ物ナルコトヲ要セス(民法第三九九條)從テ金錢的價値ヲ有スルヤ否ヤヲ問フコトヲ要セス(39年7月5日大判決)唯財産權ノ目的トナリ得ル價値アルコトヲ要スルノミ(禁制品ト雖モ財産權ノ目的ト爲リ得ヘキ物ニ對シテハ本罪ノ目的物ト成ル)

(2)竊取シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)「竊取」トハ他人ノ意思ニ反シテ財物ノ所持ヲ移轉スルヲ謂フト爲ス(A)他人ノ意思ニ反スルコトヲ要ス故ニ承諾ヲ豫想シテ友人ノ書籍ヲ無斷持來ル如キ又彼ノ所謂使用竊盜(使用後反還スルノ意思ヲ以テ一時他人ノ物ヲ自己ノ所持ニ移スノ所爲)ノ場合ノ如キハ他人ノ意思ニ反シテ所持ヲ移ス意思無シト認メラルル場合ハ無罪也、然ラサル場合ハ本罪ヲ構成ス(B)他人(法人ヲモ含ム)所持ノ財物ナルコトヲ要ス、故ニ無主物、遺棄物、遺失物、相續人不分明ナル遺産(管理人ノ定マルマテ所持者ナシ)行路死亡人ノ遺留物等ハ本罪ノ目的物ト成ラス(C)其所持ノ權原如何ヲ問フコトナシ、故ニ人カ不法ニ所持スル財物ヲ竊取スルモ本罪ヲ構成ス(D)其所持ヲ移轉シタルコトヲ要ス「所持」トハ吾人日常ノ慣習ニ從テ事實上物ヲ支配スル關係ヲ謂フ(之ヲ保有トモ稱ス)

(ニ)所持ヲ移轉シタルコトヲ要ス、「所持ノ移轉」トハ其財物ニ對シ、現實ニ支配力ヲ及ホス可キ狀態ニ置キタルヲ謂フ、元來竊盜既遂ノ時期(卽チ所持移轉ノ時期)ニ付キ四說アリ、(1)握持說(財物ヲ握持シタル時也トノ說)(ハ)場所移轉說(財物ノ場所ヲ他ヘ移シタル時也トノ說)(3)安全所持說(財物ノ奪取ヲ確實安全ノ狀態ニ至リタル時也トノ說)(4)現實支配力(財物ノ上ニ現實ニ支配力ヲ實行シ得ル狀況ニ達シタル時也トノ說)、最後ノ說ヲ通說トス(本書又之ニ從フ)而シテ其支配力ヲ及ホシ得ル狀態ニ達シタルトキハ本罪ノ既遂也トス(判例)立木ヲ盜伐セントト企テ之ヲ切倒シタルトキ事實上其立木ヲ占領シ任意ニ實力ヲ取得シタルモノニテ此瞬間ニ於テ竊盜ノ既遂構成シ、之ヲ現場ヨリ運搬シタルヤ否ヤハ犯罪ノ成否ニ關係ナシ(35年12月13日大審院判決)(ロ)竊盜ノ手段ニ付テハ何等ノ制限ナシ、故ニ加何ナル方法ニヨルモ可也、但暴行脅迫詐欺恐喝等ノ所爲ナキコトヲ要ス、此等ノ所爲ニ依テ他人ノ財物所持ヲ移轉スルハ他罪(强盜、詐欺取財、恐喝取財等)ヲ構成ス(判例)容器ニ鎖鑰又ハ封印ヲ施シタル物件ヲ寄託セラレテ之ヲ破棄シテ物件ヲ取出シタル所爲ハ竊盜罪ヲ構成ス(31年1月18日大審院判決)郵便事務ニ從事スル者カ郵便官署取扱中ニ係ル郵便物ヲ竊取シタル場合ニ就テハ郵便法(第五一條)ニ特別規定アリ(ハ)「竊盜ノ故意」ハ他人ノ意思ニ反スルコトノ認識及所持ノ移轉ナル觀念存スルヲ以テ足レリトス(不法ノ認識ヲ要スルハ勿論必シモ領得(卽チ返還セサル意思)ヲ必要トセスト解ス。

◎所特ト占有トノ差異ヲ問フ、

所持ト民法上ノ占有トハ似テ必シモ同シカラス、(刑法上「占有」ナル語ハ(第二四二、二五二乃至二五四條等)ハ所持ノ意ニ解ス)

(1)民法上ノ占有ハ自己ノ爲メニスル意思ヲ必要トスルモ(民法第一八〇條)所持ハ單ニ物ヲ支配スルノ意思ヲ以テ物ヲ支配スル事實アレハ足ル。

(2)占有ニハ代理占有ヲ認ムルモ(民法第一八一條)代理占有ニ因ル間接ノ占有者(本人)ハ物ヲ所持スルト謂フコトヲ得ス(反之其代理占有者ハ所持者ナリ)

(3)占有ハ相續開始ニ依リ當然相續人ニ移轉スルモノトスルモ(民法第九八六、一八七條)所持ハ事實上ノ移轉ヲ要ス。

◎强盜罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

單純强盜罪ハ暴行、脅迫又ハ昏醉ノ手段ヲ以テ他人ノ財物ヲ强取シ又ハ暴行、脅迫ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得、又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル罪及ヒ竊盜後ノ暴行、脅迫罪トヲ包含ス(第二三六至乃二三九、二四二、二四三條)其成立要素左ノ如シ

(1)暴行、脅迫又ハ昏醉ノ手段ヲ以テシタルコトヲ要ス(手段)

(イ)「其暴行、脅迫」ハ身体精神ニ對シ自由ヲ喪失セシムル程度、卽チ反抗抑壓スル程度ノモノナラサル可カラス(最狹義ノ暴行脅迫)故ニ他人ニ暴行(衝突、毆打等

ヲ加ヘ、一時注意ヲ他ニ轉セシメ其際ニ財物ヲ奪取スル場合(例ヘハ掏摸ノ如キ)ハ強盜ニ非ス竊盜也、又他人ニ害惡ヲ加フヘキコトヲ通知スルモ其他人カ畏怖ニ因テ意思ノ自由ヲ失ハサルトキハ恐喝取財(第二四九條)ニシテ強盜ニ非ス、蓋其暴行脅迫ハ未タ反抗ヲ抑壓スルニ至ラサレハナリ、(ロ)其暴行脅迫ハ必シモ所持者ニ對スルコトヲ要セス、此等ノ行爲ヲ爲スニ障碍ト爲ル可キ人ニ對シ加ヘタルヲ以テ足ル、(ハ)「昏醉」トハ人ノ精神ヲシテ無意識狀態ニ陷ヘラシメタルヲ謂フ、其昏醉原因カ犯人ノ所爲ニ基因スル以上ハ藥酒、催眠術其他ノ方法トヲ問ハス、財物ヲ竊取スルニ於テハ本罪ヲ構成ス。

(2)他人ノ財物ヲ强取シ若クハ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)「强盜」トハ所持者ノ反抗ヲ抑壓シテ財物ノ所特ヲ移轉スルヲ謂フ(ロ)「不法」ノ「利益」トハ不法ノ手段ニ依テ得ル利益ト解ス(權利トシテ要求スルコトヲ得ル利益ト雖モ適法ナル手續ニ依ラス暴行脅迫等不法ノ手段ヲ以テ利益ヲ得タルトキハ本罪ヲ構成ス)(A)「其利益」ハ財物以外ノ財産權ノ目的ト爲リ得ヘキ利益ナラサル可カラス、故ニ暴行脅迫ヲ以テ結婚屆書ニ署名捺印セシムルモ本罪ト成ラス、(B)其利益ヲ現實ニ得ル(例ヘハ人ヲ脅迫シテ勞力ヲ提供セシムル如キ)ト後日ノ爲メニスル證書ヲ作成付與セシムル如キトヲ問ハス(C)必シモ利益ヲ自己ニ得ルノ要ナシ、共謀ノ關係ナキ第三者ヲシテ得セシムルモ亦本罪ヲ構成ス(D)人ヲ昏醉セシメスシテ不法ノ利益ヲ得タル場合ハ强盜罪ニ非

ス(盜第二三九條ニハ第二三六條第二項ノ如キ明文ナケレハナリ)但此場合ハ傷害罪(第二〇四條)ト精神障碍利用罪(第二四八條)想像上ノ二罪ト成リ第五四條ノ適用ヲ受クルモノト解ス、(ハ)而シテ其暴行脅迫ニ依テ爲シタル法律行爲(例ヘハ賣買贈與等)ハ民法上(第九六條)ノ强迫ト異ナリ、全然無效ナリ(39年12月13日大審院判決)(ニ)自己ノ所有物ト雖モ亦本罪ヲ構成スル場合アリ(第二四二條)。

(3)又ハ竊盜財物ヲ得テ其取還ヲ拒キ、逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ暴行脅迫ヲ爲シタルコトヲ要ス(第二三條)

(イ)本罪ハ竊盜後臨時暴行脅迫ヲ爲シタル場合ニ成立スルモノナリ。(ロ)其動機ハ窃取物取還ノ抗拒、逮捕ノ免脫及ヒ罪跡ノ湮滅ノ爲メナルコトヲ要ス、其實效ヲ奏シタルヤ否ヤハ本罪ノ成否ニ何等ノ影響ナシ、(ハ)其暴行脅迫ハ竊盜財物ヲ得タル後其現場ニ於テ爲サレタルコトヲ要ス、時日場所ヲ隔テタルトキハ本條ノ適用ナシ、其暴行脅迫ハ被害者ノ身體精神ニ對シ反抗抑壓スル程度ノモノナルコトヲ要ス其他要件說明前揭ニ同シ。

◉强盜殺傷ノ意義及成立要素ヲ問フ、

强盜殺傷罪トハ强盜カ人ヲ死傷シタル罪ヲ謂フ(第二四〇、二三七條)。

(1)强盜行爲アルコトヲ要ス(行爲)

强盜行爲ハ其既遂ト未遂ヲ問ハス(39年4月16日大審院判決)强盜ヲ爲スニ際

シ人ニ死傷ナル結果ヲ生セシメタルコトヲ以テ其特質トス、其他強盗行爲(暴行、脅迫昏醉)ヨリ生シタルコトヲ要セス、強盗行爲ニ何等ノ關係ナク死傷セシメタル場合ニ於テモ本罪ヲ成立ス、但其殺傷行爲ハ現場ニ於テ爲シタルコトヲ要ス(第二三八條ノ場合ニ於テモ本罪ノ適用アリ)(ロ)又必シモ殺人又ハ傷害ノ意思ニ出テタルコトヲ要セス、殺人意思ヲ以テスルモ殺人ノ結果ヲ生スルトキハ強盗殺人罪也傷害ノ意思ヲ以テスルモ殺人ノ結果ヲ生スルトキハ強盗殺人罪也(38年3月30日大審院判決)即チ本罪ハ結果犯タルヘキ場合アリ或ハ否ラサル場合アリ、然レトモ少クモ暴行ヲ加フル意思ヲ必要トス單純ナル過失ニ因ル殺傷ノ場合ニ於テハ本罪成立セス、但毆打ノ意思ヲ不必要トセル判例アリ(35年6月15日大審院判決)(ハ)本罪ハ財物ヲ強取スル目的ヲ以テ人ヲ殺傷シタルニ依テ成立シ財物ヲ得ルト否トハ犯罪ノ成否ニ影響シ、故ニ盗殺犯人ハ何物ヲモ奪取セサルモ財物強取ノ目的ヲ以テ人ヲ殺シタルトキハ強盗殺人罪ノ既遂ヲ構成ス(ニ)人ヲ殺シタル後其財物ヲ奪取スルモ亦強盗殺人罪ヲ構成ス(39年4月16日大審院判決)苟モ強取ノ意思ト其事實トアラハ其所持カ被害者ノ死亡ヨリ犯人ノ手ニ移轉スル瞬間ニ於テ無所持ノ狀態ヲ生スルモ其強取成立ニ支障ナシト解ス、(ホ)強盗行爲ハ一個ナルモ殺傷ノ被害者數人アル場合ハ其被害者毎ニ罪ヲ構成ス。

◉強盗強姦罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

強盗強姦罪トハ強盗カ婦女ヲ強姦シタル罪ヲ謂フ(第二四一、二四三、二四七條)其成立要素左ノ如シ

(一)強盗行爲アルコトヲ要ス(行爲)

(ニ)強盗シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)強盗強姦行爲ノ結合犯ナリ、故ニ強盗罪ノ説明ト強姦罪ノ説明トヲ參照スレハ自ラ明白也、(一)強盗行爲ト強姦行爲トノ關係ハ前掲強盗殺人罪ノ説明ニ於テ知ル可シ、(ハ)罪ノ個數亦同シ。

◉竊盗罪及強盗罪ノ既遂ト未遂ヲ區別スル標準如何、

竊盗ノ罪ハ奪取ノ行爲ニ依リテ完成スル即時犯ナリ、他人カ物件ニ對シ有スル事實上ノ支配ヲ破リ其物件ノ上ニ自己ノ事實上ノ支配ヲ設クル行爲ヲ云フ、換言スレハ物件ヲ他人ノ實力内ヨリ離シテ自己ノ實力内ニ入ルル行爲ナリ、故ニ強竊盗ノ既遂タルニハ物件ヲ自己ノ内ニ入レタル時ニ在リ、行爲カ自己ノ實力内ニ入ルル以前ニ在ルトキハ未遂ナリトス、此盗罪ノ既遂ニ關スル主義ヲ占有主義(アップレヘンジオンテオリイ)ト稱ス、

其他犯人カ物件ヲ握手スルヲ以テ既遂トナスノ主義アリ、之ヲ握取主義(コントレクタチオンステオリイ)ト稱ス、奪取ハ握取ニ非ラサルカ故ニ此主義ノ非ナルハ明ナリ、又物件ヲ犯人カ定メタル安全ノ場所ニ置キタルトキヲ以テ既遂トナス主義アリ之ヲ取去主義(アブラアチオンステオリイ)ト云フ、此主義ハ

盜罪ニ於ケル事實上ノ支配ヲ奪ヒテ自己ニ其支配ヲ得ルコトヲ一定ノ程度マテ確定セシメント欲シタルヨリ生シタル主義ニシテ其主義ニ依レハ犯罪行爲ノ完成ヲ以テ既遂トナスニ非ラスシテ一定ノ狀況カ作ラレ之カ完成シタル有樣ヲ以テ既遂トナスモノトナル故ニ此主義モ亦採用ス可カラス、又物件ヲ被害者ノ支配ノ區域即チ邸宅ヨリ運ヒ去リタルヲ以テ既遂トナスノ見解アリ、此見解ハ取去主義ト同一ノ觀念ニ基テ生レタルモノナレハ取去主義ノ一部ト認ムルヲ得ヘシ、此見解ハ奪取ナル辭ヲ延長シテ解釋スルモノニシテ奪取ナル行爲ハ邸宅ノ境界線マテ延長セラルルトナスモノナリ、強竊盜ノ行爲ハ奪取ニシテ決シテ持去ルト云フ行爲ニ非サルカ故ニ此見解ニモ從フヘキニ非ス、

犯人カ物件ヲ實力內ニ入レタルヤ否ヤハ各場合ノ事情ヲ顧テ定メサル可ラス、例ヘハ犯人カ物件ヲ被害者ノ邸宅內ニ隱匿シ置キタル場合ニ於テハ其場合ノ事情ニ從ヒ或ハ豫備タルコトアリ或ハ未遂タルコトアリ或ハ既遂タルコトアリ、犯人カ後日ノ奪取ヲ容易ニナス目的ヲ以テシタル場合ニハ豫備タル、又單ニ被害者ノ支配ヲ破ルノミノ目的ヲ以テシタル場合ニハ未遂ナリ、又犯人カ隱匿シタル場所ハ被害ヨリ發見セラレサル場所ナリト認メ其隱匿ヲ以テ既ニ自己ノ實力內ニ入レタルモノト爲シタル場合ニハ既遂タルヘシ、故ニ上述シタル既遂未遂ノ標準ハ同一ノ事實ニ適用シテ必ス同一ノ論結ヲ得ルモノニ非スト知ルヘシ。(豐島博士法質錄解答)

第三十七章　詐欺及恐喝ノ罪

詐欺及恐喝罪トハ欺罔、恐喝又ハ精神障碍ノ利用等ノ手段ヲ以テ他人ノ財物又ハ財產上ノ利益ヲ侵害シタル罪及ヒ他人ノ爲メ事務ヲ處理シ他人ノ利益ヲ侵害シタル罪ヲ謂フ(第四二六乃至二五一條)本章ノ罪ヲ分テ(一)欺罔取財罪(第二四六、二五〇條)(二)事務處理違反罪(第二四七、二五〇條)(三)精神障碍利用罪(第二四八、二五〇條)(四)恐喝取財罪(第二四九、二五〇條)ノ四トス。

◎欺罔騙取罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

欺罔騙取罪トハ人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シ若クハ財產上ノ不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル罪ヲ謂フ(第二四六、二五〇條)其成立要素左ノ如シ、

(一)人ヲ欺罔シタルコトヲ要ス(手段)

(イ)「欺罔」トハ虛僞ノ事實ヲ告知シテ他人ヲ錯誤ニ陷ラシムルヲ謂フ(ロ)故ニ他ノ原因ニ因リ他人カ錯誤ニ陷リタル者ヨリ財物ノ交付ヲ受クルモ本罪ヲ構成セス、(ハ)又他人カ第三者ノ欺罔ニ因リ錯誤ニ陷リタル者ナルコトヲ知ルモ自己カ欺罔シタルニ非サルカ故ニ此者ヨリ財物ノ交付ヲ受クルモ罪ト成ラス(二)然レトモ他人カ錯誤ニ陷リタルコトヲ防止スル義務アル者カ故意ニ之ヲ妨止セスシテ其錯誤ヲ利用シタル場合ハ不作爲ニ因リ自己カ錯誤ニ陷ラ

シメタリト謂フ可シ。

(ニ)財物ヲ騙取シ者クハ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)「騙取」トハ欺罔手段ニ基ク錯誤ヲ利用シテ任意ニ財物ヲ交付セシムルヲ謂フ、(對價ヲ與ヘタルト否トハ本罪ノ成否ニ關係ナシ錯誤ヲ利用シテ任意ニ財物ヲ交付セシムルコトヲ要スル故ニ他人ヲ錯誤ニ陷レテ不注意ヲ生セシメ其不知ノ間ニ財物ヲ竊取スルハ竊盜ニシテ騙取ニ非ス(ロ)財物ノ交付ハ必シモ被欺罔者タルコトヲ要セス甲ヲ欺罔スルコトニ因リ乙ヨリ財物ヲ取ルモ亦欺罔罪也(35年12月2日大審院判決)又自已ニ交付セシムルト他ニ交付セシムルトヲ問ハス(c)其被欺罔者ハ公務所公務員ナルト一個人ナルトヲ問ハス(D)被欺罔カ不法ノ原因ノ爲メ給付シタル場合、(民法第七〇八條)ナリト雖モ犯人ニ於テ欺罔ノ手段ニ因リシテ騙取シタルトキハ尚本罪ヲ構成ス(39年3月5日大審院判決第E)自已カ正當ニ要求スヘキ利益ヲ取得スル爲メナルモ其欺罔シテ騙取スレハ亦本罪ヲ構成ス(目的ノ適法ハ手段ノ不法ニ阻却セス)但反對ナル反例アリ(39年4月19日大審院判決)(F)自已カ他人ニ財物ヲ交付ス可キ義務ヲ有スルニ方リ其他人ヲ欺罔シテ其交付義務ヲ履行セサルトキハ不作爲ニ因ル竊取也(但財物ヲ交付ス可キ時期ニ於テ交付セサル場合ハ未タ所持侵害ノ事實ナキカ故ニ騙取ト成ラストスルヲ通說トス)(G)使用後反還スル意思ヲ以テ騙取シタル場合及ヒ禁制品ヲ騙取シタル場合ノ本罪成否ニ付テハ

竊盜罪ノ說明ト同シ參照ス可シ(ロ)本罪ニ付テハ財物ヲ犯人ニ於テ自由ニ處分シ得可キ狀態ニ置クコトヲ要スルノミニテ竊盜罪ノ如ク必シモ物ノ握持運移ヲ要セサルモノナレハ不動產ト雖モ本罪ヲ成立ス(39年3月16日大審院判決)(H)騙取罪ノ目的物ハ財產ノミナラス財產上ノ不法ノ利益ヲ得ル場合モ亦同視スルコトハ强盜罪ノ規定(第二三六條)ニ同シ故ニ「無錢飲食」ノ如キ代ヲ支拂フカ如ク裝ヒテ財物ヲ騙取シタル場合ハ勿論「無錢遊興」ノ如キ他人ノ勞力ニヨリテ遊興(利益)ヲ得ルハ亦本罪ヲ構成ス(尙前掲說明參照)(ロ)本罪既遂ノ時期ハ犯人カ實際其物又ハ利益ニ對スル現實ナル支配關係ニ於テ移轉アリタル時ヲ以テ既遂ト爲ス、但不動產ノ場合ニ關シ學者間異論アリ、卽チ(1)財物ニ對シ所有權移轉ヲ確實ナラシムル時卽チ動產ニ付テハ占有、不動產ニ付テハ登記ノ終了シタル時ニアリトノ說(2)何レノ場合ト雖モ所有權移轉ノ意思ヲ表示シタル時ニアリトノ說(37年6月10日大審院判決)(3)其物ニ對スル現實ナル支配關係ニ於テ移轉アリタル時ニアリトノ說トアリ、本書ハ第三說ニ從フ(ハ)電氣モ亦財產物ト見做スコト(第二四五條)等前章說明ト異ナラス參照スヘシ(ニ)本罪ニ依ル法律行爲ハ必シモ其要素ニ錯誤アリト云フコトヲ得ス、從テ民法上無效ナル場合アリ(民法第九五條)取消シ得可キニ止マルコトアリ(民法第九六條)ト知ル可シ。

◎事務處理違反罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

事務處理違反罪トハ他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ハ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタル罪ヲ謂フ(第二四七、二五〇條)其成立要素左ノ如シ、

(1)他人ノ爲ノニ其事務ヲ處理スルモノナルコトヲ要ス(主體)

(イ)「他人ノ爲メ其事務ヲ處理ス」トハ其事務ノ結果ヲ他人ニ歸屬セシム可キ意思ヲ以テ一切ノ處置ヲ謂ヒ(ロ)其委任ニ因ルト事務管理ニ因ルト又法定上ノ原因ニ因ルトヲ區別スルコトナシ(ハ)又私法上ノ關係ニ由來スルト公法上ノ關係ニ由來スルトヲ問ハス、(ニ)又事務カ財産上ニ關スルモノナルト否トヲ問ハス(ホ)又必シモ法律行爲ヲ爲スノ場合ニ限ラス(ヘ)自己ノ所有物ナリト雖モ他人ノ貴ニ歸スル場合ハ本罪ノ目的ト成ル(第二五一、二五二條)。

(2)自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フルノ目的アルコトヲ要ス(目的)

(イ)「其利益、損害」ハ必シモ財産上ノモノニ限ラス(ロ)特ニ目的トシタルコトヲ要スルカ故ニ單ニ第三者ノ利益トナリ又ハ本人ノ損害トナル事實ヲ認識スルノミヲ以テ足レリトセス、更ニ之ヲ慾望シテ其行爲ヲ爲スコトヲ必要トス。

(ロ)任務ニ背キタル行爲ヲ爲スコトヲ要ス(行爲)

「任務ニ背ク」トハ故意ニ事務ヲ處理スルニ方リ用ユヘキ必要ナル注意ヲ缺クハ勿論、爲ス可キヲ爲サス爲ス可カラサルヲ爲ス總テノ場合ヲ包含ス。

(4)本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルコトヲ要ス(結果)

財産上ノ損害ナルコトヲ要ス、故ニ財産以外ニ損害ヲ生シタルニ過キサルトキハ本條ノ罪ト成ラス。

◎精神障碍罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

精神障碍利用罪トハ他人ノ精神障碍ヲ利用シテ財物又ハ財産上不法ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ得セムシル罪ヲ謂フ(第二四八、二五〇條)其成立要素左ノ如シ

(1)未成年者ノ智慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ乘シタルコトヲ要ス(手段)

(イ)未成年者ノ智慮淺薄トハ年齢ノ幼弱ナルカ爲メ是非ヲ辨識スルニ必要ナル智力ノ未タ發達セサル者ヲ謂ヒ「人ノ心神耗弱」トハ精神障碍ニ因リ行爲ノ是非ヲ辨別スル能力ノ不完全ナルヲ謂フ、禁治産者準禁治産者ノ宣告有無ニ關係ナシ(ロ)「乘シ」トハ其狀況ヲ利用シタルヲ謂フ、若シ欺罔恐喝ノ手段ニ出ツルトキハ欺罔取財罪ヲ構成ス(問題)幼者ノ意思無能力又ハ人ノ心神喪失ニ乘シテ本罪ノ行爲ヲ爲シタル場合ニ於テハ本罪ノ成立ヲ認ムヘキヤ。

(1)積極説　本問ノ場合ニ於テハ寧ロ竊盜ヲ以テ論スヘシトノ説アリ、然レトモ幼少又ハ精神喪失ニ因ルノ意思無能力トハ意思ヲ缺クノ謂ニ非ス、法律カ唯斯ノ如キ者ノ行爲ニ法律上ノ効果ヲ與ヘスト謂フニ止マル故ニ斯ノ如キ者カ財物ヲ所持スル場合ニ於テ其者ノ承諾ニ基キ其交付ヲ受クルハ之ヲ竊

盜ト稱ス可カラス故ニ本條ノ智慮淺薄ハ幼少ニ因ル意思無能力ヲ包含シ心神喪失ヲ含ムモノト解スト(牧野博士著刑法通義)

(2)消極說　意思無能力者タル幼者又ハ精心喪失者ハ何等カノ生理的意思アルコトハ全然否認スルモノニ非スト雖モ少クトモ法的現象トシテハ全ク辯識力ヲ缺ク者ナルヲ以テ所謂交付ノ意思ナルモノノ存在ヲ認ムルヲ得サルヲ以テ到底本罪ヲ以テ問擬ス可キニ非スト(大脇氏著刑法精義)。

(2)財物ヲ交付セシメ又ハ財産上不法ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタルコトヲ要ス(結果)。

(イ)犯人カ之ニ對スル代價ヲ支拂フト否トハ本罪ノ成否ニ關係ナシ(37年5月15日大審院決)ロ)自己ノ物ナルト雖モ本罪ノ目的ト成ル(第二五一、二四二條)ハ其他說明「欺罔取財罪」參照

◎恐喝取財罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

恐喝取財罪トハ人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメ又ハ財産上不法ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシムルヲ謂フ(第二四九、二五〇條)其成立要素左ノ如シ

(1)人ヲ恐喝シタルコトヲ要ス(手段)

「恐喝」トハ脅迫ノ一種ニシテ人ニ害惡ヲ告知シテ畏怖ノ念ヲ生セシムルヲ謂フ、唯其畏怖ノ程度カ反抗ヲ抑壓スルニ至ラサル場合ニ限ル、此點卽チ强盜罪

ノ脅迫ト異ナル所也。

(2)財物ヲ交付セシメ又ハ財産上不法ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタルコトヲ要ス(結果)

(イ)犯人カ之ニ對スル代價ヲ支拂フト否トハ本罪ノ成否ニ關係ナシ(ロ)自己ノ所有物ナリト雖モ本罪ノ目的物ト成ル(第二五一、二四二條)其他ノ說明「欺罔取財罪」參照

◎詐欺取財罪ノ未遂及ビ既遂ノ區別ヲ問フ、

詐欺取財罪ハ欺罔ニ依テ騙取ナル結果カ生シタルトキニ始メテ既遂トナル騙取トハ被欺罔者カ財産上ノ處分ヲ爲スニ依テ生シタル被害者ノ財産上ノ損害及ヒ犯人又ハ第三者ノ財産上ノ利得ヲ云フ、蓋シ詐欺取財罪ハ財産上ノ損害及ヒ利得カ被欺罔者ノ處分ニ依リ媒介セラルル特性ヲ有スル罪ナルカ故ニ本罪ハ一定ノ物件ニ對スル罪ニ非スシテ一般ニ被害者ノ財産損害ヲ生セシメ自己又ハ第三者ヲ一般ニ利得スルニ依リ既遂トナルヘキモノナリトス、故ニ犯人カ欺罔ヲ施シタルモ未タ錯誤ヲ生セサルトキ錯誤ヲ生シタルモ未タ被欺罔者カ財産上ノ處分ヲ爲ササルトキ及ヒ財産上ノ處分ヲ爲スモ被害者又ハ犯人ニ財産上ノ損害又ハ利得ヲ生セシメサリシトキハ未遂トス。

◎刑法上ノ詐欺ト民法上ノ詐欺ノ區別ヲ問フ、

刑法ト民法トハ其發達ヲ異ニシ其目的ヲ異ニスト雖モ共ニ同一國ノ國法タリ、然ラハ或ル程度ニ於テハ刑法ハ民法ト一致シ民法ハ刑法ト一致セサル可カラサルハ理ノ當然ナリトス、刑法及ヒ民法ノ沿革ニ就テ論スレハ刑法學者及ヒ民法學者ハ各其ノ研究ノ範圍ヲ異ニスルモノト妄斷シ各自已ノ立脚地ニノミ依據シテ事物ヲ攻究シ敢テ其事物カ二者ニ共通ナル可キモノナルト否トヲ問ハス、是レ爾來刑法ノ進歩セサリシ所以ニシテ又事物ノ眞想ヲ誤判シタル所以ナリ、刑事ノ詐欺及ヒ民事ノ詐欺間ニ本質上ノ區別アル如ク論セシモ亦上述シタル同一病源ニ因由スルモノニシテ詐欺トハ予ノ信スルトコロニ依レハ刑法上ニ於テモ又ハ民法上ニ於テモ共ニ虚僞ノ事實ヲ陳述シ又ハ虚僞ノ物ヲ提示シテ他動的ニ他人ヲ錯誤ニ陷ラシムルコトヲ云フモノト解ス、虚僞ノ事實ノ陳述ヲ手段トスル詐欺ハ例之僞證ニ於ケル裁判所ノ詐欺ニシテ虚僞ノ物ノ提示ヲ手段トスル詐欺ハ例之貨幣僞造行使ニ於ケル取受者ノ詐欺ノ如シ(谷野學士法實錄解答)

◎不動産騙取罪ノ成立時期如何、

詐欺取罪ノ手段タル欺罔ハ直接ニ被害者ノ財産ニ對シ其效果ヲ及ホスモノニ非ス、欺罔ト騙取トノ間ニ於ケル原因結果ノ關係ハ錯誤ニ陷リタル者ノ行爲ニ因テ媒介セラルルモノナリ、故ニ犯人ハ被欺者ヲシテ此媒介タル行爲ヲ爲セシムルハ自ラ犯罪ノ目的ヲ達スルモノニシテ犯人自ラ被欺者ノ行爲ヲ

リタル以後ニ犯罪實行ノ所爲ヲナスヲ要セス、而シテ被欺者ノ行爲タルモノハ提供ノ所爲ニシテ財産ニ關スル法律上ノ處分ナリトス、之ヲ以テ詐欺取財罪ハ盜罪ト異リ物件ヲ提有スルニ由テノミ既遂トナルヘキ罪ニ非スシテ被欺者ノ行爲ニ依テ他人ノ財産ニ事實上損失ヲ蒙ラシメタルトキニ既遂トナルヘシ、不動産騙取ノ場合ニ就テ見ルニ不動産ノ賣買其他ノ法律行爲ヲ登記シタルトキニハ犯人ハ不動産上ニ權利ヲ有スルコトヲ第三者ニ對抗シ得ヘク又其不動産ヲ第三者ニ對シ有效ニ轉賣又ハ抵當ト爲スヲ得ヘシ、此場合ニ被害者ハ詐欺ニ因ル意思表示ヲ取消スモ犯人ヨリ不動産上ノ權利ヲ得タル第三者ニ對抗スルヲ得サルニ至ルヲ以テ被害者ハ登記ニ依テ自已ノ財産ニ對シ事實上損失ヲ蒙リタルモノトス、依テ不動産騙取ハ犯人カ之ヲ占據スルニ至ラサルモ登記ヲ爲スニ因テ既遂トナルモノトス。

梅博士曰ク詐欺取財ノ場合ニ於テハ詐欺者ニ法律行爲ヲ爲ス意思ナキカ故ニ之ヲ取消スコトヲ要セス當然無效ナリ、從テ其登記モ何等ノ效力ナシト信スト(豐島博士法實錄解答)

◎甲者乙者ノ名義ヲ詐リ電報ヲ以テ丙者ヨリ金錢ヲ騙取シタリ右甲者ノ所爲ハ如何ナル犯罪ヲ構成スルカ、

電報ノ僞造ハ文書僞造罪中最モ其判斷ノ困難ナルモノニシテ學説モ亦一致スル所ニ非ス、余輩ハ只茲ニ正當ト信スル學説ヲ述フルニ止マリ他ノ學説ニ

對スル批評ハ之ヲ試ミス、電報ニハ賴信紙ト送達紙トアリ本問ノ場合ニハ甲カ送達紙ヲ僞造シテ之ヲ丙ニ送達セシムルニ依リ行使ヲ爲スヘキモノト爲スヘキモノナリ、先ツ賴信紙ハ之ヲ文書ト云フヲ得ヘキモノナレトモ賴信紙ヲ發信局ニ差出スモ未タ文書ノ行使タラス蓋シ文書行使ハ文書ノ證據力ニ付キ他人ヲ欺クノ意思ヲ以テスルヲ要スルモノナリ、文書ノ證據力ニ付キ他人ヲ欺クトハ文書ニ揭ケタル表示ハ其署名者ヨリ出タルコトヲ行使ヲ受ル者ニ對シ詐ルヲ云フ、然ルニ發信局ノ電報取扱人ハ賴信紙ノ內容ニ付テハ無關係ノモノニシテ發信人ハ又電報取扱人ニ對シ文書ノ證據力ヲ發用セントスルモノニ非ス、依テ賴信紙ニ付テハ電報ノ僞造行使罪ハ行ハルルモノニ非サルナリ、次ニ送達紙ハ之ヲ賴信紙ノ謄寫ニ過キスト爲ス能ハス、若シ之ヲ謄寫ニ過キスト爲ストキハ之ヲ受信人ニ送達スルモ行使ナル行爲ハ成立セス、又送達紙ハ着信局ノ電報取扱人カ電信機ニ現ハレタルモノヲ筆記スルモノナレトモ發信局ノ官吏カ送達紙ヲ以テ發信人ノ電報ハ送達紙ニ記載スル所ニ相違ナキ旨ヲ認證シタルモノニ非ス、電信法ニ依ルモ如斯認證ハ電報取扱人ノ職權タルコトヲ認ムヘキ規定ナシトス、依テ送達紙ヲ以テ官文書ト爲ス能ハス、送達紙ハ實ニ發信人ノ作製スル文書ナリトス、凡ソ文書ノ謄寫ト雖モ之ヲ發スル者ノ意思ニ依リ其謄寫自ラヲ以テ原文書ト爲スヲ得ルモノナリ、印刷物ノ如キ是レナリ、電報ノ送達紙モ亦之ニ屬スル性質ノモノナリ從來電報ヲ以テスル取引ノ習慣ヲ見ルニ發信人ハ電報ヲ以テ契約ノ申込又ハ承認

ヲ爲シ寃モ自ラ信書ヲ裁シテ之ヲ爲スト同シ其意蓋シ受信人ニ對シ送達紙ヲ以テ申込又ハ承認ヲ證明スルモノナリ受信人モ亦送達紙ヲ裁判所ニ提出シテ其事實ヲ證明スルヲ得ハク裁判所カ之ヲ證據方法ト爲スヲ得ルモノナリ、是レ發信人ノ意思ニ依リ送達紙ヲ以テ刑法上ノ文書ト爲シタル所以ナリ、發信人ハ自ラ手ヲ下シテ送達紙ヲ僞造スルニ非ス、電報取扱人ヲ機關トシテ之ヲ作ラシメ且ツ之ヲ證據トシテ援用セントスル受信人ニ送達セシムルモノナリ、故ニ此場合ハ所謂間接正犯ノ適用ヲ受ルモノトス、而シテ發信人ハ官文書ヲ僞造シタルヤ私文書ヲ僞造シタルヤノ問題ニ付テハ官報ナルヤ私報ナルヤカ其標準タルモノトス、送達紙ニ記スヘキ發信ノ時間着信ノ時間ノ如キモ發信人ノ差出シタル電報ノ一部ヲ爲スモノニシテ電信局官吏ノ認證シタル官文書ニ非サルナリ、依テ此點ニ付テハ官文書ニシテ他ノ點ニ付テハ發信人ノ文書ナリト爲ス能ハス以上ノ所說ハ發信局着信局又ハ中繼局ノ電報取扱人カ僞造スル場合ナルト他ノ者カ之ヲ僞造スル場合トヲ問ハス同一ニ適用スヘキ所ナリトス、(結論)故ニ本問甲者ハ乙者ノ名義ヲ以テ官公文書又ハ私文書タル電報送達紙ヲ僞造シ之ヲ丙者ハ行使シ因テ詐欺取財ヲ犯シタルモノナリトス(豐島博士法質錄解答)

◎無錢遊興ハ刑法上詐欺取罪ヲ構成スルカ、

無錢ニテ遊興ヲナシタリトテ當ニ詐欺取財ヲ構成ストノ理由ヲ存セスト雖

モ詐欺取財ノ條件ヲ具備スルトキハ詐欺取財ヲ構成スルヤ勿論ナリトス、而シテ詐欺取財ノ條件トハ即チ左ノ如シ、

(一)代金支拂ノ資力ナキニ拘ハラス資力アルカ如ク裝ヒ他人ヲシテ此ノ錯誤ヲ惹起セシムルノ作爲又ハ既ニ惹起セラレタル他人ノ錯誤ヲ矯正スヘキ法律上ノ義務アルニ拘ハラス之カ錯誤ヲ矯正セサルノ不作爲アルコトヲ要ス、

(二)以上欺罔ノ手段ニ依テ飲食物ヲ騙取シタルコトヲ要ス、騙取トハ不法ニ自己又ハ第三者ヲシテ財産上ノ利益ヲ取得セシムルノ目的ヲ以テ物ヲ他人ノ保有ヨリ自己又ハ第三者ノ保有ニ移轉セシムルコトニ依テ他人ノ財産ヲ侵害スルコトヲ謂フ、而シテ詐欺取財ノ目的物ハ財物又ハ證書類ニ限ルカ故ニ貸席其他物件ノ使用遊藝ノ觀覽等ハ本罪ノ目的物タルコトヲ得サルナリ、(小疇學士法質錄解答)

◎詐欺破産ノ場合ニ未遂犯アリヤ、之レアリトスレハ如何ナル程度ニ於テ然ルカ、

詐欺破産ノ犯罪行爲ハ舊商法第千五十條ニ規定スル如ク「履行スル意ナキ義務又ハ履行スル能ハサルコトヲ知リタル義務ヲ負擔シ又ハ債權者ニ損害ヲ被ムラシムル意思ヲ以テ貸方財産ノ全部若クハ一部ヲ藏匿シ轉匿シ若クハ脫漏シ又ハ借方現額ヲ掲ケ又ハ商業張簿ヲ毀滅シ藏匿シ若クハ僞造變造スルコト」ニ存ス而シテ其行爲者カ破産宣告ヲ受クタル債務者タルコトハ詐欺破産ノ構成要件ニアラスシテ處罰條件(Bedingungder strafbarkeit)ナリトス、處罰條件トハ立法者カ特別ノ犯罪ニ限リ之ヲ處罰スル爲メニ必要トスル客觀的狀況ニシテ其犯罪行爲トハ全ク獨立シテ存在スルモノタルコトヲ注意スヘキナリ、從テ行爲ノ既遂及ヒ未遂ノ時期ヲ判定スルニハ處罰條件ノ存否トハ何等ノ關係ナキモノト云ハサル可カラス、然レトモ處罰條件ノ具備セサル間ハ處罰スヘキ行爲ハ存在スト云フコトヲ得サルヲ以テ處罰スヘキ未遂ハ罪トナルヘキ行爲ノ未遂ニ更ニ處罰條件ノ附加シタルトキニ限リ存在スト云フヘキナリ、故ニ詐欺破産ノ犯罪行爲カ未遂ニ止マリ且ツ行爲者ニ於テ破産宣告ヲ受ケタル於テ其未遂行爲ニ對シ詐欺破産ノ未遂ヲ以テ論スヘキナリ(小博學士法質錄解答)

第三十八章　横領ノ罪

横領罪トハ他人ノ爲メ自己カ占有スル物又ハ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル自己ノ物若クハ遺失物、漂流物等ニ付キ權限外ノ行爲ヲ爲シタル罪ヲ謂フ(第二五二乃至二五五條)本章ノ罪ヲ分テ(一)占有物横領罪(第二五二條)(二)離占有物横領罪(第二五四條)ノ二トス、

◎占有物横領罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

占有物横領罪トハ他人ノ爲メ自己ノ占有スル他人ノ物又ハ公務所ヨリ保管

ヲ命セラレタル自己ノ物ヲ横領シタル罪ヲ謂フ(第二五二條)其成立要素左ノ如シ

(1)他人ノ爲メ自己ノ占有スル物又ハ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル自己ノ物ナルコトヲ要ス(目的物)

(イ)法文ニハ單ニ「自己ノ占有スル他人ノ物」トアルモ自己ノ爲他人ノ物ヲ占有スル場合(例ヘハ強竊盜ニ因リ得タル物ヲ自己カ占有スル場合ノ如キ)本條ノ適用ナキハ當然ナリ故ニ法文「自己ノ占有スル他人ノ物」トハ他人ノ爲メ自己ノ占有スル他人ノ物タルモノト解セサル可カラス(ロ)刑法上ノ「占有」ナル語ハ總テ「所持」ノ意ニ解ス可キモノナルコト前掲竊盜罪ノ要素ノ如シ(ハ)自己ノ物タルトキハ本罪ノ目的物ト成ル(必ス公務所ヨリ保管ヲ命セラレタルコトヲ要ス、銀行會社等私法人ヨリ保管ヲ託セラレタル物ノ如キ例ヘハ自元保證ノ爲メ自己所有ノ株券ヲ銀行ニ差入レ、更ニ銀行ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ノ如キ)舊法ノ下ニ於テ之ヲ依託物費消罪トセルモ本法ニ於テハ之ヲ横領スルモ、本罪ヲ成立セス、(ニ)其横領物件ハ動産ニ限ラス不動産ニ付テモ亦本罪成立ス(32年7月7日大審院判決)例ヘハ假裝ノ賣買ヲ爲シタル後其買主カ其不動産ヲ他人ニ賣却スルカ如キ本罪ヲ構成ス。

(2)横領シタルコトヲ要ス(行爲)。

(イ)「横領」トハ占有者カ其物ニ關シテ權限外ノ行爲ヲ爲スヲ謂フ、但異論アリ、(即

ヲ横領トハ自己ノ所有物トシテ絶對的支配力ヲ行フノ意思アリト認ム可キ一切ノ行爲也)ト、奪取罪ニ於ケル奪取行爲ヲ解シテ領得ノ意思ヲ以テスル所持ノ侵害也トナス者ハ異論ヲ主張ス可シ奪取所爲ヲ以テ單ニ所持ヲ侵害スル事實ナリト解スル者ハ前説ヲ主張ス(本書前説ニ從フ)(ロ)横領行爲ハ必シモ費消(物質上ノ費消ト法律上ノ費消例ヘハ賣買賃入等)ニ限ラス隱匿、使用、携帶、委託物騙取其他ノ物件ニ對シ權限外ノ行爲ヲ爲ス一切ノ場合ヲ包含ス(問題)代替物ニ對シテ本罪ヲ認ムルコトヲ得ルヤ、(A)代替物ト雖モ性質上特定物ナレトキハ本罪ノ目的物タルコトヲ得ヘシ、(B)反之、不特定物ナルトキハ占有者ハ其物ノ上ニ處分權ヲ有スルカ故ニ本罪ヲ成立セシムヘキ餘地ナシ(C)但委託金ノ場合ニ於テ其委託ノ趣旨ニ違ヒ擅ニ之ヲ費消スルトキハ本罪ヲ構成ス(37年8月23日大審院判決)(ハ)他人ノ物ヲ法律處分スル場合ハ本罪及ヒ故買罪者クハ欺罔取財罪ノ想像上俱發ヲ生シ第五四條ノ適用ヲ受クルモノトス、(ニ)本罪ノ主體ハ占有者ナルコトヲ要ス、然レトモ占有者ノ横領所爲ニ加效シタル者ハ第六五條第一項ニ依リ共犯ノ責任ヲ有ス(ホ)本罪ハ業務上他人ノ物件ヲ占有スル場合ニ關シ特ニ其刑ヲ加重ス、例ヘハ公務員(監守盜)運送業者、倉庫業者、旅宿業者、辨護人等カ其職務又ハ業務上保管セル物ヲ横領シタル場合ノ如キ是也(第二五三條)

◎離占有物横領罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

離占有物横領罪トハ遺失物、漂流物其他占有ヲ離レタル他人ノ物ヲ横領シタル罪ヲ謂フ(第二五四條)其成立要素左ノ如シ

(1)遺失物、漂流物其他占有ヲ離レタル他人ノ物ナルコトヲ要ス(目的物)

(イ)占有ヲ離レタル他人ノ物トハ占有者カ喪失ノ意ナクシテ偶其占有ヲ失ヒタル物件ヲ謂フ(遺失物、漂流物ハ其例示ニ過キス)故ニ他人カ誤テ占有物ヲ移轉シタル物件ニ對シテハ本罪ノ適用ナシ、(ロ)他人ノ所有物ナルコトヲ要ス、故ニ自己ノ物ヲ他人カ占有スル場合ニ於テ他人カ其占有ヲ失ヒタルトキ之ヲ横領スルハ本罪ト成ラス。

(2)横領シタルコトヲ要ス(行爲)横領ノ意義前掲參照)

◎委託物費消罪ニ未遂罪アリヤ、

委託物費消罪ニ罰スヘキ未遂ノ體樣アリヤ否ヤハ多少疑似ノ餘地アル問題ナリ蓋シ委託物費消罪ハ獨逸刑法上所謂受寄盜ニ該當シ受寄盜ノ未遂ニ付テハ獨逸學者間異論ナキニ非スト雖トモ受寄盜ハ要スルニ横領スル行爲ニ關スルニ拘ハラス委託物費消罪ハ費消スル行爲ニ關スルヲ以テ獨逸刑法上ノ學說ヲ擧ケテ以テ吾委託物費消罪ヲ說明スルコトヲ得サルヤ勿論ナルヲ以テ本問ニ付テハ之ヲ刑法ニ於ケル特別論トシテ(一)費消ノ何タルヤヲ確定シ(二)費消ニ着手シテ之ヲ遂ケサル體樣アリヤ否ヤヲ論斷シタル後其斷案ニ進セサル可ラス、

(一)費消ノ意義、學者或ハ費消ノ行爲ヲ以テ事實上物ノ全部又ハ一部ヲ處分スル行爲ノミヲ意味スルモノト爲ス、是レ自ラ別種ノ觀察ニ屬スルヲ以テ今深ク之ヲ非難セスト雖モ費消ナル語句ハ何カ故ニ斯クノ如ク狹義ニ解釋セサル可カラサルヤ、予ノ信スル所ニ依レハ費消ノ行爲ハ事實上物ノ全部又ハ一部ヲ處分シ又ハ法律上物上ノ權利ノ全部又ハ一部ヲ處分スル行爲ヲ云フ而シテ事實上物ノ全部又ハ一部ヲ處分スル行爲トハ例之物ノ燒燬、毀壞其他ヲ云ヒ法律上物上ノ權利ノ全部又ハ一部ヲ處分スル行爲トハ例之賣買贈與、交換、質入其他ヲ云フナリ、(二)費消ノ行爲ニハ費消ニ着手シテ之ヲ遂ケサル體樣アリヤ、否ヤ異說アル可シト雖モ予ハ積極的ニ之ニ應答セントス、蓋費消ノ行爲ニシテ若シ瞬時ニ成立スル行爲ナリトセハ或ハ着手ト同時ニ其實行ヲ終ル可キヲ以テ前揭ノ體樣ナシト云フコトヲ得ヘシト雖モ何人ト雖モ費消ノ行爲ヲ以テ斯クノ如キ行爲ナリトハ斷言スルコト能サル可シ乞フ之ヲ例證セン物ヲ燒燬シテ之ヲ費消セントスル者アリ、其點火セントスル一刹那意外ノ障害ニ依リ之ヲ燒燬セサリシトキ、又物ヲ賣買シテ之ヲ費消セントスル者アリ申込ニ應シテ之ヲ承諾セントスル刹那意外ノ障害ニ依リ之ヲ賣買セサリシトキ、凡テ此種ノ體樣ハ費消ニ着手シテ之ヲ遂ケサル體樣ナリト云フコトヲ得ヘシ、(結論)故ニ費消ノ行爲ニハ着手以上ノ未遂ノ體樣アルコト上述ノ如クニシテ而カモ刑法第三百九十七條ノ規定アリ、然ハ予ハ委託物費消罪ニ罰スヘキ未遂アリト謂フコトヲ得ヘシ、(谷野學士法實錄解答)編者曰ク以上ハ

舊刑法時代ニ於ケル谷野學士ノ所說也、新刑法ニ於テハ横領罪未遂ヲ罰スヘキ條項ナキヲ以テ委託物費消罪ニ未遂ノ態樣アリト雖モ未遂罪ヲ構成スルモノニアラス)

第三十九章　贓物ニ關スル罪

◎贓物罪ノ意義及成立要素ヲ問フ

贓物ニ關スル罪トハ贓物タルコトヲ知テ之ヲ收受シ又ハ運搬寄藏、故買若クハ牙保ヲ爲シタル罪ヲ謂フ(第二五六乃至二五七條)

本罪ハ往々强竊盜、詐欺恐喝又ハ横領罪等ヲ犯シタル結果トシテ行ハル、蓋ルル場合ニ於テハ第五四條ノ適用ヲ受クルモノトス、雖然、亦他ノ犯罪ニ何等ノ關係ナキ者單獨ニ本罪ヲ犯ス場合亦尠カラス、若シ奪取又ハ横領罪ノ犯人ト共ニ他ノ者之ヲ犯シタルトキハ其犯人ニ就テハ第五四條ニ依テ其刑ヲ定メ、他ノ者ハ本章ノ規定ニ依テ其刑ヲ定ム可キモノトス。

(1)贓物タルコトヲ要ス(目的物)

(イ)「贓物」トハ不法ニ他人ノ占有ヲ奪取シ又ハ横領シテ得タル物(有體物以外ノ利益ヲ包含セス)ヲ謂フ、故ニ奪取又ハ横領ノ行爲ニ依リ得タル物ニ非サレハ犯罪ニ因テ得タル物ト雖モ贓物ニ非ス(例ヘハ賄賂物、賭金、密賣淫金ノ如キハ贓物ニ非ス)要スルニ「贓物」トハ强竊盜罪又ハ詐欺恐喝罪若クハ横領罪ノ客体タル物件ヲ指稱ス、其他ノ犯罪ニ因テ得タル物ハ本罪ノ目的ト成ラス、(ロ)然レトモ不法ニ奪取又ハ横領シタル物件ナル以上ハ其犯人カ處刑ヲ受ケタルト否トヲ問ハス從テ(A)親族間ノ犯罪ニ係ル場合ナルト否トヲ問ハス(37年11月8日大審院判決)(B)犯罪カ公訴時效ニ係ル場合ナルト否トニ關係ナシ(36年10月23日大審院判決)(C)外國公使ノ如キ刑法ノ適用ヲ受ケサル者ノ行爲ニ係ル場合ナルト(D)外國ニ於テ犯サレタル場合ナルト否トニ關係ナシ(E)又其行爲者ニ責任能力又ハ故意ノ存スルト否トヲ區別セス、但此場合ニ就テハ議論アリ。

(1)消極說　責任能力又ハ故意ヲ存セサル場合ハ其基本タル行爲カ犯罪タルヲ以テ贓物ナルモノ存在セストノ說。

(2)區別說　行爲者カ責任無能力ナル場合ニ於テハ贓物ト稱スルコトヲ得ヘキモ故意ヲ欠缺セル場合ハ贓物ト謂フコトヲ得ストノ說。

(3)積極說　責任無能力ノ場合ト故意欠缺ノ場合トヲ問ハス總テ贓物ナリトノ說。

本書ハ第三說ニ從フ、蓋責任無能力ヲ缺ク者又ハ犯意ヲ缺ク者ノ行爲ニ係ルトキト雖モ行爲其者カ奪取横領ノ行爲ナル以上ハ單ニ之ヲ處罰セスト謂フニ止マリ其行爲ヲ適法ナルモノトシテ、之ヲ保護スルニ非ス、且ツ刑法カ贓物ニ關スル行爲ヲ處罰スルハ其行爲カ奪取横領セラレタル被還請求權ノ行使ヲ害スルノ危險アリト爲スニ外ナラス故ニ其行爲者カ犯人トシテ處罰セラレタルヤ否ヤニ因テ其結論ヲ異ニス可キ理由ナケレハ也(但責任無能力者ノ

場合ニ之ヲ賍物ト認メサル判例アリ(32年5月13日大審院判決)(ハ)物件ノ權利カ一旦適法ニ他人ニ歸屬シタルトキ(民法第一九二條參照)ハ賍物タル性質ヲ失フモノト解セサル可カラス(39年2月12日大審院判決)

(2)之ヲ收受シ又ハ運搬寄藏故買若クハ牙保シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)「收受」トハ廣ク物件ヲ受領スルコトナリト雖モ運搬寄藏故買牙保ニ關シ第二項ノ規定存スルヲ以テ此等以外ノ受領行爲ト解セサル可カラス從テ本項ノ「收受」ハ贈與ヲ受クル場合ノミニ適用アリト知ル可シ(本法ハ收受ニ限リ特ニ刑ヲ輕クセリ)(ロ)「運搬」トハ一地所ヨリ他所ニ移轉スルヲ謂ヒ(ハ)「寄藏」トハ他人ノ爲メニ保管スルヲ意味シ(ニ)「故買」トハ有償ニテ物件ノ上ニ權利ヲ取得スルヲ謂フ(賣買交換ハ勿論質權抵當權等ノ設定モ亦包含ス)而シテ其法律行爲カ法律上有效ナルト否トヲ問ハサルナリ(ホ)「牙保」トハ物件ニ關スル法律上ノ處分行爲(卽チ賣買交換抵當權質權ノ設定等)ノ周旋(媒介)ヲ爲スヲ謂フ(ヘ)賍物タル認識ヲ必要トスルハ一般ノ犯罪ト異ナラス但賣買行爲當時ニ於テ賍物タルコトヲ知ラサルモ其引渡ヲ受クルトキ其情ヲ知ルトキハ之ヲ賍物故買トスル判例アリ(39年9月27日大審院判決)賣主ニ於テ賍物タルノ情ヲ知ラサルモ買主ニ於テ之ヲ知ルトキハ賍物故買也(32年12月15日大審院判決)又包裝中ニ賍金ノ存在スルコトヲ發見シテ之ヲ自己ノ有ト爲シタル所爲ハ賍物收受罪也トノ判例アリ(39年11月20日大審院判決)

第四十章　毀棄及ヒ隱匿ノ罪

毀棄及隱匿罪トハ文書ヲ毀棄シ又ハ建造物艦船其他ノ物ヲ損壞傷害シタル罪及ヒ信書ヲ隱匿シタル罪ヲ謂フ(第二五八乃至二六四條)本章ノ罪ヲ分テ(一)文書毀棄罪(第五八、二五九、二六二條)(二)損壞傷害罪(第二六〇、二六一、二六二條)(三)信書隱匿罪(第二六三條)ノ三トス

◎文書毀棄罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

文書毀棄罪トハ公務所ノ用ニ供スル文書(圖畫)又ハ權利義務ニ關スル文書(圖畫)ヲ毀棄スル罪ヲ謂フ第二五八、二五九條)其成立要素左ノ如シ

(1)公務所ノ用ニ供スル文書(圖畫)又ハ權利義務ニ關スル文書(圖畫)タルコトヲ要ス(目的物)

(イ)「公務所ノ用ニ供スル文書」トハ廣ク公務所ニ於テ保管スル文書(圖畫)ヲ總稱ス(公務所公務員ノ作成ニ係ルト私人ノ作成ニ係ルトヲ問ハス)(ロ)「權利義務ニ關スル他人ノ文書」トハ文書ノ內容カ權利義務ノ得喪變更ヲ來スヘキ事實ヲ記載シタル文書ニシテ自己以外ノ私人(自然人及法人ヲ包含ス)ノ所有ニ係ル文書也(其文書ハ公務員ノ作成ニ係ルト私人ノ作成ニ係ルトヲ問ハス、(ハ)自己所有ニ屬スル文書ト雖モ差押ヲ受ケ又ハ物權ノ目的タル場合ニ於テハ他人ノ文書ト同一視セラルルモノトス(第二六二條)(A)公債證書其他ノ有價證券ノ

如キハ其文書物體差押ノ目的ト爲ルモ普通ノ債權ノ如キハ其文書其物カ差押ヲ受ルモノニ非ス、然レトモ文書ノ證明セントスル權利ヲ差押ラレタルトキハ其文書ノ差押アリタリト認ムルモノトス(B)文書其物ハ物權ノ目的タルモノニ非サレトモ其文書ニ因テ證明セラル可キ權利カ物權ヲ負擔スル場合(例ヘハ債權ノ上ニ權利質ヲ設定スル場合ノ如シ)ニ於テ其文書ヲ毀棄スルトキハ本罪ヲ成立ス。

(2)之ヲ毀棄シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)「毀棄」トハ文書ノ效用ノ全部又ハ一部ヲ失ハシムル行爲ヲ總稱シ、其文書ヲ實質的ニ毀損スルコトヲ必要トセス(37年11月10日大審院判決)故ニ文字ヲ塗抹シテ其內容ノ全部又ハ一部ヲ知ルコト能ハサルニ至ラシムルモ亦毀棄ト解ス可シ、(ロ)毀棄ト變造トハ其文書ノ內容ヲ知ルコト能ハサラシムルト、前文書ト異ナル意義ヲ生セシメタルトニ因テ之ヲ區別スルノ外ナシ(然レトモ實際ニ於テハ之ヲ判別スルコト困難ナリ)(ハ)保證人トシテ證書ニ連署シタル者カ其義務ヲ免カレン爲メ債權者ヨリ證書ノ交付ヲ受ケ擅ニ保證人ノ文字ヲ立會人ト變更シ之ヲ返付シタル所爲ハ證書ノ變造行使罪ニ非スシテ證書毀棄罪也トノ判例(37年12月25日大審院判決)アレトモ此場合ハ變造行使罪也ト解スルヲ正當トス。

◉損壞傷害罪ノ意義及成立要素ヲ問フ、

損壞傷害罪トハ建造物、艦船又ハ其他ノ物ヲ損壞シ又ハ傷害スル罪ヲ謂フ(第二六〇、二六一、二六二條)

(1)建造物、艦船其他ノ物タルコトヲ要ス(目的物)

(イ)「建造物、艦船」意義ニ付テハ前掲「放火罪」説明參照(ロ)「其他ノ物」トハ第二五八、二五九、二六〇ノ三條ニ記載シタル以外ノ物ヲ總稱ス(動物、植物、礦物、器械、器具、等ヲ包含ス)(ハ)自己ノ所有ニ屬スル物ト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シタル物(使用貸借寄託其他ノ原因ニ依リ他人カ占有スル場合ヲ除外ス)ナルトキハ本罪ノ目的ト成ル(第二六二條)

(2)損壞又ハ傷害シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)茲ニ「損壞」トハ廣ク物件ノ效用ノ全部又ハ一部ヲ不能ナラシムル行爲ヲ謂フ、通常ノ場合ニ於テ物質ヲ破壞シテ效用ヲ失ハシムルヲ意味スレトモ(第九六、一一七、一二四條參照)茲ニハ廣ク破壞ニ因ルハ勿論、汚損(古書畫)ニ對スル場合)又ハ逸走(動物ニ對スル場合)等ノ行爲ニ因リ物ノ效用ヲ失ハシメタル一切ノ場合ヲ包含スト解スルヲ可トス、(ロ)建造物損壞罪(第二六〇條)ニ就テハ放火罪ノ規定(第一〇八條以下)及溢水罪ノ規定(第一一九條以下)ニ入ル能ハサル場合ハ其放火溢水ノ手段ヲ以テスルト其他ノ方法ヲ以テスルトヲ問ハス本條ニ入ルモノト解ス可シ又艦船損壞罪(一二六〇條)ニ就テモ艦船破壞(第一二六條)ニ入ラサル場合卽チ結果ノ輕微ナル場合ニ限ルト知ル可シ、(ロ)「傷害」トハ動物ノ身體ヲ毀損スルヲ謂フ、從テ建造物ニ對シテ適用ノ場合ナシ。

㊁信書隱匿罪ノ意義及成立要素ヲ問フ

信書隱匿罪トハ他人ノ信書ヲ隱匿シタル罪ヲ謂フ(第二六三條)其成立要素左ノ如シ

(1)他人ノ信書ナルコトヲ要ス(目的物)

(イ)「他人ノ信書」トハ自己以外ノ者ヨリ自己以外ノ者ニ到達ス可キ信書ヲ謂フ(發信人自ラ其信書ヲ隱匿スル場合ハ受信人ニ到達スルト否トニ關セス本罪ヲ成立セス)、(ロ)信書トハ特定人間ニ於テ意思ヲ通知スル文書ヲ謂フ、其內容ノ如何ヲ論セス。

(2)隱匿シタルコトヲ要ス(行爲)

(イ)「信書ノ隱匿」トハ信書ノ所在ヲ不明ナラシムルヲ謂フ(他人ノ信書ヲ開封スルトキハ信書開封罪(第一三三條)ト成リ、他人ノ信書ヲ毀棄シタルトキハ文書毀棄罪(第二五九、二六一條)ト成ル)單ニ隱匿シタル場合ニ限リ本罪ヲ成立ス(其目的如何ヲ論セス)(ロ)本罪ハ信書カ受信人ニ到達スルコトヲ妨害スル行爲ヲ處罰スルニアリ、故ニ受信人カ其信書ノ內容ヲ知了シタル後ハ本罪ノ成立ナシトス。

附錄

刑法施行法 正文

附錄目次

刑法……一
第一編　總則……一
第一章　法例……一
第二章　刑……二
第三章　期間計算……四
第四章　刑ノ執行猶豫……四
第五章　假出獄……五
第六章　時效……六
第七章　犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免……六
第八章　未遂罪……七
第九章　併合罪……七
第十章　累犯……八
第十一章　共犯……九
第十二章　酌量減輕……九
第十三章　加減例……一〇
第二編　罪……一〇

第一章　皇室ニ關スル罪……一〇
第二章　內亂ニ關スル罪……一一
第三章　外患ニ關スル罪……一一
第四章　國交ニ關スル罪……一二
第五章　公務ノ執行ヲ妨害スル罪……一三
第六章　逃走ノ罪……一三
第七章　犯人藏匿及ヒ證據湮滅ノ罪……一四
第八章　騷擾ノ罪……一四
第九章　放火及ヒ失火ノ罪……一四
第十章　溢水及ヒ水利ニ關スル罪……一六
第十一章　往來ヲ妨害スル罪……一七
第十二章　住居ヲ侵ス罪……一七
第十三章　秘密ヲ侵ス罪……一八
第十四章　阿片煙ニ關スル罪……一八
第十五章　飲料水ニ關スル罪……一八
第十六章　通貨僞造ノ罪……一九
第十七章　文書僞造ノ罪……二〇
第十八章　有價證券僞造ノ罪……二一
第十九章　印章僞造ノ罪……二二

第二十章　僞證ノ罪……二二
第二十一章　誣告ノ罪……二三
第二十二章　猥褻、姦淫及ヒ重婚ノ罪……二三
第二十三章　賭博及ヒ富籤ニ關スル件……二四
第二十四章　禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪……二四
第二十五章　瀆職ノ罪……二五
第二十六章　殺人ノ罪……二六
第二十七章　傷害ノ罪……二六
第二十八章　過失傷害ノ罪……二七
第二十九章　墮胎ノ罪……二七
第三十章　遺棄ノ罪……二八
第三十一章　逮捕及ヒ監禁ノ罪……二八
第三十二章　脅迫ノ罪……二八
第三十三章　略取及ヒ誘拐ノ罪……二九
第三十四章　名譽ニ對スル罪……二九
第三十五章　信用及ヒ業務ニ對スル罪……三〇
第三十六章　竊盜及ヒ强盜ノ罪……三一
第三十七章　詐欺及ヒ恐喝ノ罪……三一
第三十八章　橫領ノ罪……三一

附錄目次畢

第三十九章　贓物ニ關スル罪……三二
第四十章　毀棄及ヒ隱匿ノ罪……三二
刑法施行法……三三
印紙犯罪處罰法……四三
刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件……四三

刑法

第一編　總則

第一章　法例

第一條　本法ハ何人ヲ問ハス帝國內ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス（新規）

帝國外ニ在ル帝國船舶內ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付キ亦同シ（新規）

第二條　本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス（新規）

一　第七十三條乃至第七十六條ノ罪

二　第七十七條乃至第七十九條ノ罪

三　第八十一條乃至第八十九條ノ罪

四　第百四十八條ノ罪及ヒ其未遂罪

五　第百五十四條、第百五十五條、第百五十七條及ヒ第百五十八條ノ罪

六　第百六十二條及ヒ第百六十三條ノ罪

七　第百六十四條乃至第百六十六條ノ罪及ヒ第百六十四條第二項、第百六十五條第二項第百六十六條第二項ノ未遂罪

第三條　本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國臣民ニ之ヲ適用ス（新規）

一　第百八條第百九條第一項ノ罪、第百八條、第百九條第一項ノ例ニ依リ處斷ス可キ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪

二　第百十九條ノ罪

三　第百五十九條乃至第百六十一條ノ罪

四　第百六十七條ノ罪及ヒ同條第二項ノ未遂罪

五　第百七十六條乃至第百七十九條、第百八十一條及ヒ第百八十四條ノ罪

六　第百九十九條、第二百條ノ罪及ヒ其未遂罪

七　第二百四條及ヒ第二百五條ノ罪

八　第二百十四條乃至第二百十六條ノ罪

九　第二百十八條ノ罪及ヒ同條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

十　第二百二十條及ヒ第二百二十一條ノ罪

十一　第二百二十四條乃至第二百二十八條ノ罪

十二　第二百三十條ノ罪

十三　第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條乃至第二百四十一條及ヒ第二百四十三條ノ罪

十四　第二百四十六條乃至第二百五十條ノ罪

十五　第二百五十三條ノ罪

十六　第二百五十六條第二項ノ罪

帝國外ニ於テ帝國臣民ニ對シ前項ノ罪ヲ犯シタル外國人ニ付キ亦同シ

第四條　本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル帝國ノ公務員ニ之ヲ適用ス（新規）

一　第百一條ノ罪及ヒ其未遂罪

二　第百五十六條ノ罪

三　第百九十三條、第百九十五條第二項、第百九十七條ノ罪及ヒ第百九十五條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

第五條　外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケタル者ト雖モ同一行爲ニ付キ更ニ處罰スルコトヲ妨クス但犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受

ケタルトキハ刑ノ執行ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得（新規）

第六條　犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕キモノヲ適用ス（舊第三條二項修正）

第七條　本法ニ於テ公務員ト稱スルハ官吏、公吏、法令ニ依リ公務ニ從事スル議員委員其他ノ職員ヲ謂フ（新規）

公務所ト稱スルハ公務員ノ職務ヲ行フ所ヲ謂フ（新規）

第八條　本法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモノニ亦之ヲ適用ス但其法令ニ特別ノ規定アルトキハ此限ニ在ラス（舊第四五條修正）

第二章　刑

第九條　死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留及ヒ科料ヲ主刑トシ沒收ヲ附加刑トス（舊第六乃至一〇條修正）

第十條　主刑ノ輕重ハ前條記載ノ順序ニ依ル但無期禁錮ト有期懲役トハ禁錮ヲ以テ重シトシ有期禁錮ノ長期有期懲役ノ長期ノ二倍ヲ超ユルトキハ禁錮ヲ以テ重シトス

同種ノ刑ハ長期ノ長キモノ又ハ多額ノ多キモノヲ以テ重シトシ長期又ハ多額ノ同シキモノハ其短期ノ長キモノ又ハ寡額ノ多キモノヲ以テ重シトス

二個以上ノ死刑又ハ長期若クハ多額及ヒ短期若クハ寡額ノ同シキ同種ノ刑ハ犯情ニ依リ其輕重ヲ定ム（以上舊一〇〇條二三項修正）

第十一條　死刑ハ監獄内ニ於テ絞首シテ之ヲ執行ス（監獄法第七一條以下參照、舊第一二條修正）

死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其執行ニ至ルマテ之ヲ監獄ニ拘置ス

第十二條　懲役ハ無期及ヒ有期トシ有期懲役ハ一月以上十五年以下トス

懲役ハ監獄ニ拘置シ定役ニ服ス（舊第一七、一八、一九、二二、二四條修正）

第十三條　禁錮ハ無期及ヒ有期トシ有期禁錮ハ一月以上十五年以下トス

禁錮ハ監獄ニ拘置ス（舊第二〇、二一、二三、二四條修正）

第十四條　有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ加重スル場合ニ於テハ二十年ニ至ルコトヲ得之ヲ減輕スル場合ニ於テハ一月以下ニ降スコトヲ得（舊第七〇、七一條修正）

第十五條　罰金ハ二十圓以上トス但之ヲ減輕スル場合ニ於テハ二十圓以下ニ降スコトヲ得（舊第二六、七一條修正）

第十六條　拘留ハ一日以上三十日未滿トシ拘留場ニ拘置ス（舊第二八、七二條修正）

第十七條　科料ハ十錢以上二十圓未滿トス（舊第二九、七二條修正）

第十八條　罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一年以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上三十日以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ併科シタル場合ト雖モ留置ノ期間ハ六十日ヲ超ユルコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト共ニ罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル留置ノ期間ヲ定メ之ヲ言渡ス可シ

罰金ニ付テハ裁判確定後三十日内科料ニ付テハ裁判

確定後十日内ハ本人ノ承諾アルニ非サレハ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ受ケタル者其幾分ヲ納ムルトキハ罰金又ハ科料ノ全額ト留置日數トノ割合ニ從ヒ其金額ニ相當スル日數ヲ控除シテ之ヲ留置ス

留置期間内罰金又ハ科料ヲ納ムルトキハ前項ノ割合ヲ以テ殘日數ニ充ツ

留置一日ノ割合ニ滿タサル金額ハ之ヲ納ムルコトヲ得ス（舊第二七、三〇、四二條修正）

第十九條 左ニ記載シタル物ハ之ヲ沒收スルコトヲ得（舊第四三、四四條修正）

一 犯罪行爲ヲ組成シタル物

二 犯罪行爲ニ供シ又ハ供セントシタル物

三 犯罪行爲ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物

沒收ハ其物犯人以外ノ者ニ屬セサルトキニ限ル

第二十條 拘留又ハ科料ノミニ該ル罪ニ付テハ特別ノ規定アルニ非サレハ沒收ヲ科スルコトヲ得ス但前條第一項第一號ニ記載シタル物ノ沒收ハ此限ニ在ラス（新規）

第二十一條 未決拘留ノ日數ハ其全部又ハ一部ヲ本刑ニ算入スルコトヲ得（舊五一條修正）

第三章 期間計算

第二十二條 期間ヲ定ムルニ月又ハ年ヲ以テシタル時ハ曆ニ從ヒテ之ヲ計算ス（民法第三八、三九條乃至第一四三條參照）（舊第四九條修正）

第二十三條 刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算ス（舊第五一條修正）

拘禁セラレタル日數ハ裁判確定後ト雖モ刑期ニ算入セス（舊第五二條修正）

第二十四條 受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス全一日トシテ之ヲ計算ス時效期間ノ初日亦同シ

放免ハ刑期終了ノ翌日ニ於テ之ヲ行フ（舊第四九條修正、民法第一四〇條參照）

第四章 刑ノ執行猶豫

（明治三八年法律第七〇號刑行ノ執行猶豫規則修正）

第二十五條 左ニ記載シタル者二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタルトキハ情狀ニ因リ裁判確定ノ日ヨリ一年以上五年以下ノ期間内其執行ヲ猶豫スルコトヲ得（新規）

一 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

二 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

第二十六條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可シ（新規）

一 猶豫ノ期間内更ニ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 猶豫言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三 前條第二號ニ記載シタル者ヲ除ク外猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコト發覺シタルトキ

第二十七條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サルルコトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過シタルトキハ刑ノ言渡ハ其效力ヲ失フ（新規）

第五章 假出獄

第二十八條 懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者改悛ノ狀アルトキハ有期刑ニ付テハ其刑期三分ノ一無期刑ニ付テハ十年ヲ經過シタル後行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得（舊第五三條修正）

第二十九條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ假出獄ノ處分ヲ取消スコトヲ得（舊第五六、五七條修正）

一 假出獄中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三 假出獄前他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其刑ノ執行ヲ爲ス可キトキ

四 假出獄取締規則ニ違背シタルトキ

假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セス

第三十條 拘留ニ處セラレタル者ハ情狀ニ因リ何時ニテモ行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出場ヲ許スコトヲ得（新規）

罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサルニ因リ留置セラレタル者亦同シ(新規)

第六章　時效

第三十一條　刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ時效ニ因リ其執行ノ免除ヲ得(舊第五八條修正)

第三十二條　時效ハ刑ノ言渡シタル後左ノ期間内其執行ヲ受サルニ因リ完成ス(舊第五九、六〇條修正)

一　死刑ハ三十年

二　無期ノ懲役又ハ禁錮ハ二十年

三　有期ノ懲役又ハ禁錮ハ十年以上ハ十五年、三年以上ハ十年、三年未滿ハ五年

四　罰金ハ三年

五　拘留、科料及ヒ沒收ハ一年

第三十三條　時效ハ法令ニ依リ執行ヲ猶豫シ又ハ之ヲ停止シタル期間内ハ進行セス(新規)

第三十四條　時效ハ刑ノ執行ニ付キ犯人ヲ逮捕シタルニ因リ之ヲ中斷ス(舊第六一、六二條修正)

罰金、科料及ヒ沒收ノ時效ハ執行行爲ヲ爲シタルニ因リ之ヲ中斷ス(同)

第七章　犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免

第三十五條　法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行爲ハ之ヲ罰セス(舊第七六條修正)

第三十六條　急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ之ヲ罰セス(舊第三四、三一五條修正)

防衛ノ程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得(舊第三一六條修正)

第三十七條　自己又ハ他人ノ生命、身體、自由若クハ財產ニ對スル現在ノ危難ヲ避クル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ其行爲ヨリ生シタル害其避ケントシタル害ノ程度ヲ超エサル場合ニ限リ之ヲ罰セス

但其程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

前項ノ規定ハ業務上特別ノ義務アル者ニハ之ヲ適用セス(舊第七五條修正)

第三十八條　罪ヲ犯ス意ナキ行爲ハ之ヲ罰セス但法律ニ特別ノ規定アル場合ハ此限ニ在ラス

罪本重カル可クシテ犯ストキ知ラサル者ハ其重キニ從テ處斷スルコトヲ得ス

法律ヲ知ラサルヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト爲スコトヲ得ス但情狀ニ因リ其刑ヲ減輕スルコトヲ得(以上舊第七七條修正)

第三十九條　心神喪失者ノ行爲ハ之ヲ罰セス(舊第七八條修正)

心神耗弱者ノ行爲ハ其刑ヲ減輕ス(新規)

第四十條　瘖啞者ノ行爲ハ之ヲ罰セス又ハ其刑ヲ減輕ス(舊刑第八二條修正)

第四十一條　十四歲ニ滿タサル者ノ行爲ハ之ヲ罰セス(舊第七九乃至八一條、第八三條修正)

第四十二條　罪ヲ犯シ未タ官ニ發覺セサル前自首シタル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

告訴ヲ待テ論ス可キ罪ニ付キ告訴權ヲ有スル者ニ首服シタル者亦同シ(舊第八五、八六條修正)

第八章　未遂犯

第四十三條　犯罪ノ實行ニ着手シ之ヲ遂ケサル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得但自己ノ意思ニ因リ之ヲ止メタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除ス(舊第一一二條修正)

第四十四條　未遂罪ヲ罰スル場合ハ各本條ニ於テ之ヲ定ム(舊第一一三條修正)

第九章　併合罪

第四十五條　確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ止タ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス(新規)

第四十六條　併合罪中其一罪ニ付キ死刑ニ處ス可キトキハ他ノ刑ヲ科セス但沒收ハ此限ニ在ラス

其一罪ニ付キ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キトキ亦他ノ刑ヲ科セス但罰金、科料及ヒ沒收ハ此限ニ在ラス(新規)

第四十七條　併合罪中二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キ罪アルトキハ其最モ重ク定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期トス但各罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ヲ合算シタルモノニ超ユルコトヲ得ス(新規)

第四十八條　罰金ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六

條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ罰金ハ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ處斷ス（舊第一〇一條修正）

第四十九條 併合罪中重キ罪ニ沒收ナシト雖モ他ノ罪ニ沒收アルトキハ之ヲ附加スルコトヲ得

二個以上ノ沒收ハ之ヲ併科ス（舊第一〇三條修正）

第五十條 併合罪中既ニ裁判ヲ經タル罪ト未タ裁判ヲ經サル罪トアルトキハ更ニ裁判ヲ經サル罪ニ付キ處斷ス（舊第一〇二條修正）

第五十一條 併合罪ニ付キ二個以上ノ裁判アリタルトキハ其刑ヲ併セテ之ヲ執行ス但死刑ヲ執行ス可キトキハ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行ス可キトキハ罰金、科料及ヒ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス有期ノ懲役又ハ禁錮ノ執行ハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノニ超ユルコトヲ得ス（舊第一〇二條修正）

第五十二條 併合罪ニ付キ處斷セラレタル者或罪ニ付キ大赦ヲ受ケタル場合ニ於テハ特ニ大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ刑ヲ定ム（新規）

第五十三條 拘留又ハ科料ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條ノ場合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ拘留又ハ科料ハ之ヲ併科ス（舊第一〇一條修正）

第五十四條 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス（新法）

第四十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス（新規）

第五十五條 連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルトキハ一罪トシテ之ヲ處斷ス（新規）

第十章 累犯

第五十六條 懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル日ヨリ五年內ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキハ之ヲ再犯トス

懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタル者其執行ノ免除アリタル日ヨリ又ハ減刑ニ因リ懲役ニ減輕セラレ其執行ヲ終リ若クハ執行ノ免除アリタル日ヨリ前項ノ期間內ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキ亦同シ

併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其併合罪中懲役ニ處ス可キ罪アリタルトキハ其罪最重ノモノニ非スト雖モ再犯例ノ適用ニ付テハ懲役ニ處セラレタルモノト看做ス（以上舊第九一乃至九五條修正）

第五十七條 再犯ノ刑ハ其罪ニ付キ定メタル懲役ノ長期ノ二倍以下トス（舊第九一乃至九三條修正）

第五十八條 裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ加重ス可キ刑ヲ定ム

懲役ノ執行ヲ終リタル後又ハ其執行ノ免除アリタル後發見セラレタル者ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セス（新規）

第五十九條 三犯以上ノ者ト雖モ仍ホ再犯ノ例ニ同シ（舊第九八條修正）

第十一章 共犯

第六十條 二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス（舊第一〇四條修正）

第六十一條 人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス（舊第一〇五條修正）

教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ（新規）

第六十二條 正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トス（舊第一〇九條修正）

從犯ヲ教唆シタル者ハ從犯ニ準ス（新規）

第六十三條 從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照シテ減輕ス（舊第一〇九條修正）

第六十四條 拘留又ハ科料ノミニ處ス可キ罪ノ教唆者及ヒ從犯ハ特別ノ規定アルニ非サレハ之ヲ罰セス（新規）

第六十五條 犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ犯罪行爲ニ加功シタルトキハ其身分ナキ者ト雖モ仍ホ共犯トス（新規）

身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ科ス（舊第一〇六、一一〇條修正）

第十二章 酌量減輕

第六十六條 犯罪ノ情狀憫諒ス可キモノハ酌量シテ其刑ヲ減輕スルコト得（舊第八九條修正）

第六十七條 法律ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スル場合ト雖モ仍ホ酌量減輕ヲ爲スコトヲ得（舊第八九條修正）

第十三章　加減例

第六十八條　法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ一個又ハ數個ノ原由アルトキハ左ノ例ニ依レ（舊第六六乃至第七二條修正）

一　死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期又ハ十年以上ノ懲役若クハ禁錮トス

二　無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ七年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮トス

三　有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ其刑期ノ二分ノ一ヲ減ス

四　罰金ヲ減輕ス可キトキハ其金額ノ二分ノ一ヲ減ス

五　拘留ヲ減輕ス可キトキハ其長期ノ二分ノ一ヲ減ス

六　科料ヲ減輕ス可キトキハ其多額ノ二分ノ一ヲ減ス

第六十九條　法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ場合ニ於テ各本條ニ二個以上ノ刑名アルトキハ先ツ適用ス可キ刑ヲ定メ其刑ヲ減輕ス（新規）

第七十條　懲役、禁錮又ハ拘留ヲ減輕スルニ因リ一日ニ滿タサル時間ヲ剩ストキハ之ヲ除棄ス

罰金又ハ科料ヲ減輕スルニ因リ一錢ニ滿タサル金額ヲ剩ストキ亦同シ（以上舊第七三條修正）

第七十一條　酌量減輕ヲ爲ス可キトキ亦第六十八條及ヒ前條ノ例ニ依ル（舊第九〇條修正）

第七十二條　同時ニ刑ヲ加重減輕ス可キトキハ左ノ順序ニ依ル（舊第九九條修正）

一　再犯加重

二　法律上ノ減輕

三　併合罪ノ加重

四　酌量減輕

第二編　罪

第一章　皇室ニ對スル罪

第七十三條　天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス（舊第一一六條修正）

第七十四條　天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者亦同シ（以上舊第一一七條修正、新聞條例第三二條參照）

第七十五條　皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期懲役ニ處ス（舊第一一八條修正）

第七十六條　皇族ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ二月以上四年以下ノ懲役ニ處ス（舊第一一九條修正、新聞條例第三三條參照）

第二章　內亂ニ關スル罪

第七十七條　政府ヲ顚覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的トシテ暴動ヲ爲シタル者ハ內亂ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス（舊第一二一、一二三、一二四條修正）

一　首魁ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス

二　謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ禁錮ニ處シ其他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

三　附和隨行シ其他單ニ暴動ニ干與シタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但前項第三號ニ記載シタル者ハ此限ニ在ラス

第七十八條　內亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス（舊第一二二、一二五條修正）

第七十九條　兵器、金穀ヲ資給シ又ハ其他ノ行爲ヲ以テ前二條ノ罪ヲ幇助シタル者ハ七年以下ノ禁錮ニ處ス（舊第一二一條三號、一二七條修正）

第八十條　前二條ノ罪ヲ犯スト雖モ未タ暴動ニ至ラサル前自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス（舊第一二六條修正）

第三章　外患ニ關スル罪

第八十一條　外國ニ通謀シ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメ又ハ敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル者ハ死刑ニ處ス（舊第一二九條修正）

第八十二條　要塞、陣營、軍隊、艦船其他軍用ニ供スル

場所又ハ建造物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス兵器、彈藥其他軍用ニ供スル物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス（以上舊第一三〇條修正）

第八十三條 敵國ヲ利スル爲メ要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥、汽車、電車、鐵道、電線其他軍用ニ供スル場所又ハ物ヲ損壞シ若クハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス（新規）

第八十四條 帝國ノ軍用ニ供セサル兵器、彈藥其他直接ニ戰鬪ノ用ニ供ス可キ物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス（新規）

第八十五條 敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幇助シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル者亦同シ（以上舊第一三一條修正）

第八十六條 前五條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス（舊第一三二條修正）

第八十七條 前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス（新規）

第八十八條 第八十一條乃至第八十六條ニ記載シタル罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス（新規）

第八十九條 本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス（新規）

第四章 國交ニ關スル罪

第九十條 帝國ニ滯在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

帝國ニ滯在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス（以上新規）

第九十一條 帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但被害者ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス（以上新規）

第九十二條 外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ其國ノ國旗其他ノ國章ヲ損壞、除去又ハ汚穢シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス（新規）

第九十三條 外國ニ對シ私ニ戰鬪ヲ爲ス目的ヲ以テ其豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ禁錮ニ處ス但自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス（舊第一三二條修正）

第九十四條 外國交戰ノ際局外中立ニ關スル命令ニ違背シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス（舊第一三四條修正）

第五章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪

第九十五條 公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若クハ爲ササラシムル爲メ又ハ其職ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者亦同シ（以上舊第一三九條修正）

第九十六條 公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無效タラシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス（舊第一七四條修正）

第六章 逃走ノ罪

第九十七條 既決、未決ノ囚人逃走シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス（舊第一四二、一四四條修正）

第九十八條 既決、未決ノ囚人又ハ拘引狀ノ執行ヲ受クタル者拘禁場又ハ械具ヲ損壞シ若クハ暴行脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シテ逃走シタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス（舊第一四二、一四四、一四五條修正）

第九十九條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ奪取シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス（舊第一四七條修正）

第百條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其他逃走ヲ容易ナラシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス（舊第一四六、一四七條

修正）

第百一條　法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ヲ逃走セシメタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス（舊第一四八條修正）

第百二條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス（舊第一四九條修正）

第七章　犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪

第百三條　罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス（舊第一五一條修正）

第百四條　他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ湮滅シ又ハ僞造、變造シ若クハ僞造、變造ノ證憑ヲ使用シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス（舊第一五二條修正）

第百五條　本章ノ罪ハ犯人又ハ逃走者ノ親族ニシテ犯人又ハ逃走者ノ利益ノ爲メニ犯シタルトキハ之ヲ罰セス（舊第一五三條修正）

第八章　騷擾ノ罪

第百六條　多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ騷擾ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス（舊第一三七條修正）

一　首魁ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタルモノハ六月以上七年下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三　附和隨行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百七條　暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲メ多衆聚合シ當該公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受クルコト三回以上ニ及フモ仍ホ解散セサルトキハ首魁ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其他ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス（舊第一三六條修正）

第九章　放火及ヒ失火ノ罪

第百八條　火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス（舊第四〇二、四〇五條修正）

第百九條　火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス但公共ノ危險ヲ生セサルトキハ之ヲ罰セス（以上第四〇三、四〇五、四〇七條修正）

第百十條　火ヲ放テ前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ一年以上ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス（以上舊第四〇四、四〇六條修正）

第百十一條　第百九條第二項又ハ前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ第百八條又ハ第百九條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ前條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス（以上新規）

第百十二條　第百八條及ヒ第百九條第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス（舊第一一三修正）

第百十三條　第百八條又ハ第百九條第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得（新規）

第百十四條　火災ノ際鎭火用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎭火ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス（新規）

第百十五條　第百九條第一項及ヒ第百十條第一項ニ記載シタル物自己ノ所有ニ係ルト雖モ差押ヲ受ケ物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタルモノヲ燒燬シタルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル者ノ例ニ同シ（新規）

第百十六條　火ヲ失シテ第百八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物ヲ燒燬シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

失ヲ失シテ自己ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物又ハ第百十條ニ記載シタル物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ（以上舊第四〇九條修正）

第百十七條　火藥、汽罐其他激發ス可キ物ヲ破裂セシメテ第百八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ放火ノ例ニ同シ自己ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物又ハ第百十條ニ記載シタル物ヲ損壞シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

前項ノ行爲過失ニ出テタルトキハ失火ノ例ニ同シ（以上第四一〇條修正）

第百十八條　瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ノ生命、身體又ハ財産ニ危險ヲ生セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ヲ死傷ニ至シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス（以上新規）

第十章　溢水及ヒ水利ニ關スル罪

第百十九條　溢水セシメテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車若クハ鑛坑ヲ浸害シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス（舊第五一一條修正）

第百二十條　溢水セシメテ前條ニ記載シタル以外ノ物ヲ浸害シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

浸害シタル物自己ノ所有ニ係ルトキハ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタル場合ニ限リ前項ノ例ニ依ル（以上舊第四一一、四一二條修正）

第百二十一條　水害ノ際防水用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ水防ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス（新規）

第百二十二條　過失ニ因リ溢水セシメテ第十九條ニ記載シタル物ヲ浸害シタル者又ハ第百二十條ニ記載シタル物ヲ浸害シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス（舊第四一四第修正）

第百二十三條　堤防ヲ決潰シ水閘ヲ破壞シ其他水利ノ妨害ト爲ル可キ行爲又ハ溢水セシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ二百圓以下

ノ罰金ニ處ス（舊第四一三條修正）

第十一章　往來ヲ妨害スル罪

第百二十四條　陸路、水路又ハ橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シテ往來ノ妨害ヲ生セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス（舊第一六二、一六八條修正）

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス（新規）

第百二十五條　鐵道又ハ其標識ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ汽車又ハ電車ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ艦船ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ（以上舊第一六五、一六六條修正）

第百二十六條　人ノ現在スル汽車又ハ電車ヲ顚覆又ハ破壞シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

人ノ現在スル艦船ヲ覆沒又ハ破壞シタル者亦同シ

前二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス（以上舊四一五、四一六條修正）

第百二十七條　第百二十五條ノ罪ヲ犯シ因テ汽車又ハ電車ノ顚覆若クハ破壞又ハ艦船ノ覆沒若クハ破壞ヲ致シタル者亦前條ノ例ニ同シ（舊第一六九條修正）

第百二十八條　第百二十四條第一項、百二十五條及ヒ第百二十六條第一項、第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス（舊第一七〇條修正）

第百二十九條　過失ニ因リ汽車、電車又ハ艦船ノ往來ノ危險ヲ生セシメ又ハ汽車、電車ノ顚覆若クハ破壞ヲ致シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

其業務ニ從事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス（以上新規）

第十二章　住居ヲ侵ス罪

第百三十條　故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ艦船ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス（舊第一七一、一七二條修正）

第百三十一條　故ナク皇居、禁苑、離宮又ハ行在所ニ侵入シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ侵入シタル者亦同シ（舊第一七三條

修正）

第百三十二條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス（新規）

第十三章　秘密ヲ侵ス罪

第百三十三條　故ナク封緘シタル信書ヲ開披シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス（新規）

第百三十四條　醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得シタル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

宗教者クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキ亦同シ（舊第三六〇條修正）

第百三十五條　本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス（舊第三六一條修正）

第十四章　阿片煙ニ關スル罪

第百三十六條　阿片煙ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス（舊第二三七條修正）

第百三十七條　阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス（舊第二三八條修正）

第百三十八條　稅官吏阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ輸入シ又ハ其輸入ヲ許シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス（舊第二三九條修正）

第百三十九條　阿片煙ヲ吸食シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖リタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス（舊第二四〇、二四一條修正）

第百四十條　阿片煙又ハ阿片吸食ノ器具ヲ所持シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス（舊第二四二條修正）

第百四十一條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス（新規）

第十五章　飲料水ニ關スル罪

第百四十二條　人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以下

ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス（舊第二四三條修正）

第百四十三條　水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ヲ汚穢シ因テ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス（舊第二四三條修正）

第百四十四條　人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス（舊第二四四條修正）

第百四十五條　前三條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス（舊第二四五條修正）

第百四十六條　水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス（舊第二四五條修正）

第百四十七條　公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞又ハ塞塞シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス（新規）

第十六章　通貨僞造ノ罪

第百四十八條　行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ僞造又ハ變造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

僞造、變造ノ貨幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ（以上舊第一八二、一八四、一八五、一八九條修正）

第百四十九條　行使ノ目的ヲ以テ內國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ僞造又ハ變造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

僞造、變造ノ外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ（以上舊一八三、一八四、一八九條修正）

第百五十條　行使ノ目的ヲ以テ僞造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス（舊第一九〇條修正）

第百五十一條　前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス（舊第一八六條修正）

第百五十二條　貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル後其僞造又ハ變造ナルコトヲ知テ之ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シタル者ハ其名假三倍以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス、但一圓以下ニ降スコトヲ得ス（舊第一九三條修正）

第百五十七條　貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ僞造又ハ變造ノ用ニ供スル目的ヲ以テ器械又ハ原料ヲ準備シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス（舊第一八六條修正）

第十七章　文書僞造ノ罪

第百五十四條　行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽、若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ僞造シ又ハ僞造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ僞造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ變造シタル者亦同シ（以上舊第二〇二、一九五、一九七條修正）

第百五十五條　行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ僞造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ僞造シ又ハ公務所又ハ公務員ノ作リタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス（以上舊第二〇三、一九五、一九七條修正）

第百五十六條　公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虛僞ノ文書若クハ圖畫ヲ作リ又ハ文書若クハ圖畫ヲ變造シタルトキハ印章署名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル（舊第二〇五、二〇六條修正）

第百五十七條　公務員ニ對シ虛僞ノ申立ヲ爲シ權利、義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以上ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス（新規）

公務員ニ對シ虛僞ノ申立ヲ爲シ免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス（舊第二一四、二一三條修正）

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百五十八條　前四條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ僞造若クハ變造シ又ハ虛僞ノ文書若クハ圖畫ヲ作リ又ハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一ノ刑ニ處ス（舊第二〇二、二〇三、二〇四、二〇五、二〇六條修正）

前項ノ未遂罪ハ之ヲ處ス（舊第二一一條修正）

第百五十九條　行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ僞造シ又ハ僞造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ僞造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ僞造又ハ變造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス（以上舊第二〇九、二一〇、二〇八條修正）

第百六十條　醫師公務所ニ提出ス可キ診斷書、檢案書又ハ死亡證書ニ虛僞ノ記載ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス（舊第二一五條修正）

第百六十一條　前二條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ僞造若クハ變造シ又ハ虛僞ノ記載ヲ爲シタル者ト同一ノ刑ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス（以上舊第二〇九、二一〇、二一三、二一五、二〇八、二一一、二一六、二一七條修正）

第十八章　有價證券僞造ノ罪

第百六十二條　行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其他ノ有價證券ヲ僞造又ハ變造シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

行使ノ目的ヲ以テ有價證券ニ虚僞ノ記入ヲ爲シタル者亦同シ(以上舊第二〇四、二〇九條修正)

第百六十三條　僞造、變造ノ有價證券又ハ虚僞ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス(舊第二〇四、二〇九條修正)

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス(舊第二一一條修正)

第十九章　印章僞造ノ罪

第百六十四條　行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ僞造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シ又ハ僞造シタル御璽、國璽又ハ御名ヲ使用シタル者亦同シ(以上舊第一九四、一九七條修正)

第百六十五條　行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ僞造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ僞造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ(以上舊第一九五、一九七條修正)

第百六十六條　行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ僞造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シ又ハ僞造シタル公務所ノ記號ヲ使用シタル者亦同シ(以上舊第一九六、一九七條修正)

第百六十七條　行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ僞造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ僞造シタル印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ(以上舊第二〇八條修正)

第百六十八條　第百六十四條第二項、第百六十五條第二項、第百六十六條第二項及ヒ前條第二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス(舊第二〇〇、二一一條修正)

第二十章　僞證ノ罪

第百六十九條　法律ニ依リ宣誓シタル證人虚僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス(舊第二一八乃至二二三、四二五條第一四號修正)

第百七十條　前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得(舊第二二六條修正)

第百七十一條　法律ニ依リ宣誓シタル鑑定人又ハ通譯虚僞ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルトキハ前二條ノ例ニ同シ(舊第二二四條修正)

第二十一章　誣告ノ罪

第百七十二條　人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虚僞ノ申告ヲ爲シタル者ハ第百六十九條ノ例ニ同シ(舊第三五五、三五七、三六三條修正)

第百七十三條　前條ノ罪ヲ犯シタル者申告シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得(舊第三五六條修正)

第二十二章　猥褻、姦淫及ヒ重婚ノ罪

第百七十四條　公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス(舊第二五八條修正)

第百七十五條　猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物ヲ頒布若クハ販賣シ又ハ公然之ヲ陳列シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者亦同シ(舊第二五九條修正)

第百七十六條　十三歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル男女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同シ(舊第三四六、三四〇條修正)

第百七十七條　暴行又ハ脅迫ヲ以テ十三歳以上ノ婦女ヲ姦淫シタル者ハ强姦ノ罪ト爲シ二年以上ノ有期懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル婦女ヲ姦淫シタル者亦同シ(舊第三四八條修正)

第百七十八條　人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ之ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメテ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタル者ハ前二條ノ例ニ同シ(舊第三四九、三四八條修正)

第百七十九條　前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス(新規)

第百八十條　前四條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス(舊第三五〇條修正)

第百八十一條　第百七十六條乃至第百七十九條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ無期又ハ三年以上

ノ懲役ニ處ス（舊第三五一條修正）

第百八十二條 營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫ナラシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス（舊第三五二條修正）

第百八十三條 有夫ノ婦姦通シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相姦シタル者亦同シ

前項ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但本夫姦通ヲ縱容シタルトキハ告訴ノ效ナシ（以上舊第三五三條修正）

第百八十四條 配偶者アル者重ネテ婚姻ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相婚シタル者亦同シ（舊第三五四條修正）

第二十三章 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

第百八十五條 偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラス（舊第二六一條修正）

第百八十六條 常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

賭博場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス（以上舊第二六〇、二六一條修正）

第百八十七條 富籤ヲ發賣シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

富籤發賣ノ取次ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ外富籤ヲ授受シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス（以上舊第二六二條修正）

第二十四章 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪

第百八十八條 神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アリタル者ハ六月以下ノ處役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

說教、禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス（以上舊第二六三條修正）

第百八十九條 墳墓ヲ發掘シタル者ハ一年以下ノ懲役

ニ處ス（舊第二六五條修正）

第百九十條 死體、遺骨、遺髮又ハ棺內ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス（舊第二六四、三六六、四二一條修正）

第百九十一條 第百八十條ノ罪ヲ犯シ死體、遺骨、遺髮又ハ棺內ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス（舊第二六五、三六六、四二一條修正）

第百九十二條 檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス（舊第四二六條第九號修正）

第二十五章 瀆職ノ罪

第百九十三條 公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス（舊第二七六條修正）

第百九十四條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ懲ス（舊第二七八條修正

第百九十五條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職務ヲ行フニ當リ刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

法令ニ因リ拘禁セラルタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦同シ（以上舊第二八二、二八〇條修正）

第百九十六條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス（舊第二八〇、二八二條修正）

第百九十七條 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徵ス（以上舊第二八四、二八五、二八六、二八八條修正）

第百九十八條　公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得（以上新規）

第二十六章　殺人ノ罪

第百九十九條　人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス（舊第二八四、二八五、二八六、二八八條修正）

第二百條　自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス（舊第三六條修正）

第二百一條　前二條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得（新規）

第二百二條　人ヲ教唆若クハ幇助シテ自殺セシメ又ハ被殺者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス（舊第三二〇、三二一、三六二條修正）

第二百三條　第九十九條、第二百條及ヒ前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス（舊第一一三條修正）

第二十七章　傷害ノ罪

第二百四條　人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス（舊第三〇〇乃至三〇四、三〇七、三〇八條修正）

第二百五條　身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス（以上舊第二九九、三六三條修正）

第二百六條　前二條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勢ヲ助ケタル者ハ自ラ人ヲ傷害セスト雖モ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス（舊第三〇六條修正）

第二百七條　二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサルトキハ共同者ニ非スト雖モ共犯ノ例ニ依ル（舊第三〇五條修正）

第二百八條　暴行ヲ加ヘタル者人ヲ傷害スルニ至ラサルトキハ一年以下ノ懲役若クハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若クハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス（以上舊第四二條修正）

第二十八章　過失傷害ノ罪

第二百九條　過失ニ因リ人ヲ傷害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス（以上舊第三一八、三一九條修正）

第二百十條　過失ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス（舊第三一七條修正）

第二百十一條　業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス（新規）

第二十九章　墮胎ノ罪

第二百十二條　懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス（舊第三三〇條修正）

第二百十三條　婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十四條　醫師、産婆、藥劑師又ハ藥種商婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス（舊第三三二條修正）

第二百十五條　婦女ノ囑託ヲ受ケス又ハ其承諾ヲ得スシテ墮胎セシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ未遂ハ罪之ヲ罰ス（以上舊第三三三、三三四條修正）

第二百十六條　前條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス（舊第三三五條修正）

第三十章　遺棄ノ罪

第二百十七條　老、幼、不具又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可キ者ヲ遺棄シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス（舊第三三六、三三七條修正）

第二百十八條　老者、幼者、不具者又ハ病者ヲ保護ス可キ責任アル者之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲サザルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス（舊第三三條修正）

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス（舊第三六八條修正）

第二百十九條　前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス（舊第三三九條修正）

第三十一章　逮捕及ヒ監禁ノ罪

第二百二十條　不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス（舊第三二二、三二三條修正）

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス（舊第三六三條修正）

第二百二十一條　前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス（舊第三二四條修正）

第三十二章　脅迫ノ罪

第二百二十二條　生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シタル者亦同シ（以上舊第三二六、三二七、三二八、三六三、三二九條修正）

第二百二十三條　生命、身體、自由、名譽若クハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ又ハ暴行ヲ用ヒ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽、又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者亦同シ

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス（以上新規）

第三十三章　略取及ヒ誘拐ノ罪

第二百二十四條　未成年者ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス（舊第三四一、三四二條修正）

第二百二十五條　營利、猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十六條　帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シ又ハ被拐取者若クハ被賣者ヲ帝國外ニ移送シタル者亦同シ（以上舊第三四五條修正）

第二百二十七條　前三條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幇助スル目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受若クハ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス（以上舊第三四三條修正）

第二百二十八條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス（舊第一一二條修正）

第二百二十九條　第二百二十六條ノ罪、同條ノ罪ヲ幇助スル目的ヲ以テ犯シタル第二百二十七條第一項ノ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪ヲ除ク外本章ノ罪ハ營利ノ目的ニ出テサル場合ニ限リ告訴ヲ待テ之ヲ論ス、但被拐取者又ハ被賣者犯人ト婚姻ヲ爲シタルトキハ婚姻ノ無效又ハ取消ノ裁判確定後ニ非サレハ告訴ノ效ナシ（舊第三四四條修正）

第三十四章　名譽ニ對スル罪

第二百三十條　公然事實ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ其事實ノ有罪ヲ問ハス一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス（舊第三五八、三六三條修正）

死者ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ誣罔ニ出ツルニ非サレハ之ヲ罰セス（舊第三五九條修正）

第二百三十一條　事實ヲ摘示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス（舊第四二六條一二號一四一條修正）

第二百三十二條　本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス（舊第三六一條修正）

第三十五章　信用及ヒ業務ニ對スル罪

第二百三十三條　虛僞ノ風說ヲ流布シ又ハ僞計ヲ用ヒ人ノ信用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以上ノ罰金ニ處ス（舊第二六七乃至二七二條修正）

第二百三十四條　威力ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタル者亦前條ノ例ニ同シ（舊第二六七乃至二七一條修正）

第三十六章　竊盜及ヒ强盜ノ罪

第二百三十五條　他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス（舊第三六六乃至三七〇、三七二、三七三、三七四條及二三年法律第九九號修正）

第二百三十六條　暴行又ハ脅迫ヲ以テ他人ノ財物ヲ强取シタル者ハ强盜ノ罪ト爲シ五年以上ノ有期懲役ニ處ス（舊第三七八、三七九條修正）

前項ノ方法ヲ以テ財產上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ（新規）

第二百三十七條　强盜ノ目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス（新規）

第二百三十八條　竊盜財物ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ强盜ヲ以テ論ス（舊第三八二條修正）

第二百三十九條　人ヲ昏醉セシメテ其財物ヲ盜取シタル者ハ强盜ヲ以テ論ス（舊第三八三條修正）

第二百四十條　强盜人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス

死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス（以上舊第三八〇條修正）

第二百四十一條　强盜婦女ヲ强姦シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス（舊第三八一條修正）

第二百四十二條　自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ本章ノ罪ニ付テハ他人ノ財物ト看做ス（舊第三七一條修正）

第二百四十三條　第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條乃至第二百四十一條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス（舊第三七五條修正）

第二百四十四條　直系血族、配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族ノ間ニ於テ第二百三十五條ノ罪及ヒ其未遂罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除シ其他ノ親族又ハ家族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス（以上舊第三七七條修正）

第二百四十五條　本章ノ罪ニ付テハ電氣ハ之ヲ財物ト看做ス（新規）

第三十七章　詐欺及ヒ恐喝ノ罪

第二百四十六條　人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス（舊第三九〇條修正）

前項ノ方法ヲ以テ財產上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ（新規）

第二百四十七條　他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財產上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス（新規）

第二百四十八條　未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ乘シテ其財物ヲ交付セシメ又ハ財產上不法ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス（舊第三九一條修正）

第二百四十九條　人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス（舊第三九〇條修正）

前項ノ方法ヲ以テ財產上不利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ（新規）

第二百五十條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス（舊第三九七條修正）

第二百五十一條　本章ノ罪ニハ第二百四十二條、第二百四十四條及ヒ第二百四十五條ノ規定ヲ準用ス（舊第三九八條修正）

第三十八章　横領ノ罪

第二百五十二條　自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ横領シタル者亦同シ（以上舊第三九五、三九六條修正）

第二百五十三條　業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス（舊第

三九五、二八九條修正）

第二百五十四條　遺失物、漂流物其他ノ占有ヲ離レタル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス（舊第三八五、三八六條、遺失物法修正）

第二百五十五條　本章ノ罪ニハ第二百四十四條ノ規定ヲ準用ス（舊第三九八條修正）

第三十九章　贓物ニ關スル罪

第二百五十六條　贓物ヲ收受シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

贓物ノ運搬、寄贓、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役及ヒ千圓以下ノ罰金ニ處ス（以上舊第三九九、四〇一條修正）

第二百五十七條　直系血族、配偶者、同居ノ親族又ハ家族及ヒ此等ノ者ノ配偶者ノ間ニ於テ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除ス

親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス（以上新規）

第四十章　毀棄及ヒ隱匿ノ罪

第二百五十八條　公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ三月以上七年以下ノ懲役ニ處ス（舊第二〇二、二〇三、二〇五條修正）

第二百五十九條　權利、義務ニ關スル他人ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス（舊第四二四條修正）

第二百六十條　他人ノ建造物又ハ艦船ヲ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス（舊第四一七條修正）

第二百六十一條　前三條ニ記載シタル以外ノ物ヲ損壞又ハ傷害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス（舊第四一八乃至四二三條修正）

第二百六十二條　自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ貸貸シタルモノヲ損壞又ハ傷害シタルトキハ前三條ノ例ニ依ル（新規）

第二百六十三條　他人ノ信書ヲ隱匿シタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス（新規）

第二百六十四條　第二百五十九條、第二百六十一條及ヒ前條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス（新規）

刑法施行法

第一條　本法ニ於テ舊刑法ト稱スルハ明治十三年第三十六號布告刑法ヲ謂ヒ他ノ法律ト稱スルハ刑法施行前ニ公布シタル法律及勅令、布告ニシテ法律ト同一ノ效力ヲ有スルモノヲ謂フ

第二條　刑法施行前ニ舊刑法ノ罪又ハ他ノ法律ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ左ノ例ニ從ヒ刑法ノ主刑ト舊刑法ノ主刑トヲ對照シ刑法第十條ノ規定ニ依リ其輕重ヲ定ム

刑法ノ刑	舊刑法ノ刑
死刑	死刑
無期懲役	無期徒刑
無期禁錮	無期流刑
有期懲役	有期徒刑、重懲役、輕懲役、重禁錮
有期禁錮	有期流刑、重禁獄、輕禁獄、輕禁錮
罰金	罰金
拘留	拘留
科料	科料

第三條　法律ニ依リ刑ヲ加重減輕ス可キトキ又ハ酌量減輕ヲ爲ス可キトキハ加重又ハ減輕ヲ爲シタル後刑ノ對照ヲ爲ス可シ

數罪ヲ犯シタル者ニ付テハ併合罪又ハ數罪俱發ニ關スル規定ヲ適用シタル後刑ノ對照ヲ爲ス可シ

一罪ニ付キ二個以上ノ主刑ヲ併科ス可キトキ又ハ二個以上ノ主刑中其一個ヲ科ス可キトキハ其中ニテ重キ刑ノミニ付對照ヲ爲ス可シ併合罪又ハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ數罪ノ主刑ヲ併科ス可キトキ亦同シ

第四條　刑法施行前舊刑法又ハ他ノ法律ノ規定ニ依リ告訴ヲ待テ論ス可キ罪ヲ罰シタル者ハ刑法ノ規定ニ依リ告訴ヲ要セサルモノト雖モ告訴アルニ非サレハ其罪ヲ論セス

第五條 刑法第六條ニ依リ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スル場合ニ於テハ剝奪公權、停止公權監視又ハ罰金ヲ附加ス可キトキト雖モ之ヲ附加セス

第六條 刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付刑法施行ノ前又ハ後ニ確定裁判アリタル後刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ左ノ例ニ依ル

一 確定裁判アリタル罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ其罪ト餘罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

二 確定裁判アリタル罪ニ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ヲ適用シタルトキト雖モ舊刑法又ハ他ノ法律ニ於テハ其罪ト餘罪トニ付キ數罪俱發スル規定ニ依ル

第七條 左ニ記載シタル者刑法施行前更ニ刑法ノ有期懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ヲ犯シ刑法施行後其罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

一 舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ處セラレタル者

二 刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレ其執行ノ免除ヲ得又ハ減刑ニ因リ懲役ニ相當スル刑ヲ減輕セラレタル者

刑法第五十六條第三項ノ規定ハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ處斷セラレタル者ニ之ヲ準用ス

第八條 刑法施行前ニ犯シタル一罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キトキト雖モ其罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第九條 刑法施行前ニ犯シタル數罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キトキハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リテ定マリタル一ノ重キ罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ刑法施行前ノ罪ニ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ヲ適用ス可キトキハ其數罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十條 刑法施行後ニ犯シタル罪ニ付キ確定裁判アリタル後刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ其罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ニ適用シタルトキト雖モ確定裁判アリタル罪ト其罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十一條 刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行後確定裁判アリタル後刑法施行後ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ確定裁判アリタル罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ其罪ト餘罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十二條 第七條第一項各號ニ記載シタル者刑法施行後有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタルトキハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

第七條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三條 刑法施行後ハ舊刑法又ハ舊刑法施行前ノ法令ノ刑ニ處セラレタル者雖トモ刑ノ執行、假出獄及

刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ヲ適用ス可キトキハ其數罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數刑トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ適用ス

第十條 刑法施行後ニ犯シタル罪ニ付キ確定裁判アリタル後刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ其罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ニ適用シタルトキト雖モ確定裁判アリタル罪ト其罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十一條 刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行後確定裁判アリタル後刑法施行後ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ確定裁判アリタル罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ其罪ト餘罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十二條 第七條第一項各號ニ記載シタル者刑法施行後有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタルトキハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

第七條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三條 刑法施行後ハ舊刑法又ハ舊刑法施行前ノ法令ノ刑ニ處セラレタル者雖トモ刑ノ執行、假出獄及ヒ時效ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス但罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル者ヲ勞役場ニ留置スル場合ニ於テハ檢事ノ請求ニ依リ裁判所決定ヲ以テ其言渡ヲ爲ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ第二條及ヒ明治十四年第八十一號布告第一條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲ス可シ

舊刑法ノ刑ニ處セラレタル者ノ刑法施行前ニ於ケル時效期間ノ起算及ヒ時效ノ中斷ニ付テハ期滿免除ニ關スル規定ニ從フ

第十四條 刑法施行後ハ舊刑法ノ刑ニ處ス可キ者ト雖モ刑ノ執行猶豫ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ第二條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲ス可シ

第十五條 刑法施行前假出獄ヲ許サレタル者及ヒ幽閉ヲ免セラレタル者ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法ノ假出獄ニ關スル規定ヲ準用ス

刑法施行前罰金又ハ科料ヲ納完セサル爲メ輕禁錮又ハ拘留ニ換ヘラレタル者ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法第十八條及ヒ第三十條ノ規定ヲ準用ス但留置ノ

日數ハ其執行ノ日ヨリ起算シ刑法第十八條ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條 懲治場留置ノ執行ハ刑法施行後ト雖モ從前ノ例ニ從フ但司法大臣ハ何時ニテモ其留置ヲ解キ又ハ感化院ニ入院セシムルコトヲ得

第十七條 闕席判決ヲ以テ言渡シタル刑ノ時效期間ハ其言渡ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第十八條 剝奪公權、停止公權、監視及附加ノ罰金ノ言渡ハ刑法施行ノ日ヨリ其效力ヲ失フ但既ニ懲收シタル附加ノ罰金ハ之ヲ還付セス

附加ノ罰金ヲ納完セサル爲メ換ヘラレタル禁錮ニ付キ亦前項ニ同シ

第十九條 他ノ法律ニ定メタル主刑ハ第二條ノ例ニ準シ刑法ノ刑ニ對照シテ之ヲ刑法ノ刑名ニ變更ス但單ニ禁錮トアルハ之ヲ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ變更ス他ノ法律ノ規定中剝奪公權、停止公權、監視及ヒ附加ノ罰金ニ處ス可キ旨ニ定メタルモノハ之ヲ廢止ス

第二十條 他ノ法律ニ定メタル刑ニ付テハ其期間又ハ金額ヲ變更セス但他ノ法律中特ニ期間又ハ金額ヲ定メサル刑ニ付テハ仍ホ舊刑法總則中期間又ハ金額ニ關スル規定ニ從フ

第二十一條 他ノ法律ニ定メタル刑ヲ加重又ハ減輕ス可キ場合ニ於テハ第二十三條ノ場合ヲ外ク外舊刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ依ル

第二十二條 他ノ法律中舊刑法ノ規定ヲ揭ケ又ハ舊刑法ノ規定ニ依リ若クハ之ニ依ラサルコトヲ定メタル場合ニ付刑法中其規定ニ相當スル規定アルモノハ刑法ノ規定ニ變更ス

爆發物取締罰則第十條ハ之ヲ廢止ス

第二十三條 前條ノ規定ニ依リ刑法ノ刑ヲ適用ス可キ場合ニ於テハ他ノ法律中刑ノ加重ニ關スル特別ノ規定ハ之ヲ適用セス刑ノ減輕ノ方法ニ付テハ刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ從フ

第二十四條 明治二十二年法律第二十八號及ヒ明治二十三年法律第九十九號ハ之ヲ廢止ス

第二十五條 左ニ記載シタル舊刑法ノ規定ハ當分ノ内刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有ス

一 第二編第三章第五節

二 第百九十八條乃至第二百條

三 第二編第四章第七節及ヒ第九節

四 第二編第五章第三節

五 第三編第二章第四節

刑法第八條ノ規定及ヒ本法中他ノ法律ニ關スル規定ハ之ヲ前項ノ規定ニ準用ス

第二十六條 左ニ記載シタル罪ハ刑法第二條ノ例ニ從フ

一 軍機保護法ニ揭ケタル罪

二 徵兵令ニ揭ケタル罪

三 明治三十八年法律第六十六號ニ揭ケタル罪

四 通貨及證券模造取締法ニ揭ケタル罪

五 船舶法ニ揭ケタル罪

六 船員法ニ揭ケタル罪

七 船舶職員法ニ揭ケタル罪

八 船舶檢査法ニ揭ケタル罪

九 戸籍法ニ揭ケタル罪

十 郵便法ニ揭ケタル罪

十一 舊刑法中印紙ノ僞造、變造及ヒ其知情使用ニ關スル罪

第二十七條 左ニ記載シタル罪ハ刑法第三條ノ例ニ從フ

一 葛作權ニ揭ケタル罪

二 重要物產同業法ニ揭ケタル罪

三 移民保護ニ揭ケタル罪

第二十八條 人ノ資格其他ノ事項ニ關シ舊刑法ノ刑名又ハ罪別ヲ揭ケタル法律ノ規定ハ刑法施ノ爲メ讀更セラルルコトナシ

第二十九條 死刑、無期又ハ短期一年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ト看做ス

條三十條 前條ニ該當セサル懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ト看做ス

前項ニ該當セサル懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ禁錮ニ該ル罪ト看做ス

前條ニ該當セサル懲役ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重禁錮ニ該ル罪ト看做ス

前項ニ該當セサル禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕禁錮ニ該ル罪ト看做ス

第三十一條 拘留又ハ科料ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ違警罪ト看做ス

第三十二條 他ノ法律ニ定メタル罪ニシテ死刑、無期又ハ短期六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ルモノノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三十三條 死刑、無期又ハ六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス

第三十四條 前條ニ記載シタル者及ヒ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ公權ヲ剝奪セラレタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ復權ヲ得タルノニハ之ヲ適用セス

第三十五條 六年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス

六年未滿ノ懲役ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重禁錮ニ處セラレタルモノト看做ス

六年未滿ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕禁錮ニ處セラレタルモノト看做ス

第三十六條 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者及ヒ舊刑法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其執行ヲ受クルコトナキニ至ルマテ公權ヲ停止セラレタルモノト看做ス

第三十七條 他ノ法律中舊刑法第三十一條又ハ第三十三條ノ規定アル爲メ人ノ資格ニ關シ別段ノ規定ヲ設ケサリシ場合ニ付テハ舊刑法第三十一條及ヒ第三十三條ノ規定ハ人ノ資格ニ關シ刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有ス

第三十八條 刑事訴訟法第八條ヲ左ノ如ク改ム

第八條 公訴ノ時效ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因テ完成ス

一 死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年

二 無期又ハ長期十年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ

該ル罪ニ付テハ十年

三 長期十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七年

四 長期五年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年

五 刑法第百八十五條ノ罪ニ付テハ一年

六 拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付テハ六月

第三十九條 刑事訴訟法第六十二條第三號ヲ左ノ如ク改ム

第三 區裁判所ノ管轄ニ屬スル罪ト思料シタル事件ニ付テハ證據書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ區裁判所檢事ニ送致ス可シ

第四十條 刑事訴訟法第百二十五條第二號ヲ左ノ如ク改ム

第二 醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者及ヒ宗教若クハ祭祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル事實ニシテ默祕ス可キモノニ關スルトキ

刑法施行法

第四十一條 刑事訴訟法第百二十六條第一項中「刑法第百八十條ニ從ヒ罰金」ヲ「四十圓以下ノ罰金又ハ科料」ニ改メ同條第二項中「罰金」ヲ「罰金又ハ科料」ニ改ム

同法第百三十八條中「刑法第百七十九條ニ從ヒ罰金」ヲ「四十圓以下ノ罰金又ハ科料」ニ改ム

同法第百四十四條第一項中「罰金」ヲ「罰金又ハ科料」ニ改ム

第四十二條 刑事訴訟法第百六十七條第一項ヲ左ノ如ク改メ第三項ヲ削ル

被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト思料シタルトキハ公判ニ付スル言渡ヲ爲ス可シ

第四十三條 刑事訴訟法第百七十二條ヲ左ノ如ク改ム

第百七十二條 檢事ハ免訴又ハ管轄違ノ決定ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 刑事訴訟法第二百三十六條中「輕罪、重罪ノ」ヲ削ル

第四十五條 刑事訴訟法第二百四十一條ヲ左ノ左ク改ム

第二百四十一條　裁判所ニ於テ輕罪トシテ受理シタル事件ヲ重罪ナリトスルトキハ其事件ヲ豫審判事ニ送付スル決定ヲ爲ス可シ檢事ノ請求アルトキ亦同シ

被告事件豫審ヲ經タルトキハ公判ヲ止メ受命判事ヲシテ其事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシムヘシ

受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得

第四十六條　刑事訴訟法第二百六十四條中「更ニ重罪事件トシテ裁判ス可キ旨ノ決定ヲ爲シ」ヲ削ル

第四十七條　刑事訴訟法第三百十七條ニ左ノ一項ヲ加フ

監獄ニ於テ執行ス可キ二個以上ノ主刑ノ執行ハ其重キモノヲ先ニス但特別ノ事由アルトキハ檢事ハ重キ刑ノ執行ヲ停止シ他ノ刑ノ執行ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十八條　刑事訴訟法三百十八條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ

第三百十八條ノ二　死刑ノ執行ハ檢事及ヒ裁判所書記ノ立會ニテ之ヲ爲ス可シ

死刑ノ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルコトヲ得ス但檢事又ハ監獄ノ長ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

第百十八條ノ三　死刑ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失シタルトキハ司法大臣ノ命令ニ因リ其痊癒ニ至ルマテ執行ヲ停止ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル婦女懷胎ナルトキハ分娩後司法大臣ノ命令アルニ非サレハ執行ヲ爲スコトヲ得ス

第四十九條　刑事訴訟法第三十九條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其事故ノ止ムマテ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

一　心神喪失ノ狀態ニ在ルトキ

二　刑ノ執行ニ因リ生命ヲ保ツコト能ハサル虞アルトキ

三　受胎後七月以上ナルトキ

四　分娩後一月ヲ經過セサルトキ

第五十條　刑事訴訟法第三百二十條中「之ヲ爲ス可シ」ノ下ニ「刑ノ執行ノ停止ニ付キ亦同シ」ヲ加ヘ第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ徵收ニ付テハ非訟事件手續法第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第五十一條　刑事訴訟法第二十四條、第六十三條、第百六十八條、第百七十三條及ヒ第百七十四條但書ハ之ヲ削ル

第五十二條　刑事訴訟法中復權及ヒ特赦ニ關スル規定ハ之ヲ削ル

第五十三條　刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ム可キ場合ニ於テハ其犯罪事實ニ付キ最終ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ檢事其裁判所ニ請求ヲ爲ス可シ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲ス可シ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

刑法施行法

第五十四條　刑ノ執行猶豫ハ裁判所ニ於テ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ言渡ト同時ニ判決ヲ以テ之ヲ言渡ス可シ

第五十五條　刑ノ執行猶豫ノ言渡ハ上訴ニ因リ其效力ヲ失フコトナシ但原判決ヲ取消シ又ハ破毀シタル場合ハ此限ニ在ラス

上訴裁判所ハ新ニ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スコトヲ得

第五十六條　刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可キ場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地又ハ最後ノ住所ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事其裁判所ニ請求ヲ爲ス可シ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲ス可シ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十七條　第五十三條及ヒ前條ノ裁判及ヒ抗告ニ付テハ刑事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

第五十八條　明治三十八年法律第七十號ニ依リ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケ仍ホ猶豫ノ期間ヲ經過セサル者ハ刑法ニ依リ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルモノト

看做ス

第五十九條 明治三十九年法律第五十四號ハ之ヲ廢止ス

第六十條 私訴ハ公訴ニ附帶スルトキハ民事訴訟ノ方式ニ依ラス又書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第六十一條 贓物犯人ノ手ニアルトキハ被害者ノ請求ナシト雖モ之ヲ還付スル言渡ヲ爲ス可シ

第六十二條 左ニ記載シタルモノヲ以テ公訴ニ關スル訴訟費用トス

一 豫審、公判ニ付キ呼出シタル證人、鑑定人及ヒ通事ノ日當、旅費及ヒ止宿料

二 第六十六條ニ記載シタル費用

第六十三條 證人、鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ左ノ範圍內ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム

一 證人ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金二十錢乃至金五十錢但止宿料ヲ給與スル場合ニ於テハ日當ヲ與給セス

二 鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金三十錢乃至金五圓

第六十四條 證人、鑑定人及ヒ通事ノ旅費ハ海陸路一里ニ付キ金五錢乃至金二十錢ノ範圍內ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム但通路兩線以上アルトキハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス

前項ニ揭ケタル者ノ止宿料ハ一日ニ付キ金二十錢乃至金一圓ノ範圍內ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム但八里以上ノ地ヨリ來リ滯在スルトキニ非サレハ之ヲ給與セス

第六十五條 證人、鑑定人及ヒ通事ノ日當、旅費及ヒ止宿料ハ豫審ニ於テハ其終結前、公判ニ於テハ其判決前ニ本人ヨリ請求スルニ非サレハ之ヲ給與セス

第六十六條 鑑定、通譯ニ付キ數多ノ時間又ハ特別ノ技能若クハ費用ヲ要スルトキハ日當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給與スルコトヲ得

第六十七條 共犯ノ訴訟費用ハ共犯人ノ連帶負擔トス

附 則

本法ハ刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

刑法附則其他舊刑法施行ノ爲メ公布シタル法令ハ之ヲ廢止ス

●印紙犯罪處罰法

（明治四十二年四月二十七日 法律第三十九號）

第一條 行使ノ目的ヲ以テ帝國政府ノ發行スル印紙又ハ印紙金額ヲ表彰スヘキ印章ヲ僞造又ハ變造シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス行使ノ目的ヲ以テ印紙ノ消印ヲ除去シタル者亦同シ

第二條 僞造、變造ノ印紙、印紙金額ヲ表彰スヘキ印章若ハ消印ヲ除去シタル印紙ヲ使用シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ、輸入シ若ハ移入シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス印紙金額ヲ表彰スヘキ印章ヲ不正ニ使用シタル者亦同シ前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三條 帝國政府ノ發行スル印紙其他印紙金額ヲ表彰スヘキ證票ヲ再ヒ使用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ第一條又ハ第二條ノ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

第五條 僞造、變造ノ印紙、印紙金額ヲ表彰スヘキ印章又ハ消印ヲ除去シタル印紙ハ裁判ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス行政ノ處分ヲ以テ之ヲ官沒ス

官沒ニ關スル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

刑法施行法第二十五條第一項第二號及第二十六條第十一號ハ之ヲ削ル

●刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件

（明治四十一年九月二十二日 勅令第二百十七號）

旧刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

刑法施行法中他ノ法律ニ關スル規定ハ刑法施行前ニ公布シタル命令ニ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年勅令第百五十五號ハ之ヲ廢止ス

明治四十四年九月十日印刷
明治四十四年九月十五日發行

編纂者　梶康郎　東京市淺草區永住町百廿六番地
發行者　吉田由太郎　東京市神田區今川小路二丁目十七番地
印刷者　今成溫平　東京市神田區表神保町十番地
印刷所　同所　今成活版所

發行所　東京市神田區今川小路貳丁拾七
振替貯金口座一七九六二　法曹閣書院

法曹閣書院發行書目

書目	定價送料及紙數
四版 法理圖解 刑法論綱	上製壹圓五拾錢並製壹圓貳拾錢 送料拾貳錢 紙數菊版六號活字五百餘頁
初版 法理圖解 憲法論綱	上製壹圓五拾錢並製壹圓貳拾錢 送料拾貳錢 紙數菊版六號活字四百餘頁
五版 行政法理研究書	定價貳圓參拾錢 送料拾五錢 紙數菊版五號六號活字九百餘頁
三版 刑法原理研究書	定價參圓 送料拾五錢 紙數菊版五號六號活字八百餘頁
五版 警察犯處罰令要論	上製八拾錢並製六拾五錢 送料八錢 紙數菊版五號活字三百餘頁
新刊 法理問答 刑法研究書	上製六拾五錢並製五拾錢 送料拾錢 紙數四六版六號三百五十餘頁
次刊 法理問答 憲法研究書	上製六拾五錢並製五拾錢 送料拾錢 紙數拾錢

御注文の節は振替口座を御利用下さるゝを以て相互の便宜と致し候

神田區今川小路二丁目十七番地
振替口座第一七九六二番

68
557

法曹閣書院發行書目

高等法律問答全書

新刊 法理問答 刑法研究書 全一冊

次刊 法理問答 憲法研究書 全一冊

近刊 法理問答 行政法研究書 全一冊

豫告 法理問答 警察法研究書 全二冊

豫告 法理問答 民法研究書 全三冊

豫告 法理問答 商法研究書 全二冊

豫告 法理問答 刑事訴訟法研究書 全一冊

豫告 法理問答 民事訴訟法研究書 全一冊

豫告 法理問答 國際公法研究書 全一冊

豫告 法理問答 國際私法研究書 全一冊

豫告 法理問答 自治制研究書 全一冊

既刊書目

行政法理研究書 全一冊

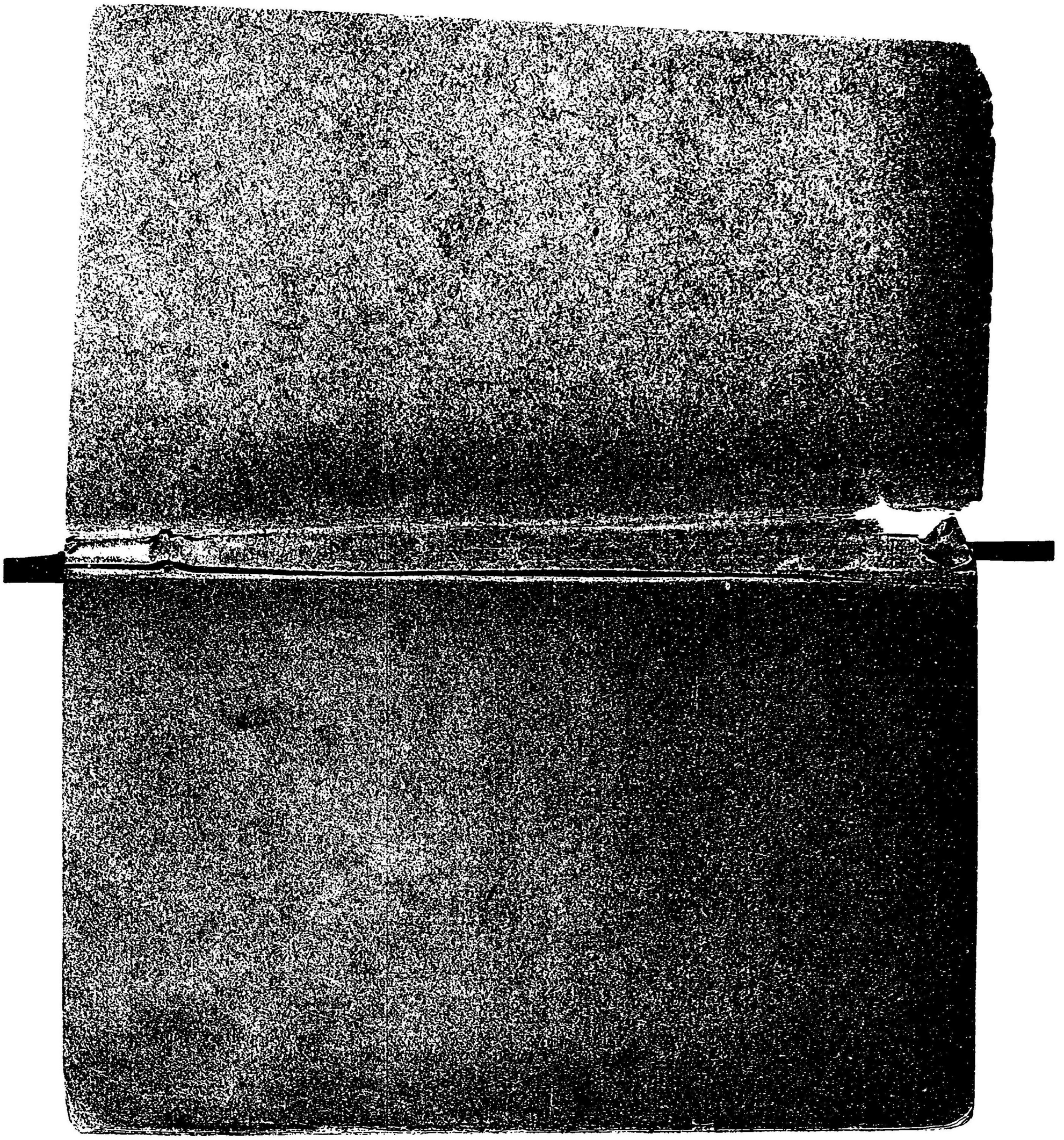
刑法原理研究書 全一冊

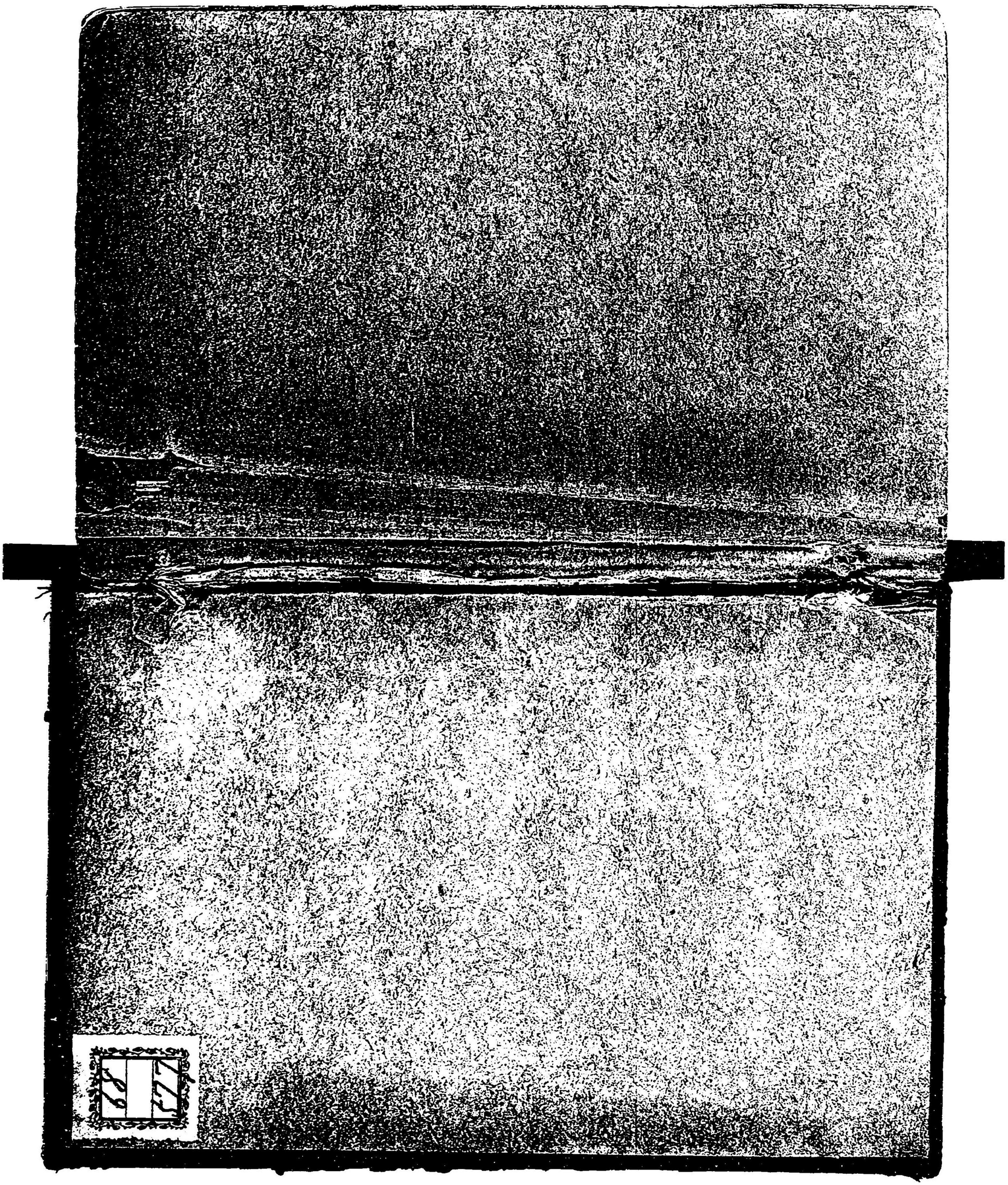
法理圖解 刑法論綱 全一冊

法理圖解 憲法論綱 全一冊

警察犯處罰令要論 全一冊

東京市神田區今川小路二丁目十七番地
法曹閣書院
振替口座一七九六二番





68
577

035702-000-7

68-577

刑法研究書（法理問答）

梶　康郎／編

M44

BBP-0272